

**男女共同参画に関するアンケート調査  
報告書**

**令和2年3月**

**福生市**



# 目次

---

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査の目的 .....	1
2. 調査設計 .....	1
3. 回収結果 .....	1
4. 報告書を見る際の留意点 .....	1
<b>II 調査の結果</b> .....	<b>3</b>
1. 結婚・家庭について .....	3
2. 地域・社会参加について .....	29
3. 職業について .....	45
4. 介護・定年後について .....	60
5. 健康（性の権利・考え方）について .....	64
6. 教育について .....	66
7. 男女の人権について .....	70
8. 男女共同参画社会の形成について .....	78
9. ご自身やご家族について .....	97
10. 自由回答について .....	106
<b>III 調査のまとめ</b> .....	<b>114</b>
1. 男女共同参画社会形成への意識づくり .....	114
2. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進 .....	116
3. あらゆる暴力の根絶 .....	117
4. あらゆる分野における男女共同参画の推進 .....	118
<b>IV 調査票</b> .....	<b>119</b>



# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査は、福生市男女共同参画行動計画（第5期）の計画期間が令和2年度に満了するため、新たな計画の策定に向け、男女平等に関する市民の意識の変化を把握し、今後の男女共同参画施策に反映させることを目的として実施しました。

## 2. 調査設計

- 調査地域：福生市全域
- 調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した市内在住の20歳以上の男女2,000人
- 調査期間：令和元年10月21日～令和元年11月5日
- 調査方法：郵送配布・郵送回収による調査

## 3. 回収結果

配布数	回収数	回収率
2,000	521	26.1%

## 4. 報告書を見る際の留意点

- 回答結果の割合（％）はサンプル数（集計対象者総数）に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフ及び表のn数（number of case）は、サンプル数（集計対象者総数あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人数）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- 本報告書内で示す“前回”は、平成26年に市が実施した「男女共同参画に関するアンケート調査」（配布：2,000人、回収率：29.0%）です。また、“国”は内閣府が平成26年に実施した「女性の活躍推進に関する世論調査」と令和元年に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」、「都」は平成27年に東京都が実施した「男女平等参画に関する世論調査」です。

## <市民意識調査結果の誤差について>

今回の調査は、調査対象となる母集団（市内在住の20歳以上の男女）から一部（2,000人）を抽出した標本調査です。この調査から得られた結果は母集団の結果から抽出したデータであるため、母集団に対して若干の誤差が生じているとされています。

今回得られたデータと母集団との誤差については、母集団比率の推定において信頼度を95%として標準誤差を算出しており、次の式によって算出されます。設問における回答比率が50%の時に標準誤差は最大となりますが、今回の調査結果では、回答比率が50%の時の標準誤差は±4.27%となっております。

### ■算出式

$$\text{標準誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N：母集団数（福生市全体の20歳以上の人口）    n：標本数（実際の回答数）    P：回答の比率

N=49,219、n=521で算出した結果 ±4.27%

※Nは令和元年10月1日現在（住民基本台帳より）

### 【標準誤差について】

母集団から、2,000人を抽出した調査結果を、その母集団に戻した時にどれほどの誤差が生じる可能性があるかを、信頼度95%でみます。

※この信頼度95%とは、「100回行えば95回は同じ結果となる（5回は異なる結果となる）」という意味です。統計学では、特殊な場合を除き、一般的には信頼度を95%と設定して誤差を算出します。

これにより算出された誤差は以下のとおりです。（N=49,219、n=521で算出）

※Nは令和元年10月1日現在（住民基本台帳より）

回答の比率	99%または 1%前後	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%または 50%前後
標準誤差	±0.85%	±2.56%	±3.42%	±3.91%	±4.18%	±4.27%

見方について上表を例にすると、一つの選択肢に対し、「回答率が10%（もしくは90%）であった場合、その回答率の母集団に対する誤差の範囲は最高で±2.56%である」とみます。つまり、母集団に置き換えると、回答率は7.44%～12.56%（87.44%～92.56%）になるといえます。

## II 調査の結果

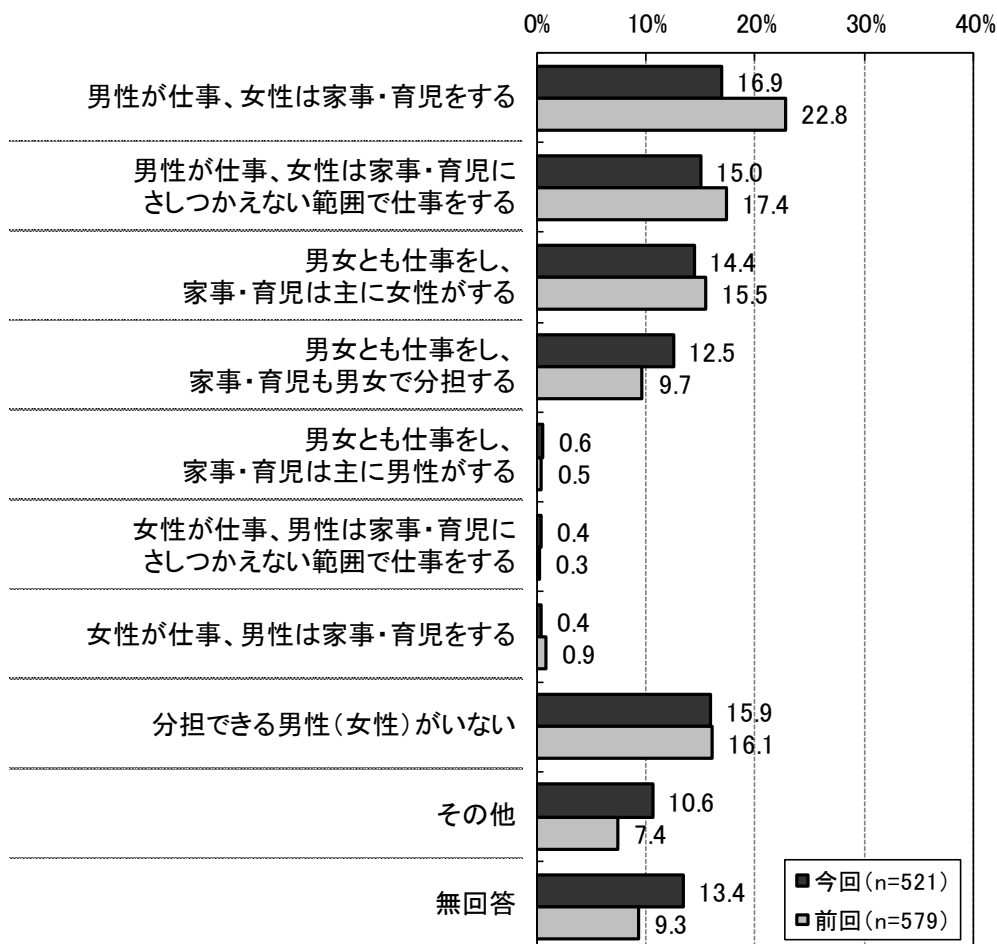
### 1. 結婚・家庭について

問1 家庭における男女の役割分担について、①あなたの現状 と ②本来どうあるべきか(理想) をお選びください。(①と②それぞれ〇は1つ)

#### ■①現状

家庭における男女の役割分担の現状については、「男性が仕事、女性は家事・育児をする」が16.9%で最も高く、次いで「分担できる男性(女性)がいない」が15.9%、「男性が仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」が15.0%となっています。

前回調査と比較すると、「男性が仕事、女性は家事・育児をする」は5.9ポイント減少しています。



【性別、年代別および共働き状況別クロス集計】

家庭における男女の役割分担の現状について性別にみると、女性では「男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性がする」が、男性では「男性が仕事、女性は家事・育児をする」が最も高くなっています。男女共に前回調査の最上位であった「男性が仕事、女性は家事・育児をする」がやや減少しており、現状に変化が見られます。

年代別にみると、20～29歳では「分担できる男性(女性)がいない」、30～39歳では「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」、40～59歳では「男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性がする」、60～69歳では「男性が仕事、女性は家事・育児をする」、70歳以上では「その他」が最も高くなっています。

問1 家庭における男女の役割分担について (①現状)

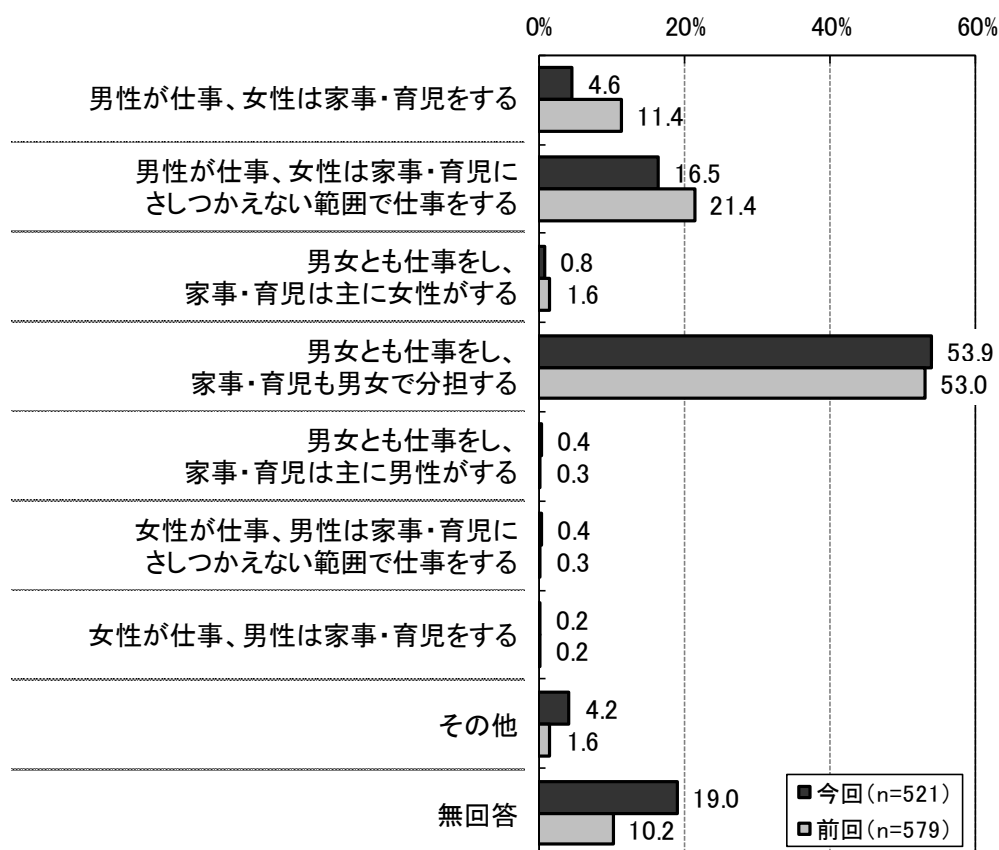
単位:%	n	男性が仕事、女性は家事・育児をする	男性が仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性がする	男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する	男女とも仕事をし、家事・育児は主に男性がする	女性が仕事、男性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	女性が仕事、男性は家事・育児をする	分担できる男性(女性)がいない	その他	無回答
女性											
今回	267	15.4	13.1	<b>18.4</b>	12.4	0.7	0.7	0.7	16.5	10.5	11.6
前回	460	<b>22.4</b>	17.4	17.2	8.7	0.7	0.2	1.1	16.1	8.3	8.0
男性											
今回	213	<b>18.8</b>	17.4	10.8	12.2	0.5	0.0	0.0	16.0	9.9	14.6
前回	109	<b>25.7</b>	16.5	9.2	12.8	0.0	0.9	0.0	17.4	4.6	12.8
年代別											
20～29歳	32	15.6	12.5	6.3	15.6	3.1	0.0	0.0	<b>21.9</b>	15.6	9.4
30～39歳	58	12.1	17.2	20.7	<b>27.6</b>	3.4	0.0	0.0	19.0	0.0	0.0
40～49歳	79	16.5	17.7	<b>22.8</b>	7.6	0.0	1.3	0.0	16.5	5.1	12.7
50～59歳	77	13.0	13.0	<b>28.6</b>	22.1	0.0	1.3	0.0	13.0	5.2	3.9
60～69歳	126	<b>23.0</b>	12.7	9.5	8.7	0.0	0.0	0.8	16.7	13.5	15.1
70歳以上	108	15.7	16.7	5.6	3.7	0.0	0.0	0.9	14.8	<b>17.6</b>	25.0



## ■②理想

家庭における男女の役割分担の理想については、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」が53.9%で最も高く、次いで「男性が仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」が16.5%、「男性が仕事、女性は家事・育児をする」が4.6%となっています。

前回調査と比較すると、全体的な傾向はおおむね一致しているものの、「男性が仕事、女性は家事・育児をする」は6.8ポイント減少しています。



【性別、年代別および共働き状況別クロス集計】

家庭における男女の役割分担の理想について性別にみると、前回調査と同様、男女共に「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」が最も高くなっています。特に30～39歳では70.7%と、他の年代に比べて高くなっています。また、40～49歳では「男性が仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」が25.3%と、他の年代に比べてやや高くなっています。

共働き状況別にみると、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」がすべての状況で最も高くなっています。また、夫だけ仕事を持っている場合では、「男性が仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」が他の状況と比べて高くなっています。

問1 家庭における男女の役割分担について (②理想)

単位:%	n	男性が仕事、女性は家事・育児をする	男性が仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性がする	男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する	男女とも仕事をし、家事・育児は主に男性がする	女性が仕事、男性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	女性が仕事、男性は家事・育児をする	その他	無回答
女性										
今回	267	5.6	15.4	0.0	<b>59.9</b>	0.4	0.4	0.0	2.2	16.1
前回	460	9.8	22.0	1.7	<b>53.7</b>	0.2	0.2	0.2	1.3	10.9
男性										
今回	213	3.3	20.7	1.9	<b>46.9</b>	0.5	0.5	0.5	6.1	19.7
前回	109	19.3	20.2	0.9	<b>50.5</b>	0.0	0.0	0.0	2.8	6.4
年代別										
20～29歳	32	9.4	18.8	0.0	<b>53.1</b>	0.0	0.0	0.0	3.1	15.6
30～39歳	58	8.6	10.3	0.0	<b>70.7</b>	0.0	0.0	1.7	3.4	5.2
40～49歳	79	2.5	25.3	0.0	<b>49.4</b>	0.0	0.0	0.0	6.3	16.5
50～59歳	77	6.5	11.7	0.0	<b>64.9</b>	1.3	1.3	0.0	3.9	10.4
60～69歳	126	1.6	19.0	2.4	<b>53.2</b>	0.8	0.0	0.0	4.0	19.0
70歳以上	108	4.6	18.5	0.9	<b>42.6</b>	0.0	0.9	0.0	2.8	29.6
共働き状況										
共働き	167	4.8	17.4	0.0	<b>65.3</b>	0.6	0.6	0.6	4.2	6.6
夫だけ仕事を持っている	76	6.6	30.3	2.6	<b>42.1</b>	0.0	1.3	0.0	6.6	10.5
妻だけ仕事を持っている	23	0.0	8.7	0.0	<b>73.9</b>	4.3	0.0	0.0	0.0	13.0
夫婦とも無職	62	1.6	22.6	1.6	<b>48.4</b>	0.0	0.0	0.0	6.5	19.4
その他	5	0.0	<b>40.0</b>	0.0	<b>40.0</b>	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

## 【現状と理想のクロス集計】

以下の表では、家庭における男女の役割分担の理想ごとに、役割分担の現状がどのような状況になっているかを示しています。太枠の部分は理想と現状が一致していることを表しています。

「男性が仕事、女性は家事・育児をする」を理想と回答した方の中では、理想と現状が一致している割合が最も高くなっています。

### 問1 家庭における男女の役割分担について（①現状と②理想）

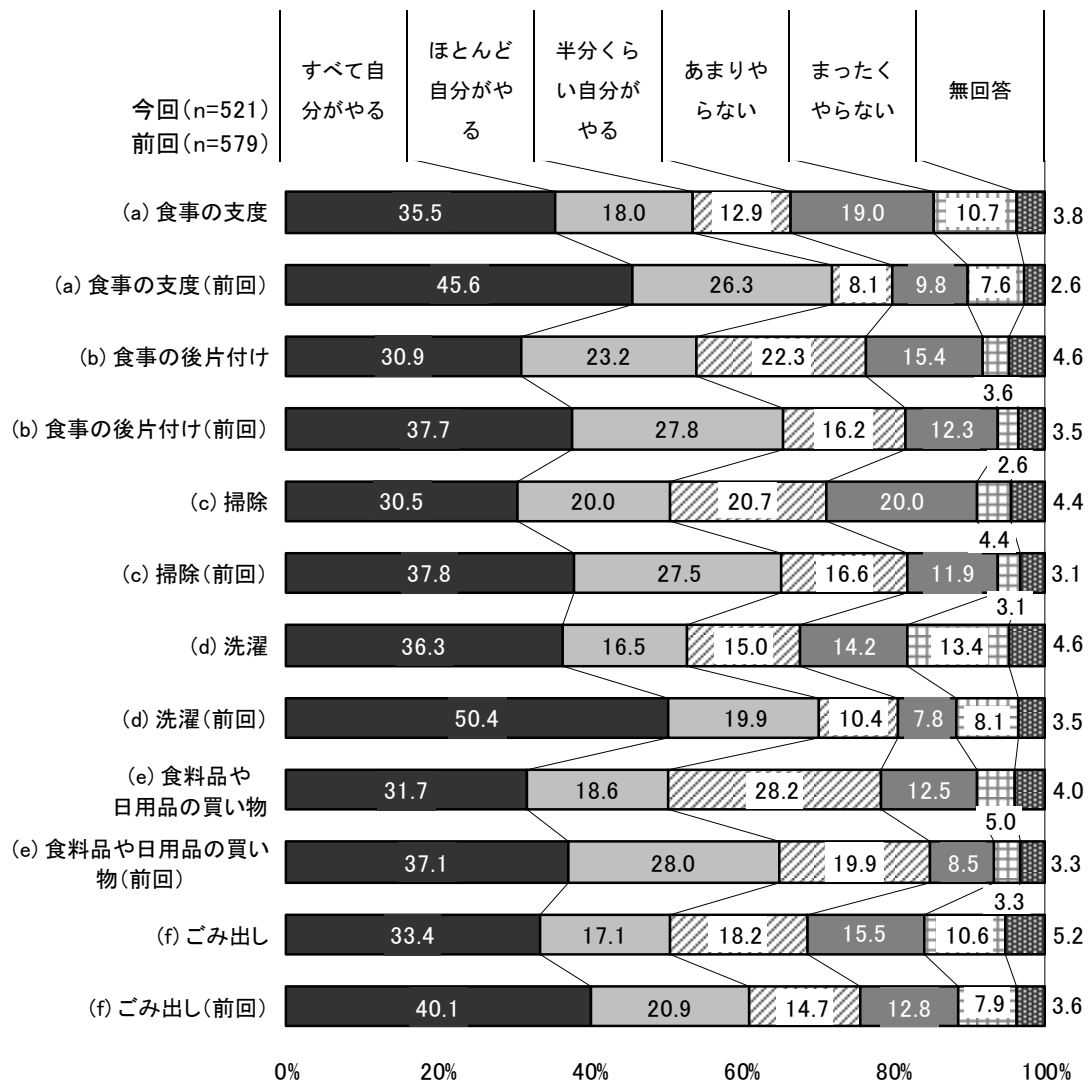
単位：%	n	現状											
		男性が仕事、女性は家事・育児をする	男性が仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性がする	男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する	男女とも仕事をし、家事・育児は主に男性がする	男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性がする	女性が仕事、男性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	女性が仕事、男性は家事・育児をする	分担できる男性（女性）がいない	その他	無回答	
理想	男性が仕事、女性は家事・育児をする	24	<b>29.2</b>	25.0	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	4.2	0.0
	男性が仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	86	<b>38.4</b>	19.8	10.5	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	11.6	8.1	7.0
	男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性がする	4	0.0	<b>50.0</b>	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する	281	12.8	17.8	<b>20.3</b>	18.1	1.1	0.4	0.7	12.8	11.0	5.0	
	男女とも仕事をし、家事・育児は主に男性がする	2	0.0	0.0	0.0	<b>100.0</b>	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性が仕事、男性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	2	<b>50.0</b>	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>50.0</b>	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性が仕事、男性は家事・育児をする	1	0.0	0.0	0.0	<b>100.0</b>	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	22	22.7	4.5	4.5	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	<b>40.9</b>	0.0
	無回答	99	6.1	2.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.3	7.1	50.5

問2 あなたは次にあげる家事を普段どの程度行っていますか。それぞれの家事内容別に行っている程度をお選びください。(aからiそれぞれ○は1つ)

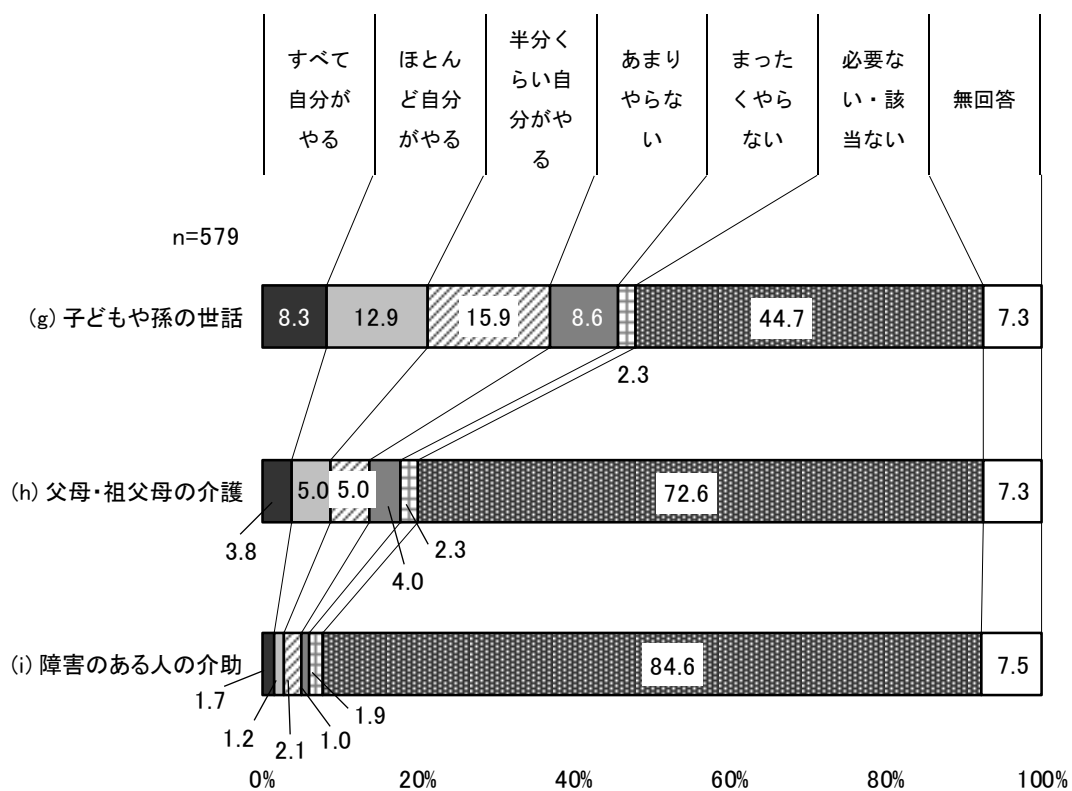
家事をどの程度行っているかについては、a～fにおいてはすべての項目で「すべて自分がやる」が3割を超えて最も高くなっています。

g～iにおいてはすべての項目で「必要ない・該当しない」が最も高くなっています。

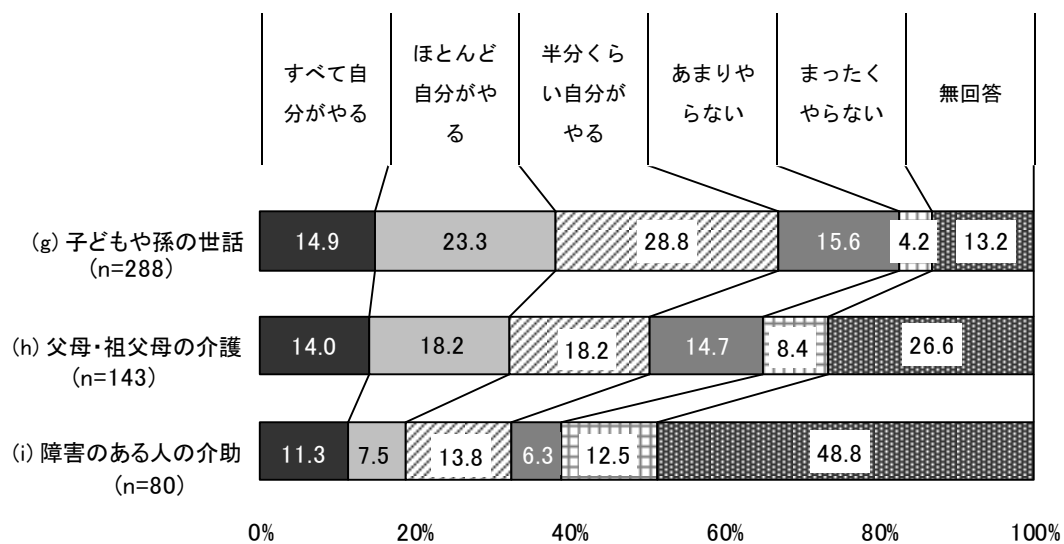
■aからf



■ gから i



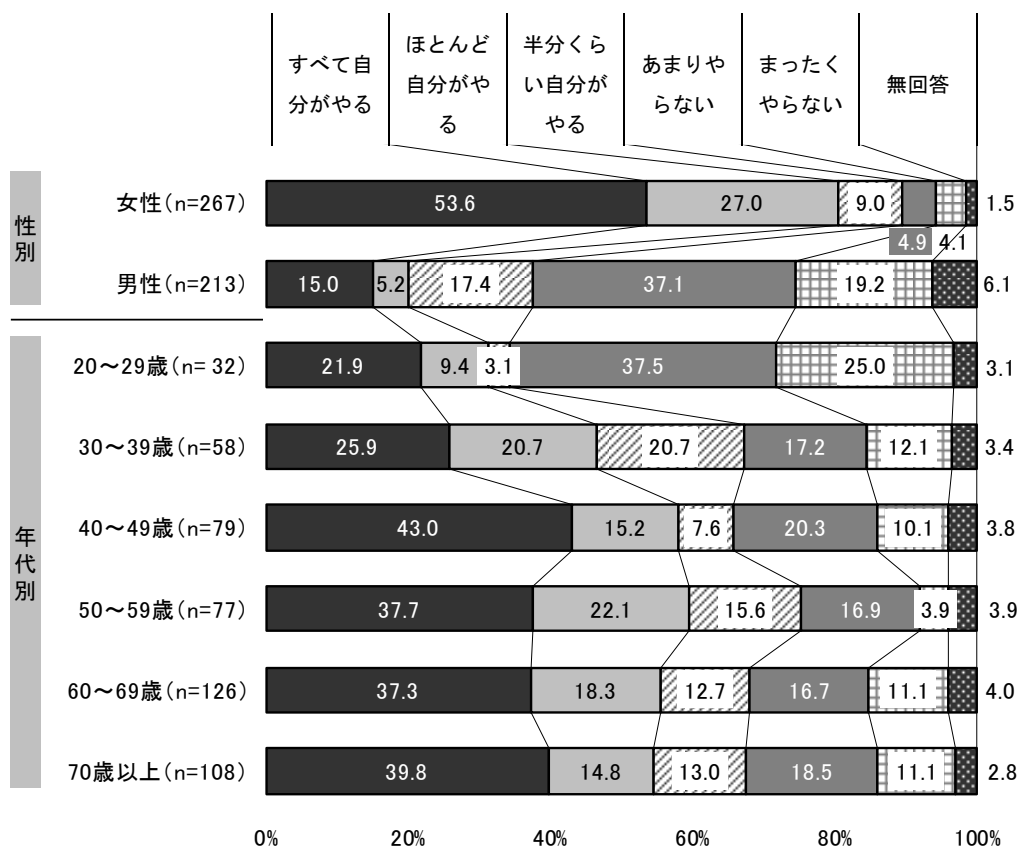
■ gから i (「必要ない・該当ない」と回答した方を除外した場合)



■a. 食事の支度(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「すべて自分がやる」が53.6%、「ほとんど自分がやる」が27.0%と、男性に比べて高く、男性では「あまりやらない」が37.1%、「まったくやらない」が19.2%と、女性に比べて高くなっています。

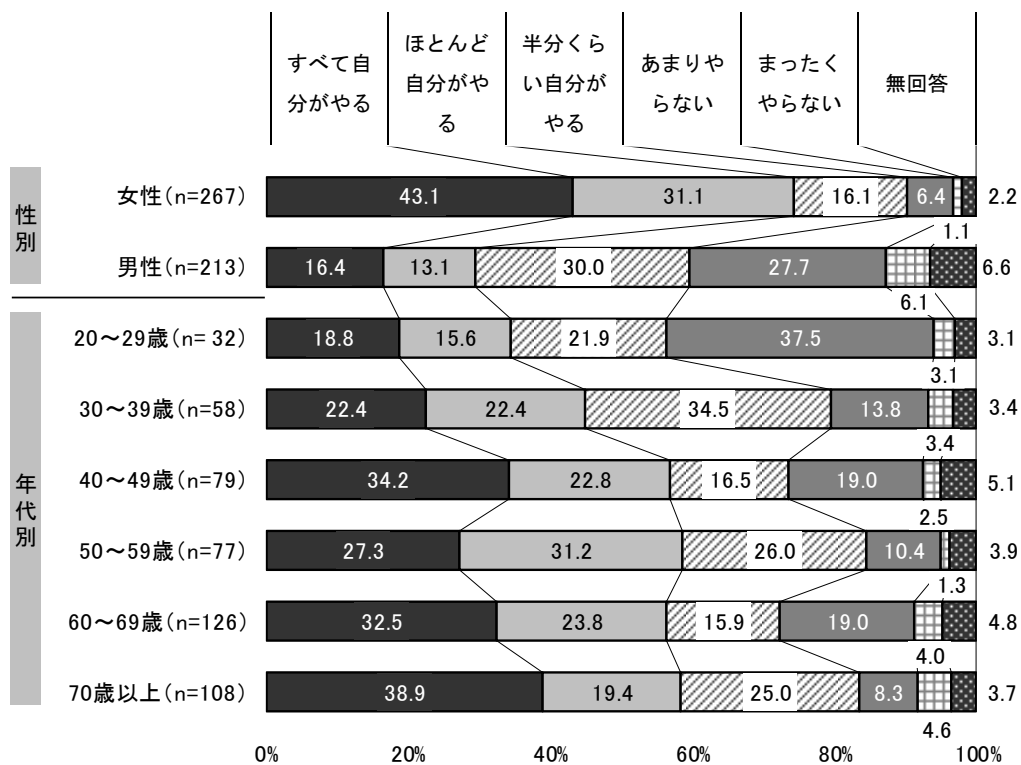
年代別にみると、「すべて自分がやる」が20～39歳では2割台前半から半ばなのに対して、40歳以上では3割台後半から4割台前半と高くなっています。また、20～29歳では「あまりやらない」が37.5%、「まったくやらない」が25.0%と高くなっています。



■b. 食事の後片づけ(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「すべて自分がやる」が43.1%、「ほとんど自分がやる」31.1%と、男性に比べて高く、男性では「半分くらい自分がやる」が30.0%、「あまりやらない」が27.7%と、女性に比べて高くなっています。

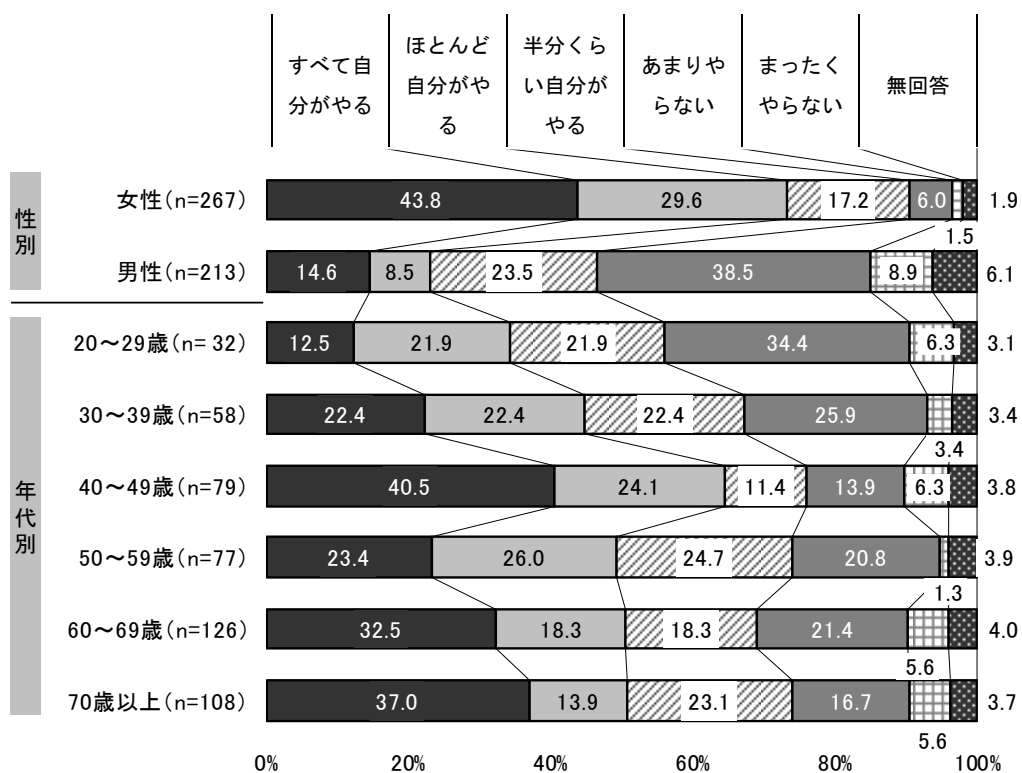
年代別にみると、20～29歳で「あまりやらない」が37.5%、30～39歳で「半分くらい自分がやる」が34.5%と、他の年代に比べて高くなっています。



■c. 掃除(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「すべて自分がやる」が43.8%、「ほとんど自分がやる」が29.6%と、男性に比べて高く、男性では「あまりやらない」が38.5%と、女性に比べて高くなっています。

年代別にみると、20～29歳で「あまりやらない」が34.4%、40～49歳で「すべて自分がやる」が40.5%と、他の年代に比べて高くなっています。

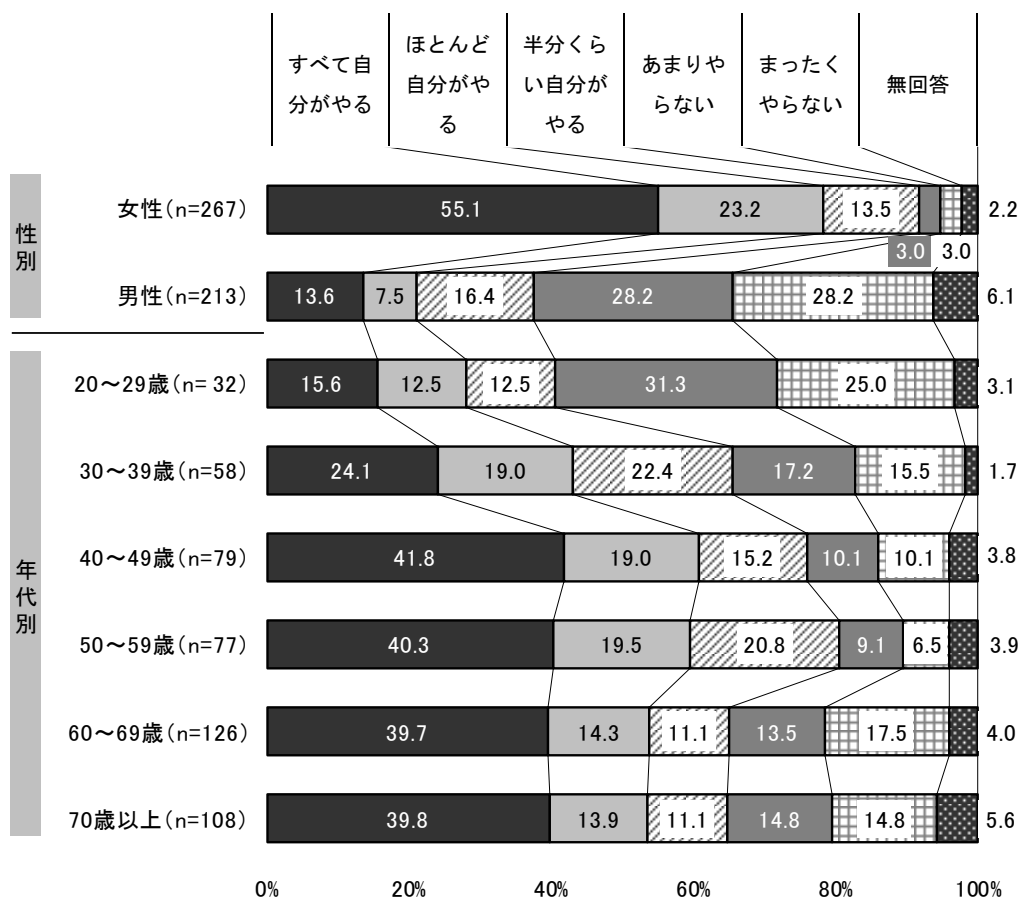




■d. 洗濯(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「すべて自分がやる」が55.1%、「ほとんど自分がやる」が23.2%と、男性に比べて高く、男性では「あまりやらない」と「まったくやらない」が共に28.2%と、女性に比べて高くなっています。

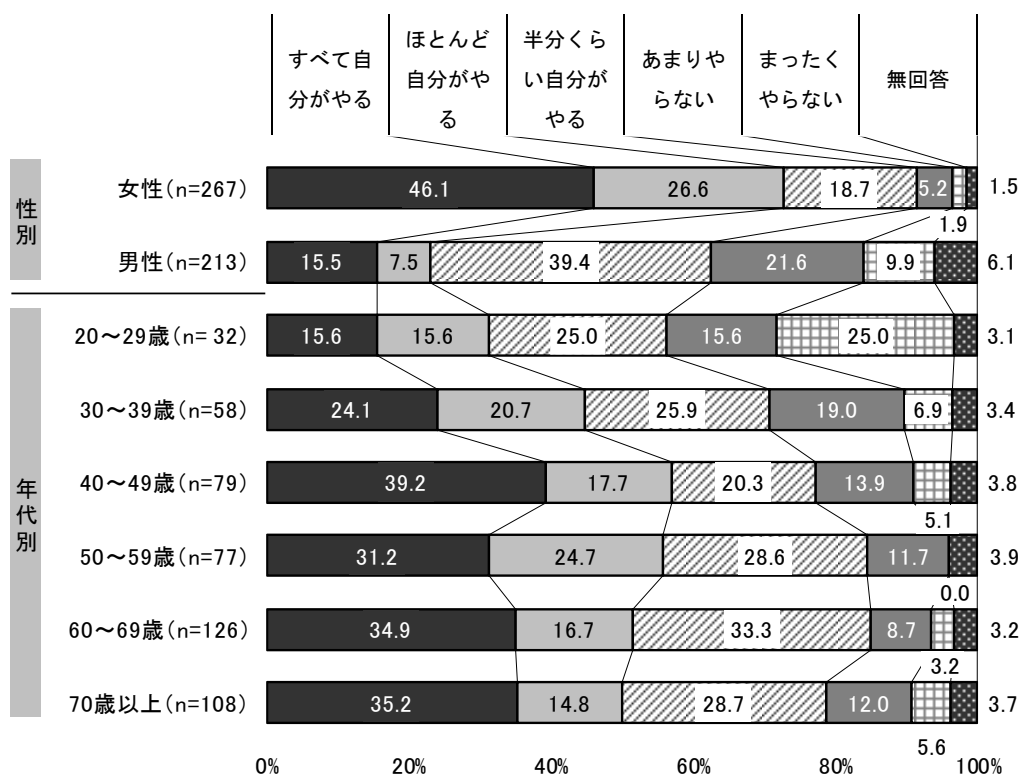
年代別にみると、20～29歳で「あまりやらない」が31.3%と、他の年代に比べて高くなっています。また、40歳以上では「すべて自分がやる」が3割台後半から4割台前半と、最も高くなっています。



■e. 食料品や日用品の買い物(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「すべて自分がやる」が46.1%、「ほとんど自分がやる」が26.6%と、男性に比べて高く、男性では「半分くらい自分がやる」が39.4%、「あまりやらない」が21.6%と、女性に比べて高くなっています。

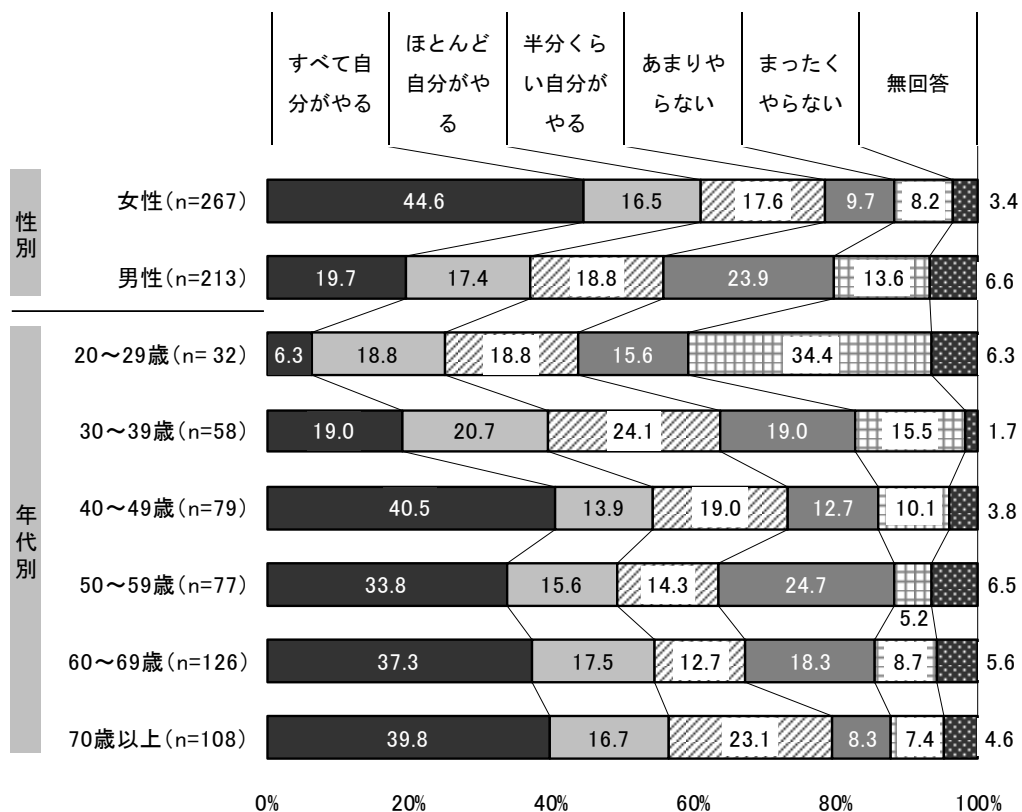
年代別にみると、20～29歳では「まったくやらない」が25.0%と、他の年代に比べて高くなっています。



■f. ごみ出し(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「すべて自分がやる」が44.6%と、男性に比べて24.9ポイント高く、男性では「あまりやらない」が23.9%と、女性に比べて14.2ポイント高くなっています。

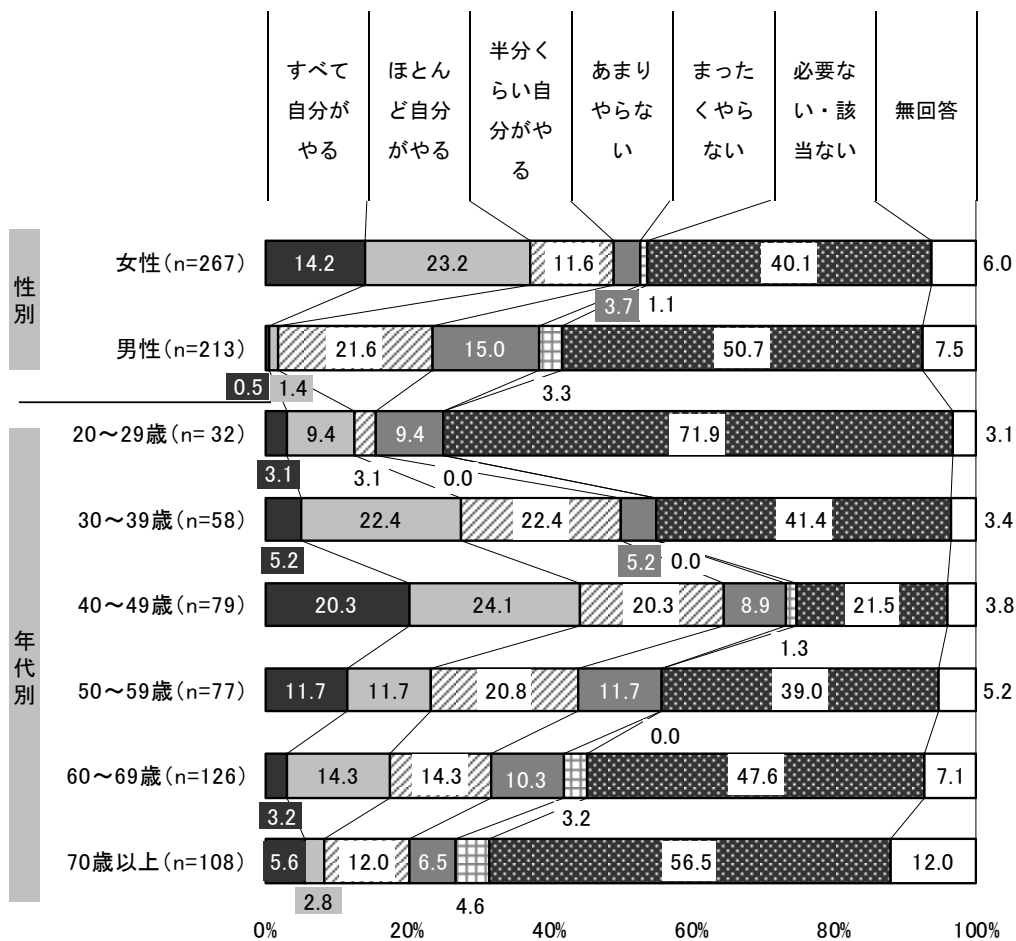
年代別にみると、20～29歳では「まったくやらない」が34.4%と、他の年代に比べて高くなっています。



■g. 子どもや孫の世話(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「ほとんど自分がやる」が23.2%と、男性に比べて21.8ポイント高く、男性では「あまりやらない」が15.0%と、女性に比べて11.3ポイント高くなっています。

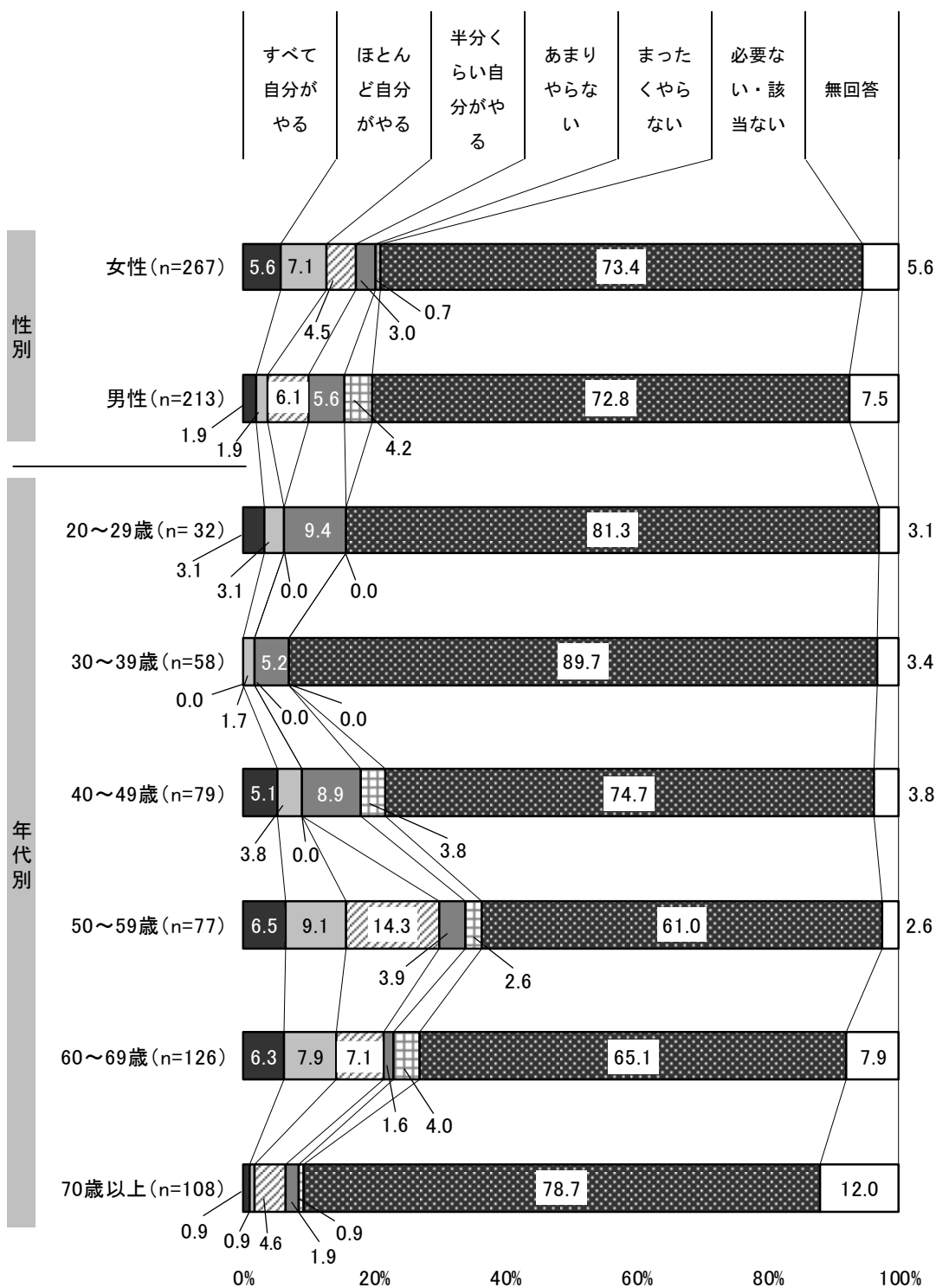
年代別にみると、40～49歳で「すべて自分がやる」と「ほとんど自分がやる」と「半分くらい自分がやる」を合わせた《自分がやる》が64.7%と、他の年代に比べて高くなっています。



■h. 父母・祖父母の介護(性別および年代別クロス集計)

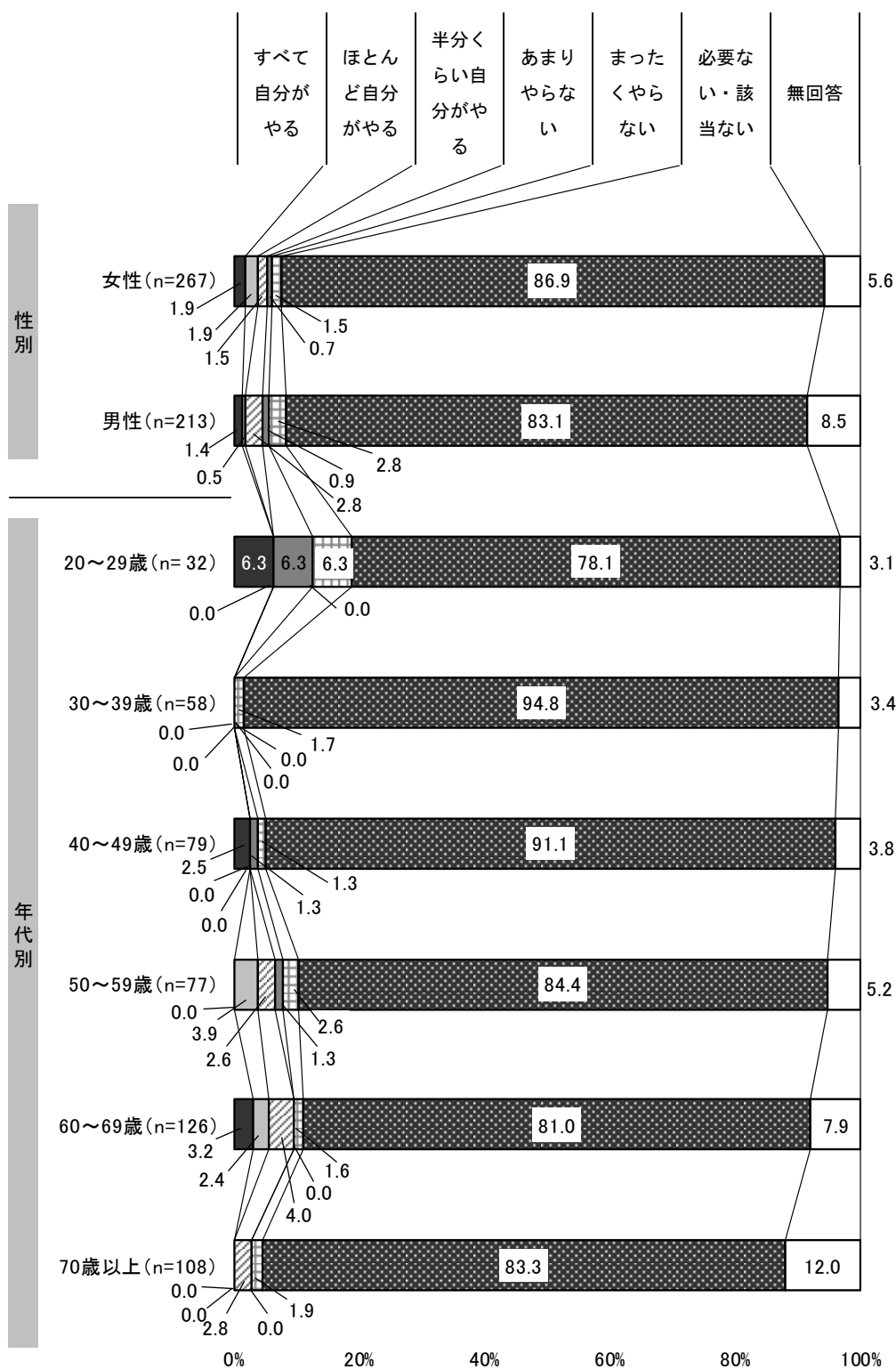
性別にみると、女性では「ほとんど自分がやる」が7.1%と、男性に比べてやや高くなっています。

年代別にみると、50～59歳で「半分くらい自分がやる」が14.3%と、他の年代に比べてやや高く、「必要ない・該当ない」が61.0%と、他の年代に比べて低くなっています。



■i. 障害のある人の介助(性別および年代別クロス集計)

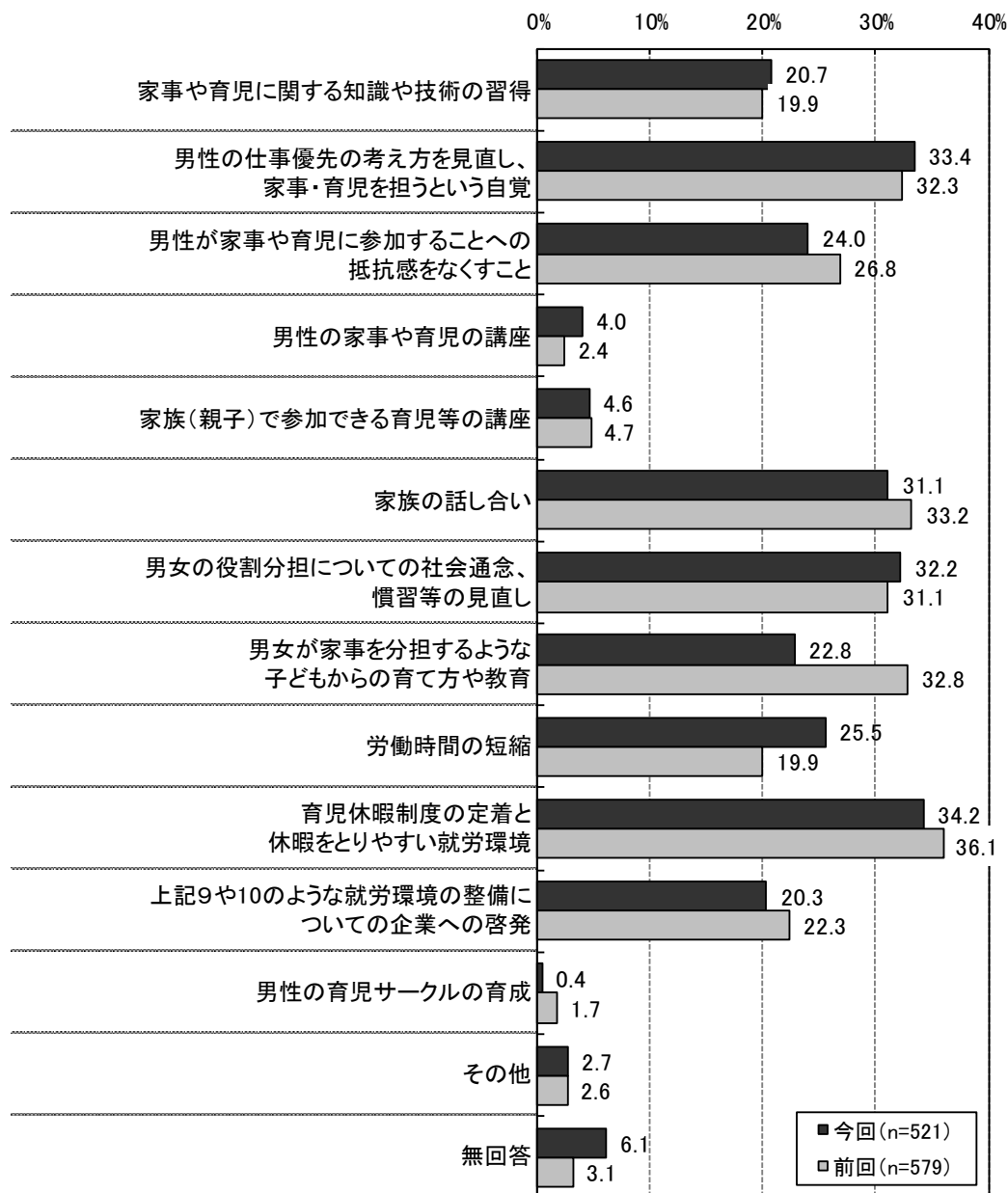
性別、年代別にみても、全体と同様の傾向となっています。



問3 男性が家事・育児に参加するためにどのようなことが必要だと思いますか。次の中から必要だと思うものをお選びください。(〇は3つまで)

男性が家事・育児に参加するために必要なことについては、「育児休暇制度の定着と休暇をとりやすい就労環境」が34.2%で最も高く、次いで「男性の仕事優先の考え方を見直し、家事・育児を担うという自覚」が33.4%、「男女の役割分担についての社会通念、慣習等の見直し」が32.2%となっています。

前回調査と比較すると、「男女が家事を分担するような子どもからの育て方や教育」が22.8%と、10.0ポイント減少しています。また、「労働時間の短縮」が5.6ポイント増加しています。



## 【性別および年代別クロス集計】

---

男性が家事・育児に参加するために必要なことについて性別にみると、女性では「男女の役割分担についての社会通念、慣習等の見直し」が、男性では「育児休暇制度の定着と休暇をとりやすい就労環境」が最も高くなっています。前回調査では、男女共に「育児休暇制度の定着と休暇をとりやすい就労環境」が最も高くなっていましたが、女性では「男女の役割分担についての社会通念、慣習等の見直し」が8.8ポイント上昇しており、考え方の変化がうかがえます。

年代別にみると、20～39歳、50～59歳では「育児休暇制度の定着と休暇をとりやすい就労環境」、40～49歳では「男性の仕事優先の考え方を見直し、家事・育児を担うという自覚」「男女の役割分担についての社会通念、慣習等の見直し」、60～69歳では「男性の仕事優先の考え方を見直し、家事・育児を担うという自覚」、70歳以上では「家族の話し合い」が最も高くなっています。

---



問3 男性が家事・育児に参加するためにどのようなことが必要だと思いますか。

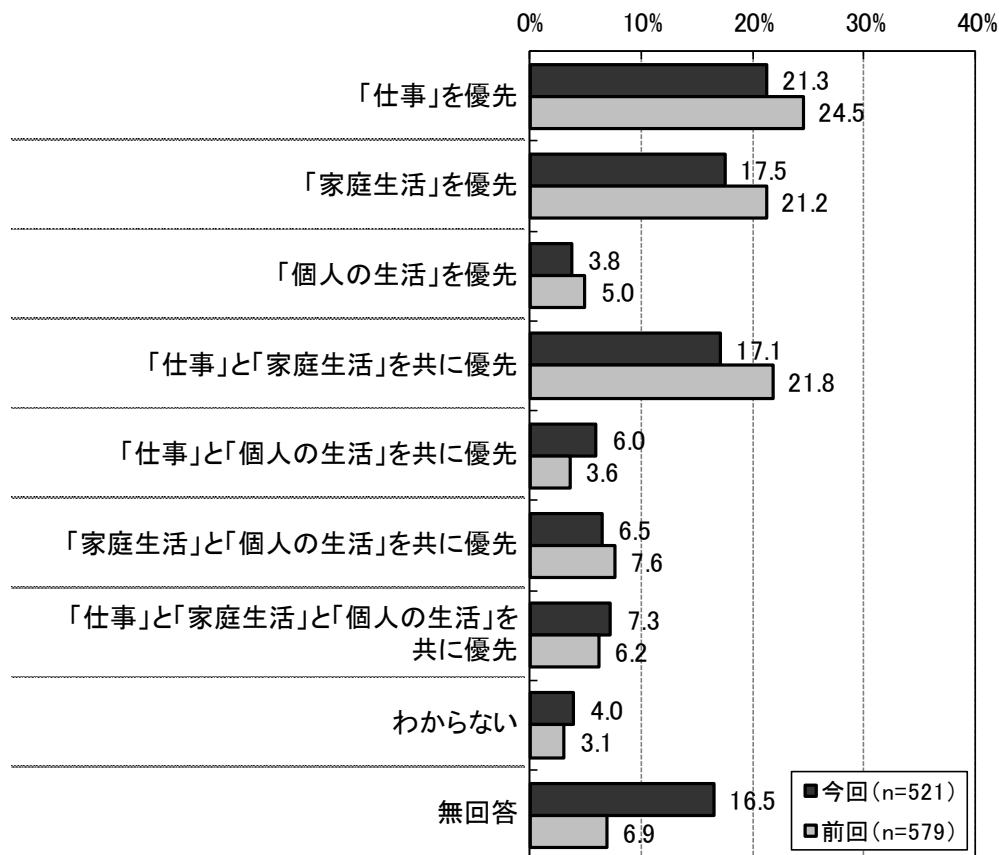
単位：%	n	家事や育児に関する知識や技術の習得	男性の仕事優先の考え方を直し、家事・育児を担うという自覚	男性が家事や育児に参加することへの抵抗感をなくすこと	男性の家事や育児の講座	家族(親子)で参加できる育児等の講座	家族の話し合い	男女の役割分担についての社会通念、慣習等の見直し	男女が家事を分担するような子どもからの育て方や教育
女性									
今回	267	18.4	34.8	28.1	3.7	4.5	29.6	<b>40.1</b>	30.7
前回	460	18.0	32.0	27.6	2.0	5.0	35.2	31.3	35.0
男性									
今回	213	24.4	32.4	17.8	4.7	5.6	32.9	24.9	13.1
前回	109	25.7	33.9	23.9	4.6	2.8	24.8	31.2	22.9
年代別									
20～29歳	32	34.4	31.3	21.9	3.1	6.3	43.8	21.9	12.5
30～39歳	58	19.0	34.5	6.9	10.3	3.4	22.4	39.7	13.8
40～49歳	79	20.3	<b>35.4</b>	21.5	5.1	3.8	27.8	<b>35.4</b>	30.4
50～59歳	77	23.4	33.8	26.0	2.6	1.3	29.9	32.5	26.0
60～69歳	126	18.3	<b>37.3</b>	25.4	1.6	5.6	30.2	32.5	22.2
70歳以上	108	20.4	28.7	30.6	4.6	8.3	<b>36.1</b>	33.3	24.1

単位：%	n	労働時間の短縮	育児休暇制度の定着と休暇をとりやすい就労環境	上記9や10のような就労環境の整備についての企業への啓発	男性の育児サークルの育成	その他	無回答
女性							
今回	267	17.6	35.2	19.5	0.4	1.9	5.2
前回	460	18.0	<b>36.1</b>	21.1	1.7	2.6	2.6
男性							
今回	213	34.7	<b>36.2</b>	21.1	0.0	3.8	5.6
前回	109	27.5	<b>35.8</b>	26.6	1.8	2.8	4.6
年代別							
20～29歳	32	25.0	<b>50.0</b>	18.8	0.0	0.0	6.3
30～39歳	58	41.4	<b>53.4</b>	22.4	1.7	0.0	5.2
40～49歳	79	31.6	27.8	21.5	0.0	2.5	6.3
50～59歳	77	24.7	<b>35.1</b>	16.9	0.0	6.5	1.3
60～69歳	126	22.2	35.7	22.2	0.0	2.4	6.3
70歳以上	108	15.7	27.8	18.5	0.0	2.8	6.5

問4 生活の中での、仕事、家庭生活、個人の生活(地域活動、趣味・学習等)の優先度について、あてはまる①あなたの現状 と ②あなたの理想 をお選びください。(①と②それぞれ〇は1つ)

■①現状

生活の中での優先度の現状は「『仕事』を優先」が21.3%で最も高く、次いで「『家庭生活』を優先」が17.5%、「『仕事』と『家庭生活』を共に優先」が17.1%となっています。前回調査と比較すると、同様の傾向となっています。



### 【性別および年代別クロス集計】

生活の中での優先度についての現状を性別にみると、女性は「『家庭生活』を優先」、男性は「『仕事』を優先」が最も高くなっていますが、男性では「『仕事』を優先」と「『仕事』と『家庭生活』を共に優先」が、前回調査に比べて低くなっています。

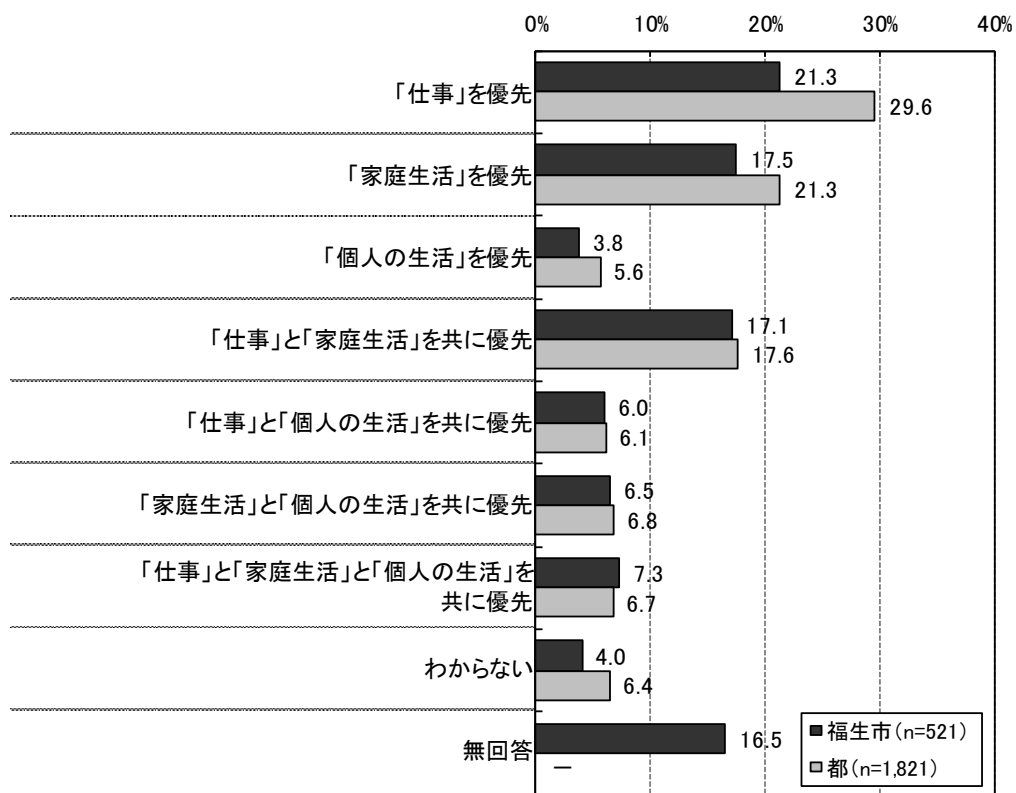
年代別にみると、20～29歳では「『仕事』を優先」「『仕事』と『個人の生活』を共に優先」、30～39歳では「『仕事』を優先」、40～59歳では「『仕事』と『家庭生活』を共に優先」、60～69歳では「『家庭生活』を優先」、70歳以上では「『仕事』を優先」「『家庭生活』を優先」が最も高くなっています。

#### 問4 生活の中での、仕事、家庭生活、個人の生活（地域活動、趣味・学習等）の優先度について（①現状）

単位：%	n	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を共に優先	「仕事」と「個人の生活」を共に優先	「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先	「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先	わからない	無回答
女性										
今回	267	14.6	<b>24.0</b>	3.7	18.4	5.2	7.1	7.9	3.0	16.1
前回	460	20.2	<b>25.2</b>	4.1	20.9	3.5	8.5	6.7	3.3	7.6
男性										
今回	213	<b>30.0</b>	9.9	4.7	17.4	7.0	5.2	7.0	5.6	13.1
前回	109	<b>43.1</b>	6.4	8.3	24.8	4.6	3.7	2.8	2.8	3.7
年代別										
20～29歳	32	<b>18.8</b>	12.5	6.3	12.5	<b>18.8</b>	3.1	9.4	9.4	9.4
30～39歳	58	<b>25.9</b>	17.2	0.0	20.7	13.8	3.4	10.3	1.7	6.9
40～49歳	79	26.6	19.0	0.0	<b>27.8</b>	2.5	2.5	7.6	1.3	12.7
50～59歳	77	22.1	13.0	3.9	<b>29.9</b>	3.9	10.4	9.1	1.3	6.5
60～69歳	126	19.0	<b>20.6</b>	4.8	14.3	7.1	4.0	6.3	4.0	19.8
70歳以上	108	<b>18.5</b>	<b>18.5</b>	8.3	6.5	0.9	11.1	5.6	8.3	22.2

■①現状（都との比較）

生活の中での優先度の現状について、東京都と比較すると福生市では「『仕事』を優先」がやや低くなっています。

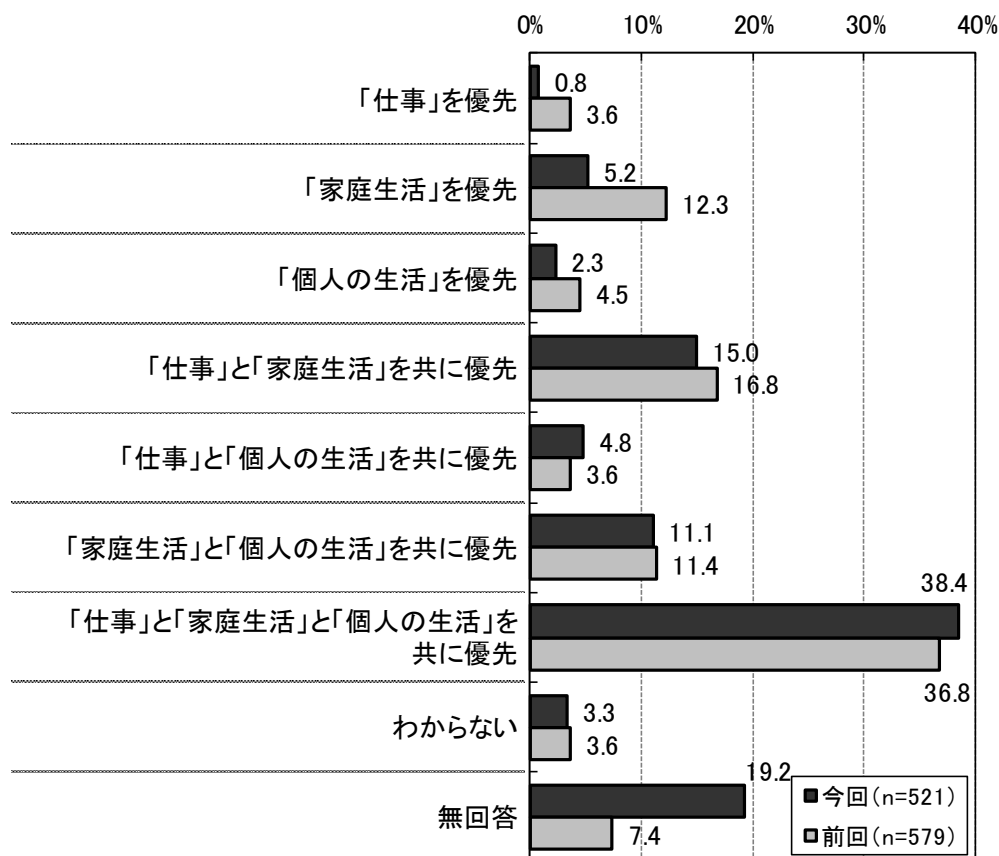


都：「男女平等参画に関する世論調査」（平成 27 年）

## ■②理想

生活の中での優先度についての理想は「『仕事』と『家庭生活』と『個人の生活』を共に優先」が38.4%で最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』を共に優先」が15.0%、「『家庭生活』と『個人の生活』を共に優先」が11.1%となっています。

前回調査と比較すると、「『家庭生活』を優先」が7.1ポイント減少しています。



【性別および年代別クロス集計】

生活の中での優先度についての理想を性別にみると、男女共に「『仕事』と『家庭生活』と『個人の生活』を共に優先」が最も高くなっています。また、「『家庭生活』を優先」が前回調査に比べてやや低くなっています。

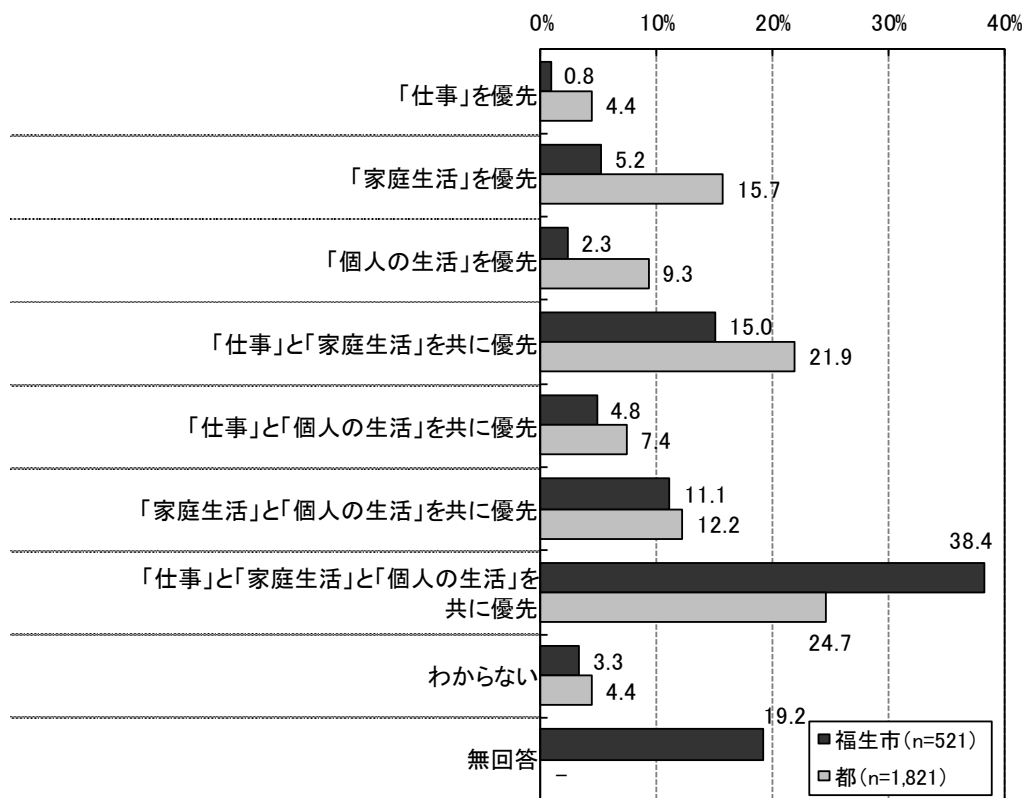
年代別にみると、すべての年代で「『仕事』と『家庭生活』と『個人の生活』を共に優先」が最も高くなっています。

問4 生活の中での、仕事、家庭生活、個人の生活（地域活動、趣味・学習等）の優先度について（②理想）

単位：%	n	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を共に優先	「仕事」と「個人の生活」を共に優先	「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先	「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先	わからない	無回答
女性										
今回	267	0.4	4.9	2.6	12.7	6.4	11.2	<b>41.9</b>	3.0	16.9
前回	460	3.0	11.5	4.8	15.4	3.3	11.7	<b>37.8</b>	4.1	8.3
男性										
今回	213	0.9	6.6	2.3	19.2	2.3	11.3	<b>35.2</b>	3.3	18.8
前回	109	6.4	15.6	3.7	22.9	4.6	10.1	<b>31.2</b>	1.8	3.7
年代別										
20～29歳	32	0.0	6.3	9.4	15.6	6.3	9.4	<b>40.6</b>	3.1	9.4
30～39歳	58	0.0	12.1	3.4	12.1	0.0	12.1	<b>51.7</b>	1.7	6.9
40～49歳	79	1.3	6.3	1.3	11.4	3.8	20.3	<b>34.2</b>	5.1	16.5
50～59歳	77	0.0	2.6	0.0	18.2	6.5	18.2	<b>46.8</b>	2.6	5.2
60～69歳	126	0.8	4.0	4.0	15.9	5.6	7.1	<b>38.1</b>	2.4	22.2
70歳以上	108	0.9	5.6	0.9	18.5	4.6	4.6	<b>30.6</b>	3.7	30.6

## ■②理想（都との比較）

生活の中での優先度についての理想は東京都と比較すると福生市では「『家庭生活』を優先」が10.5ポイント、「『個人の生活』を優先」が7.0ポイント、「『仕事』と『家庭生活』を共に優先」が6.9ポイント低く、「『仕事』と『家庭生活』と『個人の生活』を共に優先」が13.7ポイント高くなっています。



都：「男女平等参画に関する世論調査」（平成 27 年）

【現状と理想のクロス集計】

以下の表では、生活の中での優先度の理想ごとに、現状がどのような状況になっているかを示しています。太枠の部分は理想と現状が一致していることを表しています。

「『仕事』を優先」「『家庭生活』を優先」を理想と回答した方については理想と現状が一致している割合が高くなっていますが、それ以外を理想と回答した方については理想と現状が一致していない割合が高くなっています。

また、「『仕事』と『家庭生活』を共に優先」「『仕事』と『個人の生活』を共に優先」を理想と回答した方については現状で「『仕事』を優先」している割合が高くなっています。

問4 生活の中での、仕事、家庭生活、個人の生活（地域活動、趣味・学習等）の優先度について（①現状と②理想）

単位：%	n	現状									
		「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を共に優先	「仕事」と「個人の生活」を共に優先	「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先	「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先	わからない	無回答	
理想	「仕事」を優先	4	<b>50.0</b>	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	「家庭生活」を優先	27	22.2	<b>37.0</b>	3.7	18.5	3.7	0.0	3.7	3.7	7.4
	「個人の生活」を優先	12	16.7	<b>33.3</b>	8.3	8.3	<b>33.3</b>	0.0	0.0	0.0	0.0
	「仕事」と「家庭生活」を共に優先	78	<b>37.2</b>	16.7	3.8	25.6	2.6	1.3	2.6	5.1	5.1
	「仕事」と「個人の生活」を共に優先	25	<b>40.0</b>	0.0	12.0	20.0	20.0	4.0	4.0	0.0	0.0
	「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先	58	17.2	<b>32.8</b>	5.2	17.2	1.7	20.7	3.4	1.7	0.0
	「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先	200	19.0	18.5	3.5	<b>22.5</b>	8.5	7.5	16.0	2.0	2.5
	わからない	100	<b>10.0</b>	5.0	2.0	2.0	0.0	3.0	0.0	<b>5.0</b>	73.0
	無回答	99	6.1	2.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.3	7.1

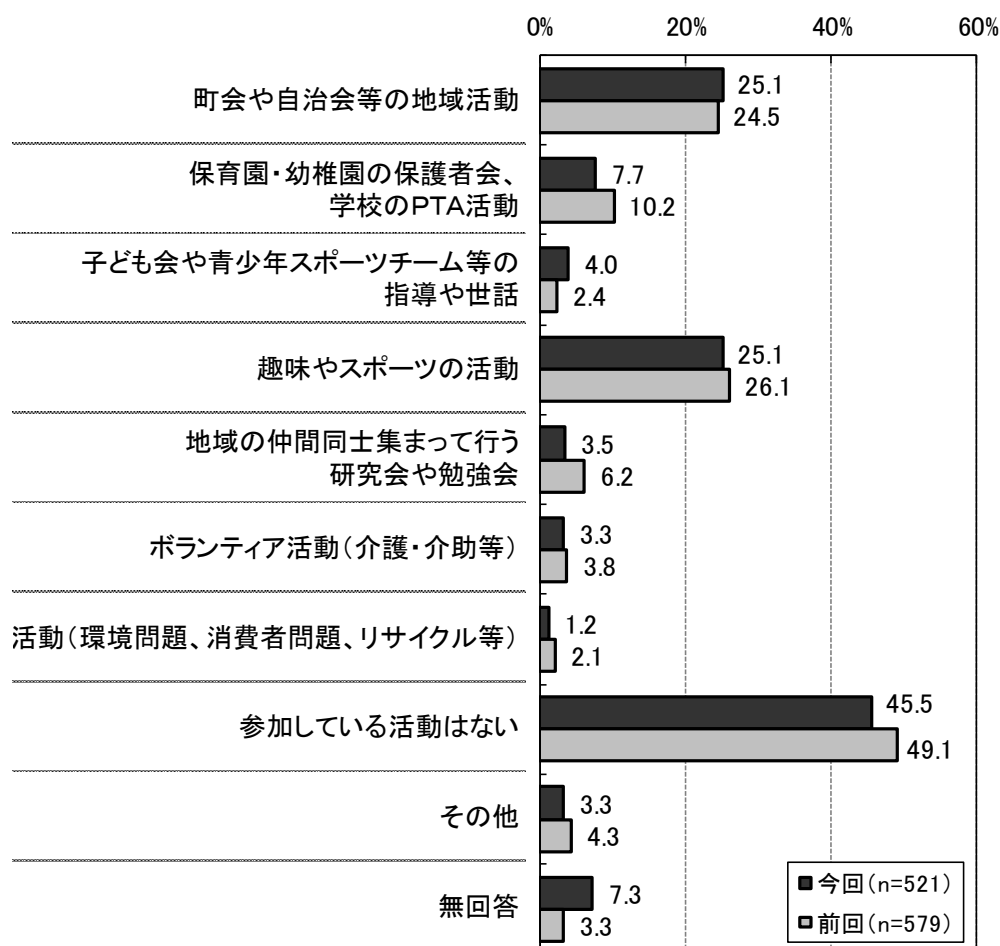


## 2. 地域・社会参加について

問5 次にあげる地域活動の中であなたが現在参加しているものをお選びください。(〇はいくつでも)

現在参加している地域活動については、「参加している活動はない」が45.5%で最も高く、次いで「町会や自治会等の地域活動」と「趣味やスポーツの活動」が共に25.1%となっています。

前回調査と比較すると、同様の傾向となっています。



【性別および年代別クロス集計】

地域活動について性別にみると、男女共に「参加している活動はない」が最も高くなっていますが、前回調査に比べて男性ではやや減少しています。

年代別にみると、すべての年代で「参加している活動はない」が最も高く、中でも20～39歳と60～69歳では5割以上と特に高くなっています。また、40～49歳では「保育園・幼稚園の保護者会・学校のPTA活動」が27.8%、「子ども会や青少年スポーツチーム等の指導や世話」が19.0%と、他の年代に比べて高くなっています。

問5 地域活動の中であなたが現在参加しているものをお選びください。

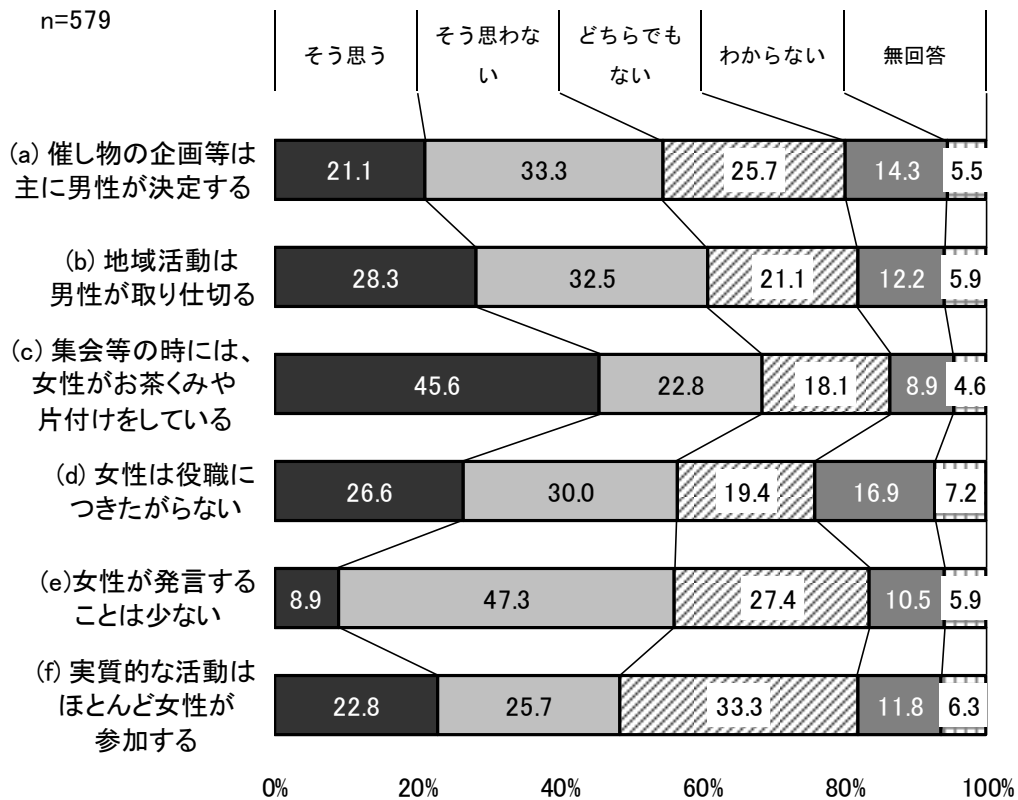
単位:%	n	町会や自治会等の地域活動	保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTA活動	子ども会や青少年スポーツチーム等の指導や世話	趣味やスポーツの活動	地域の仲間同士集まって行う研究会や勉強会	ボランティア活動(介護・介助等)	NPO活動(環境問題、消費者問題、リサイクル等)	参加している活動はない
女性									
今回	267	26.2	12.4	5.2	27.3	3.4	3.0	0.4	41.6
前回	460	23.9	11.7	2.6	27.2	6.3	4.1	2.0	46.5
男性									
今回	213	23.5	2.3	2.8	23.0	2.8	3.3	1.4	52.6
前回	109	25.7	3.7	0.9	21.1	2.8	1.8	2.8	60.6
年代別									
20～29歳	32	12.5	6.3	0.0	18.8	0.0	6.3	0.0	56.3
30～39歳	58	8.6	12.1	1.7	5.2	0.0	0.0	0.0	70.7
40～49歳	79	31.6	27.8	19.0	21.5	0.0	2.5	1.3	38.0
50～59歳	77	28.6	5.2	1.3	31.2	5.2	3.9	0.0	39.0
60～69歳	126	23.8	0.8	0.8	26.2	5.6	3.2	0.8	50.0
70歳以上	108	31.5	1.9	1.9	36.1	3.7	3.7	1.9	38.0

単位:%	n	その他	無回答
女性			
今回	267	4.5	6.7
前回	460	3.9	3.5
男性			
今回	213	1.4	6.6
前回	109	6.4	1.8
年代別			
20～29歳	32	3.1	9.4
30～39歳	58	1.7	6.9
40～49歳	79	0.0	6.3
50～59歳	77	5.2	2.6
60～69歳	126	2.4	7.9
70歳以上	108	5.6	7.4

**【問5で「参加している活動はない」、「その他」以外のいずれかを選択した方】**

問5-1 あなたが参加している地域活動の現状について、あてはまる考えをお選びください。(a から f それぞれ○は1つ)

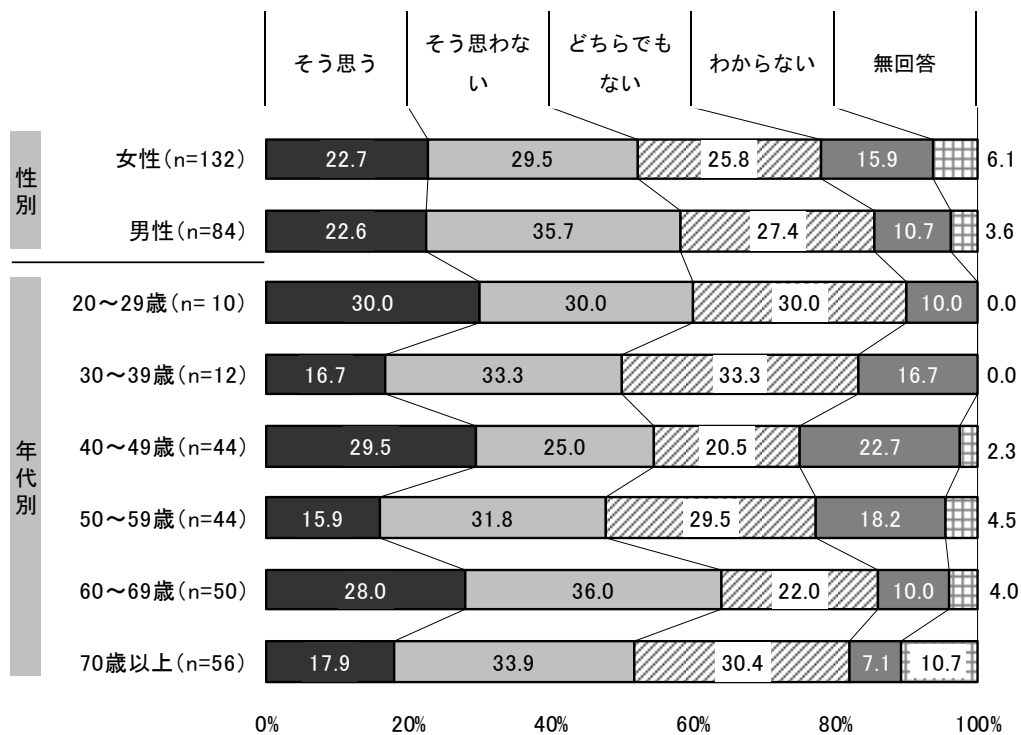
地域活動の現状については、『c. 集会等の時には、女性がお茶くみや片付けをしている』では「そう思う」が45.6%、『e. 女性が発言することは少ない』では「そう思わない」が47.3%と、他の項目に比べて高くなっています。



■a. 催し物の企画等は主に男性が決定する(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、男性では「そう思わない」が35.7%と、女性に比べてやや高くなっています。

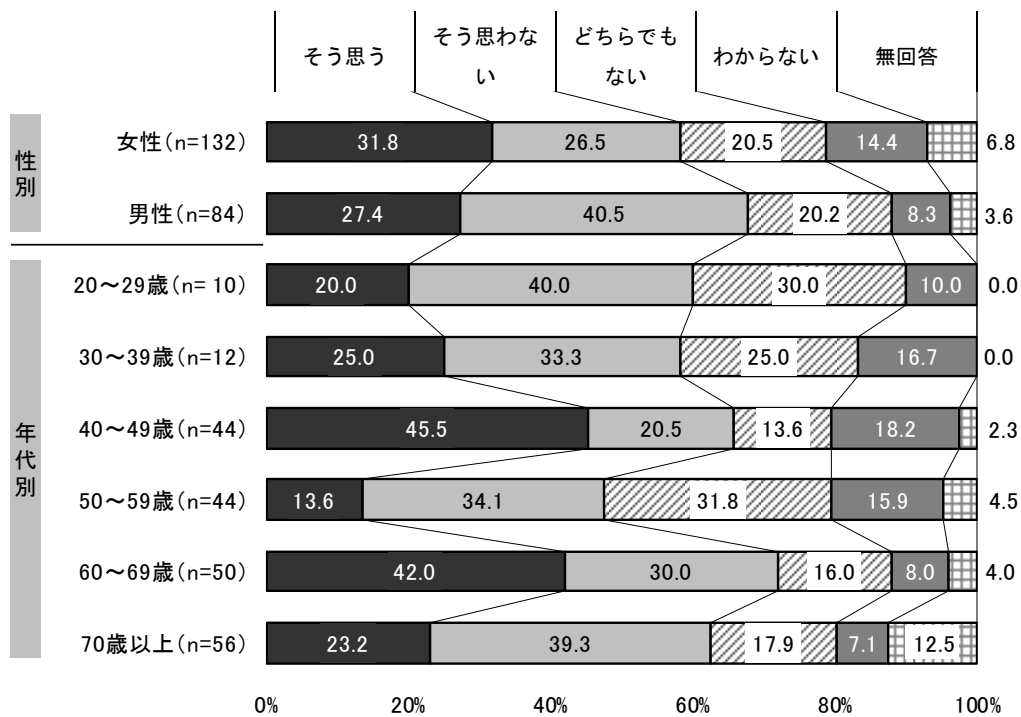
年代別にみると、30～39歳、50～59歳、70歳以上では「そう思わない」が3割台前半から半ばと、「そう思う」が1割台半ばから後半なのと比較して差が大きくなっています。



■b. 地域活動は男性が取り仕切る(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、男性では「そう思わない」が40.5%と、女性に比べて14.0ポイント高くなっています。

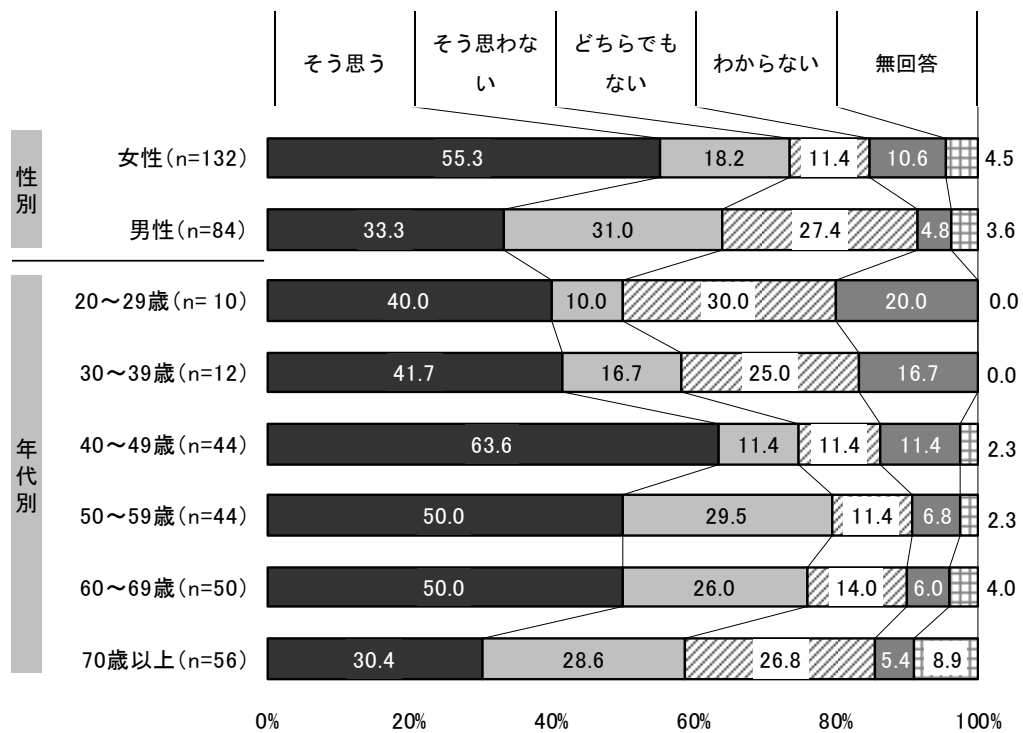
年代別にみると、40～49歳、60～69歳では「そう思う」が4割前半から4割台半ばと、他の年代に比べて高くなっています。



■c. 集会等の時には、女性がお茶くみや片づけをしている（性別および年代別クロス集計）

性別にみると、女性では「そう思う」が55.3%と、男性に比べて22.0ポイント高くなっています。

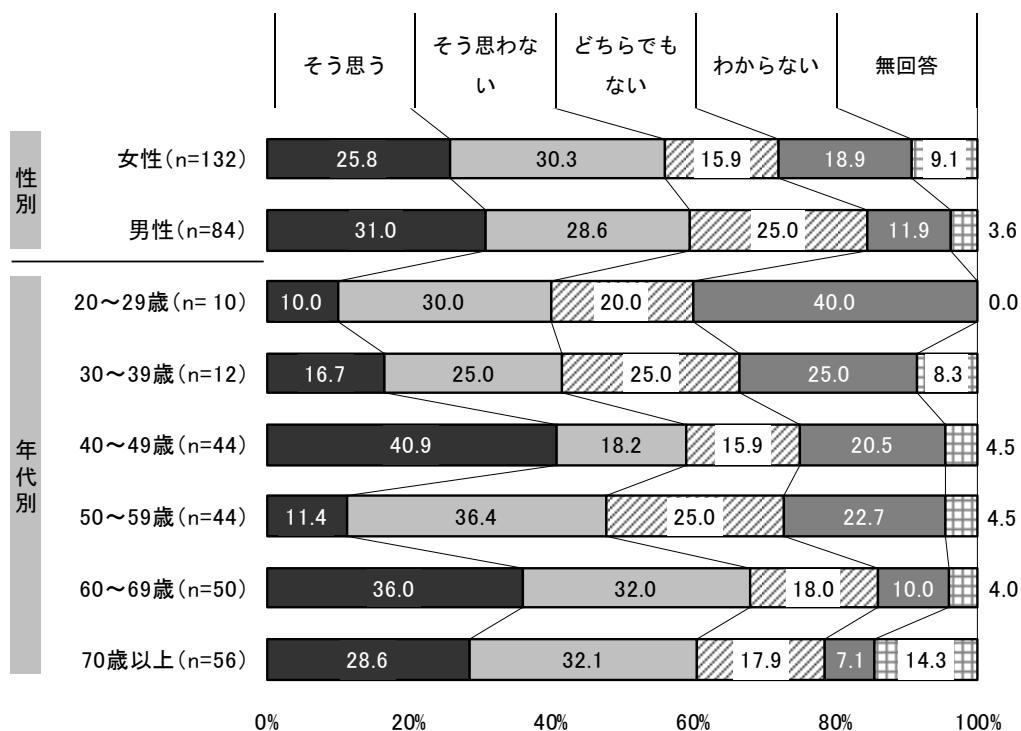
年代別にみると、40～49歳では「そう思う」が63.6%と、他の年代に比べて高くなっています。



■d. 女性は役職につきたがらない(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

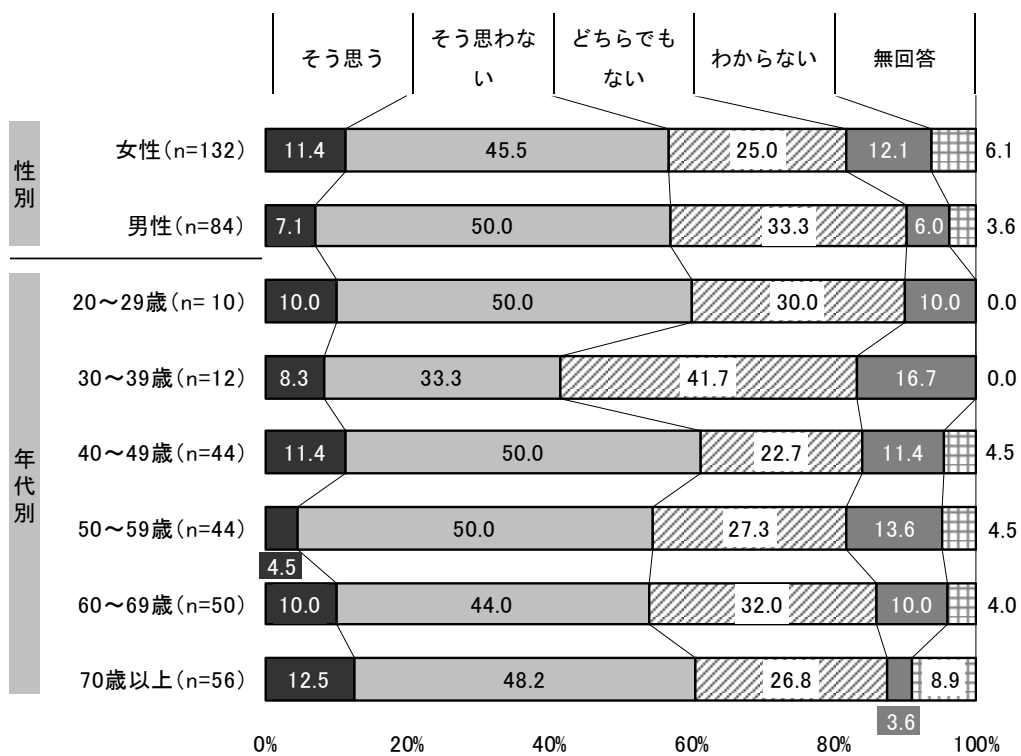
年代別にみると、40～49歳と60～69歳では「そう思う」が3割台半ばから4割台前半と、他の年代に比べて高くなっています。



■e. 女性が発言することは少ない(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

年代別にみると、ほぼ全体と同様の傾向ですが、30～39歳では「そう思わない」が33.3%と低く、「どちらでもない」が41.7%と高くなっています。

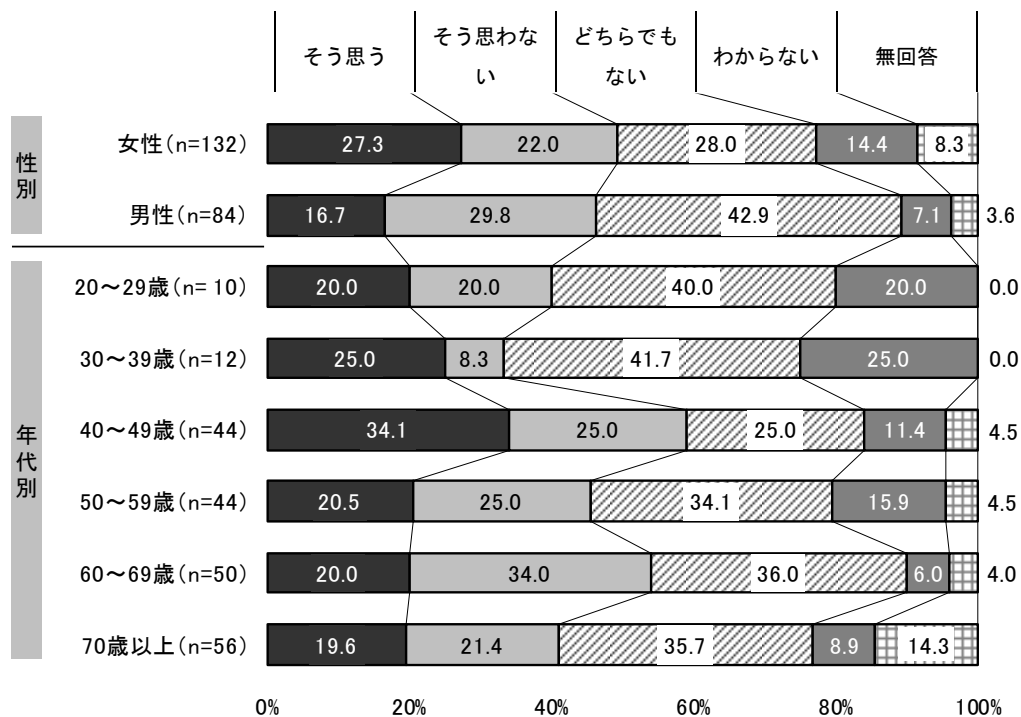




■f. 実質的な活動はほとんど女性が参加する(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「そう思う」が27.3%と男性に比べて10.6ポイント高く、男性では「どちらでもない」が42.9%と女性に比べて14.9ポイント高くなっています。

年代別にみると、40～49歳では「そう思う」が34.1%と、他の年代に比べて高くなっています。

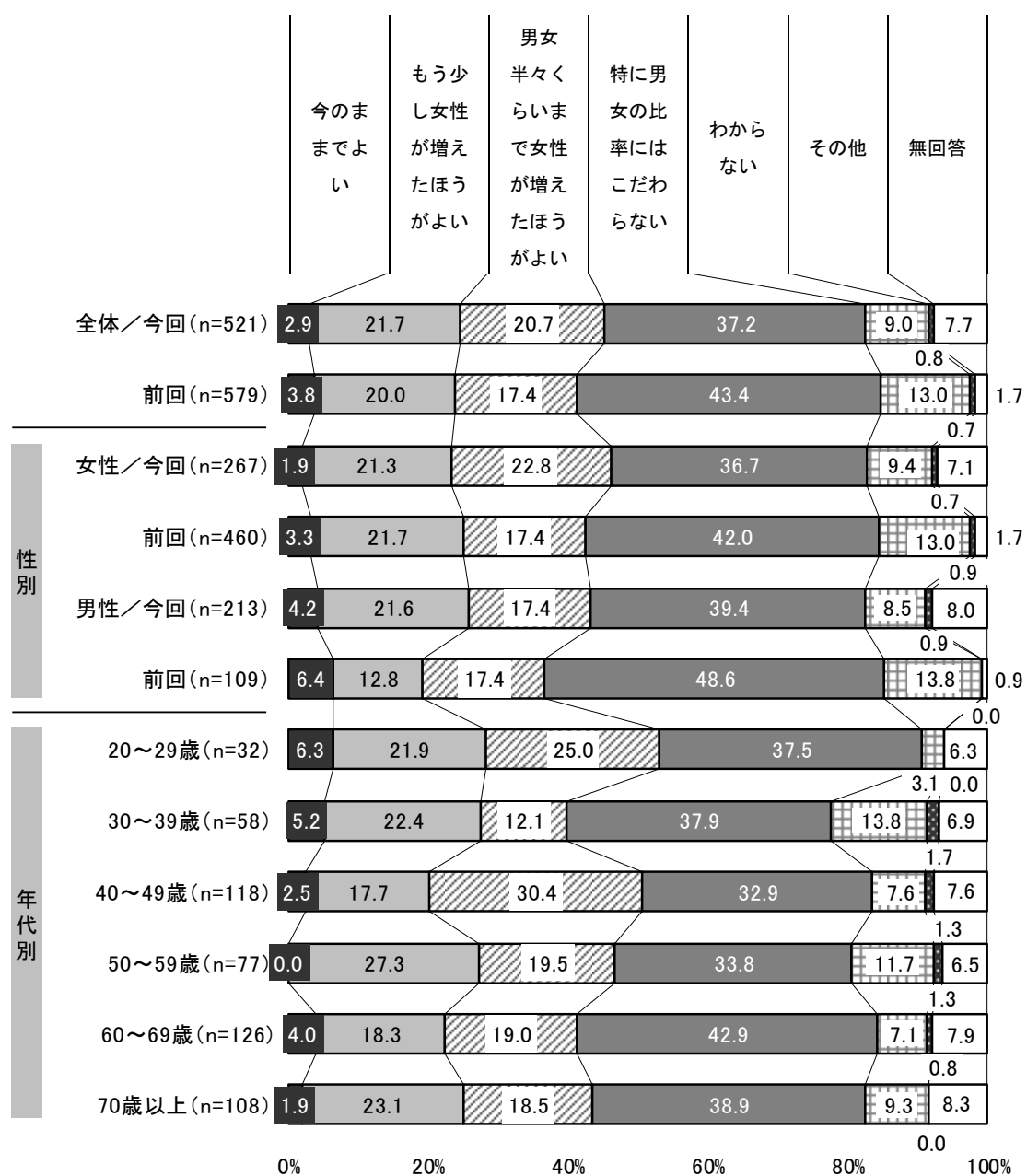


問6 平成 31 年4月1日現在、福生市で設置している審議会(地方自治法 202 条の3)、委員会(180 条の5)等の委員のうち、29.6%が女性です。これについてあなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

福生市の女性委員の参画状況についてどう思うかについては、「特に男女の比率にはこだわらない」が 37.2%で最も高く、次いで「もう少し女性が増えたほうがよい」が 21.7%、「男女半々くらいまで女性が増えたほうがよい」が 20.7%となっています。

性別にみると、女性では「男女半々くらいまで女性が増えたほうがよい」が 22.8%と、今回の調査の男性、前回調査と比べてもやや高くなっています。

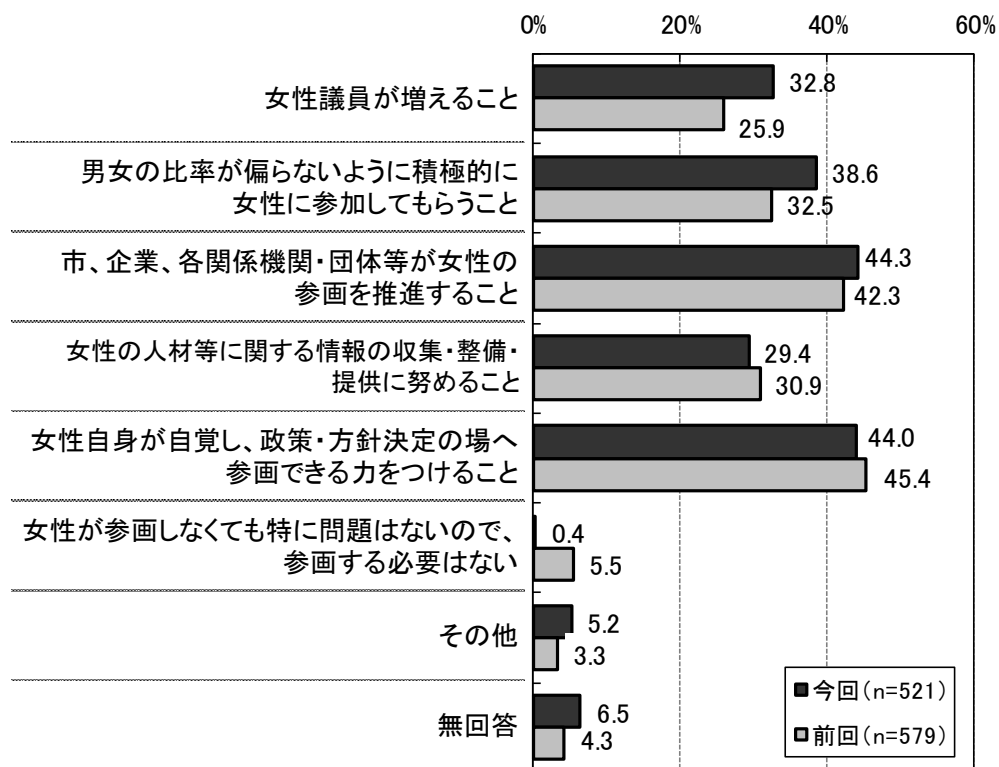
年代別にみると、20～29 歳、40～49 歳では「男女半々くらいまで女性が増えたほうがよい」が 2割台半ばから 3割台前半と、他の年代に比べて高くなっています。



問7 政策や方針決定の場において女性の参画をすすめるにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

政策や方針決定の場において女性の参画をすすめるために必要なことについては、「市、企業、各関係機関・団体等が女性の参画を推進すること」が44.3%で最も高く、次いで「女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること」が44.0%、「男女の比率が偏らないように積極的に女性に参加してもらうこと」が38.6%となっています。

前回調査と比較すると、「女性議員が増えること」、「男女の比率が偏らないように積極的に女性に参加してもらうこと」がやや増加しています。



## 【性別および年代別クロス集計】

政策や方針決定の場において女性の参画をすすめるために必要なことについて性別にみると、女性では「市、企業、各関係機関・団体等が女性の参画を推進すること」が、男性では「男女の比率が偏らないように積極的に女性に参加してもらうこと」が最も高くなっています。前回調査で最もポイントの高かった「女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること」が、男性ではやや減少しています。

年代別にみると、20～29歳では「女性の人材等に関する情報の収集・整備・提供に努めること」、30～39歳では「市、企業、各関係機関・団体等が女性の参画を推進すること」「女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること」、40～59歳では「市、企業、各関係機関・団体等が女性の参画を推進すること」、60歳以上では「女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること」が最も高くなっています。

問7 政策や方針決定の場において女性の参画をすすめるにはどのようなことが必要だと思いますか。

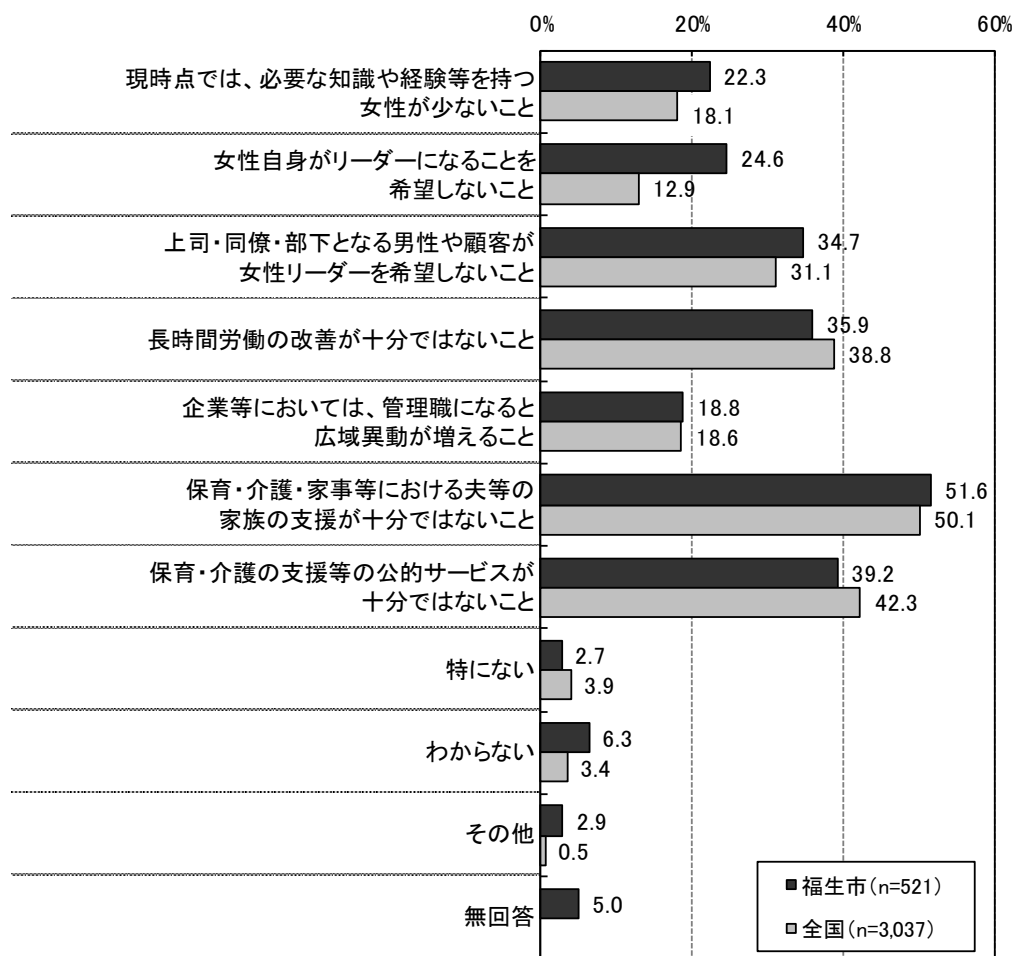
単位：%	n	女性議員が増えること	男女の比率が偏らないように積極的に女性に参加してもらうこと	市、企業、各関係機関・団体等が女性の参画を推進すること	女性の人材等に関する情報の収集・整備・提供に努めること	女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること	女性が参画しなくても特に問題はないので、参画する必要はない	その他	無回答
<b>女性</b>									
今回	267	34.8	32.6	<b>46.4</b>	29.6	46.1	0.4	4.5	6.0
前回	460	24.1	30.7	43.0	33.5	<b>45.7</b>	5.9	3.5	4.6
<b>男性</b>									
今回	213	30.5	<b>46.5</b>	41.8	27.2	39.9	0.5	6.6	6.6
前回	109	33.0	40.4	39.4	20.2	<b>45.9</b>	4.6	2.8	2.8
<b>年代別</b>									
20～29歳	32	34.4	37.5	43.8	<b>50.0</b>	21.9	0.0	9.4	6.3
30～39歳	58	19.0	32.8	<b>37.9</b>	27.6	<b>37.9</b>	1.7	5.2	5.2
40～49歳	79	39.2	30.4	<b>48.1</b>	30.4	35.4	0.0	6.3	2.5
50～59歳	77	22.1	41.6	<b>44.2</b>	28.6	31.2	0.0	6.5	9.1
60～69歳	126	41.3	41.3	46.8	28.6	<b>50.8</b>	0.8	5.6	4.0
70歳以上	108	33.3	43.5	42.6	21.3	<b>58.3</b>	0.0	2.8	10.2

問8 政治・経済・地域等の各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いませんか。

(○はいくつでも)

政治・経済・地域等の各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものについては、「保育・介護・家事等における夫等の家族の支援が十分ではないこと」が51.6%で最も高く、次いで「保育・介護の支援等の公的サービスが十分ではないこと」が39.2%、「長時間労働の改善が十分ではないこと」が35.9%となっています。

全国調査と比較すると、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」が24.6%と、11.7ポイント高くなっています。



全国：「女性の活躍推進に関する世論調査」（平成26年）

【性別および年代別クロス集計】

政治・経済・地域等の各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものについて性別にみると、男女共に「保育・介護・家事等における夫等の家族の支援が十分ではないこと」が最も高くなっていますが、女性が男性に比べて13.3ポイント高くなっています。また、女性では「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が、男性に比べて19.9ポイント高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「保育・介護・家事等における夫等の家族の支援が十分ではないこと」が最も高くなっています。また、70歳以上では「現時点では、必要な知識や経験等を持つ女性が少ないこと」、30～49歳では「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」「長時間労働の改善が十分ではないこと」が、他の年代に比べて高くなっています。

問8 政治・経済・地域等の各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思えますか。

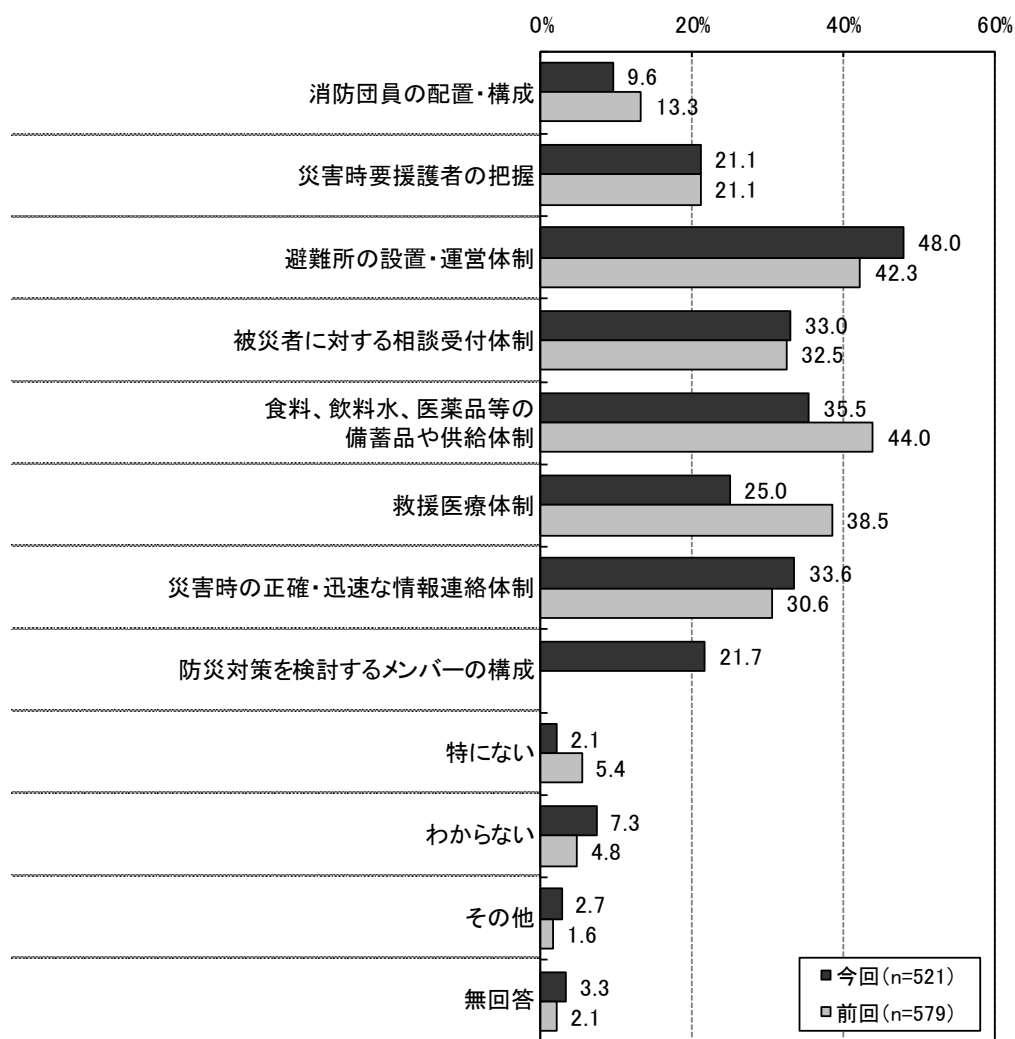
単位:%	n	現時点では、必要な知識や経験等を持つ女性が少ないこと	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	企業等においては、管理職になると広域異動が増えること	保育・介護・家事等における夫等の家族の支援が十分ではないこと	保育・介護の支援等の公的サービスが十分ではないこと	特にない
女性									
今回	267	25.5	22.8	43.4	37.8	19.9	<b>58.8</b>	40.8	1.1
男性									
今回	213	20.2	27.7	23.5	33.3	17.4	<b>45.5</b>	35.2	4.2
年代別									
20～29歳	32	25.0	18.8	34.4	31.3	15.6	<b>65.6</b>	34.4	0.0
30～39歳	58	17.2	25.9	44.8	43.1	17.2	<b>51.7</b>	44.8	1.7
40～49歳	79	17.7	27.8	43.0	41.8	21.5	<b>59.5</b>	36.7	2.5
50～59歳	77	22.1	24.7	29.9	31.2	16.9	<b>53.2</b>	41.6	3.9
60～69歳	126	22.2	22.2	35.7	38.9	20.6	<b>52.4</b>	38.9	4.0
70歳以上	108	31.5	27.8	25.0	28.7	17.6	<b>45.4</b>	34.3	0.9

単位:%	n	わからない	その他	無回答
女性				
今回	267	5.2	2.6	4.9
男性				
今回	213	7.5	2.8	4.7
年代別				
20～29歳	32	9.4	0.0	9.4
30～39歳	58	1.7	1.7	3.4
40～49歳	79	1.3	6.3	1.3
50～59歳	77	5.2	2.6	6.5
60～69歳	126	7.9	1.6	3.2
70歳以上	108	10.2	2.8	7.4

問9 東日本大震災や熊本地震等の発生により、男女共同参画の視点からの災害対応の重要性が高まっています。防災・災害復興対策において性別に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。(〇は3つまで)

防災・災害復興対策において性別に配慮して取り組む必要があることについては、「避難所の設置・運営体制」が48.0%で最も高く、次いで「食料、飲料水、医薬品等の備蓄品や供給体制」が35.5%、「災害時の正確・迅速な情報連絡体制」が33.6%となっています。

前回調査と比較すると、「避難所の設置・運営体制」がやや増加し、「食料、飲料水、医薬品等の備蓄品や供給体制」、「救援医療体制」が減少しています。



※前回調査では「防災対策を検討するメンバーの構成」は選択肢に含まれていません。

## 【性別および年代別クロス集計】

防災・災害復興対策において性別に配慮して取り組む必要があることについて性別にみると、男女共に「避難所の設置・運営体制」が最も高くなっています。前回調査と比較すると、女性では「救援医療体制」が14.9ポイント減少、男性では「食料、飲料水、医薬品等の備蓄品や供給体制」が12.1ポイント減少、「救援医療体制」が12.6ポイント減少しています。

年代別にみると、20～69歳では「避難所の設置・運営体制」が、70歳以上では「災害時の正確・迅速な情報連絡体制」が最も高くなっています。

問9 防災・災害復興対策において性別に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。

単位：%	n	消防団員の配置・構成	災害時要援護者の把握	避難所の設置・運営体制	被災者に対する相談受付体制	食料、飲料水、医薬品等の備蓄品や供給体制	救援医療体制	災害時の正確・迅速な情報連絡体制	防災対策を検討するメンバーの構成
女性									
今回	267	9.4	18.7	<b>46.8</b>	38.2	40.4	23.6	30.3	21.7
前回	460	12.2	20.9	41.7	32.6	<b>43.9</b>	38.5	30.7	-
男性									
今回	213	9.9	22.5	<b>49.8</b>	27.2	31.9	26.8	37.1	21.6
前回	109	16.5	20.2	<b>45.0</b>	32.1	44.0	39.4	31.2	-
年代別									
20～29歳	32	21.9	3.1	<b>50.0</b>	37.5	37.5	25.0	18.8	15.6
30～39歳	58	6.9	8.6	<b>50.0</b>	36.2	44.8	34.5	22.4	12.1
40～49歳	79	6.3	17.7	<b>49.4</b>	43.0	38.0	20.3	24.1	21.5
50～59歳	77	10.4	19.5	<b>50.6</b>	27.3	36.4	19.5	24.7	26.0
60～69歳	126	11.1	25.4	<b>54.0</b>	31.0	33.3	30.2	35.7	27.8
70歳以上	108	7.4	28.7	37.0	30.6	35.2	21.3	<b>53.7</b>	18.5

単位：%	n	特になし	わからない	その他	無回答
女性					
今回	267	1.5	7.5	2.2	2.6
前回	460	5.2	4.6	1.7	2.2
男性					
今回	213	3.3	5.6	2.8	3.8
前回	109	6.4	6.4	0.9	0.9
年代別					
20～29歳	32	0.0	12.5	0.0	3.1
30～39歳	58	5.2	8.6	3.4	1.7
40～49歳	79	1.3	8.9	2.5	1.3
50～59歳	77	1.3	9.1	1.3	3.9
60～69歳	126	3.2	2.4	2.4	3.2
70歳以上	108	1.9	5.6	3.7	4.6

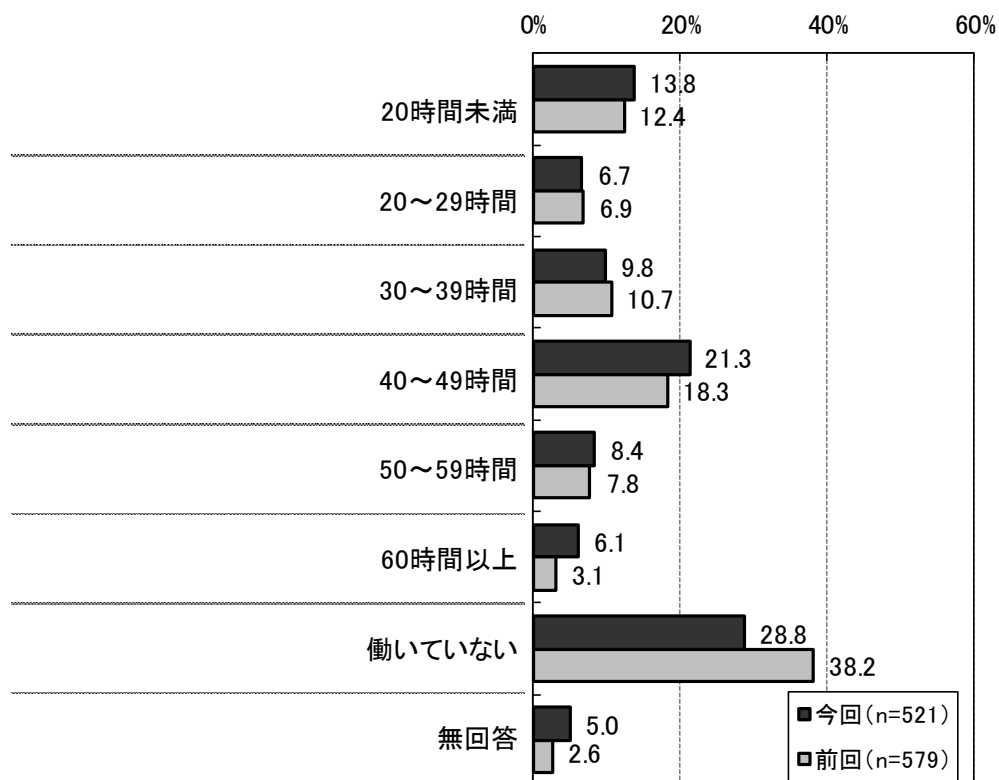


### 3. 職業について

問 10 あなたは、1週間でおよそ何時間くらい働いていますか。(残業時間も含みます。)(○は1つ)

1週間の就労時間については、「働いていない」が28.8%で最も高く、次いで「40～49時間」が21.3%、「20時間未満」が13.8%となっています。

前回調査と比較すると、「働いていない」が9.4ポイント減少しています。



【性別および年代別クロス集計】

1週間の就労時間について性別にみると、男女共に「働いていない」が最も高く、前回調査と比較すると、女性では11.7ポイント減少しています。

年代別にみると、20～29歳、60歳以上では「働いていない」が、30～59歳では「40～49時間」が最も高くなっています。

問 10 あなたは、1週間でおよそ何時間くらい働いていますか。（残業時間も含みます。）

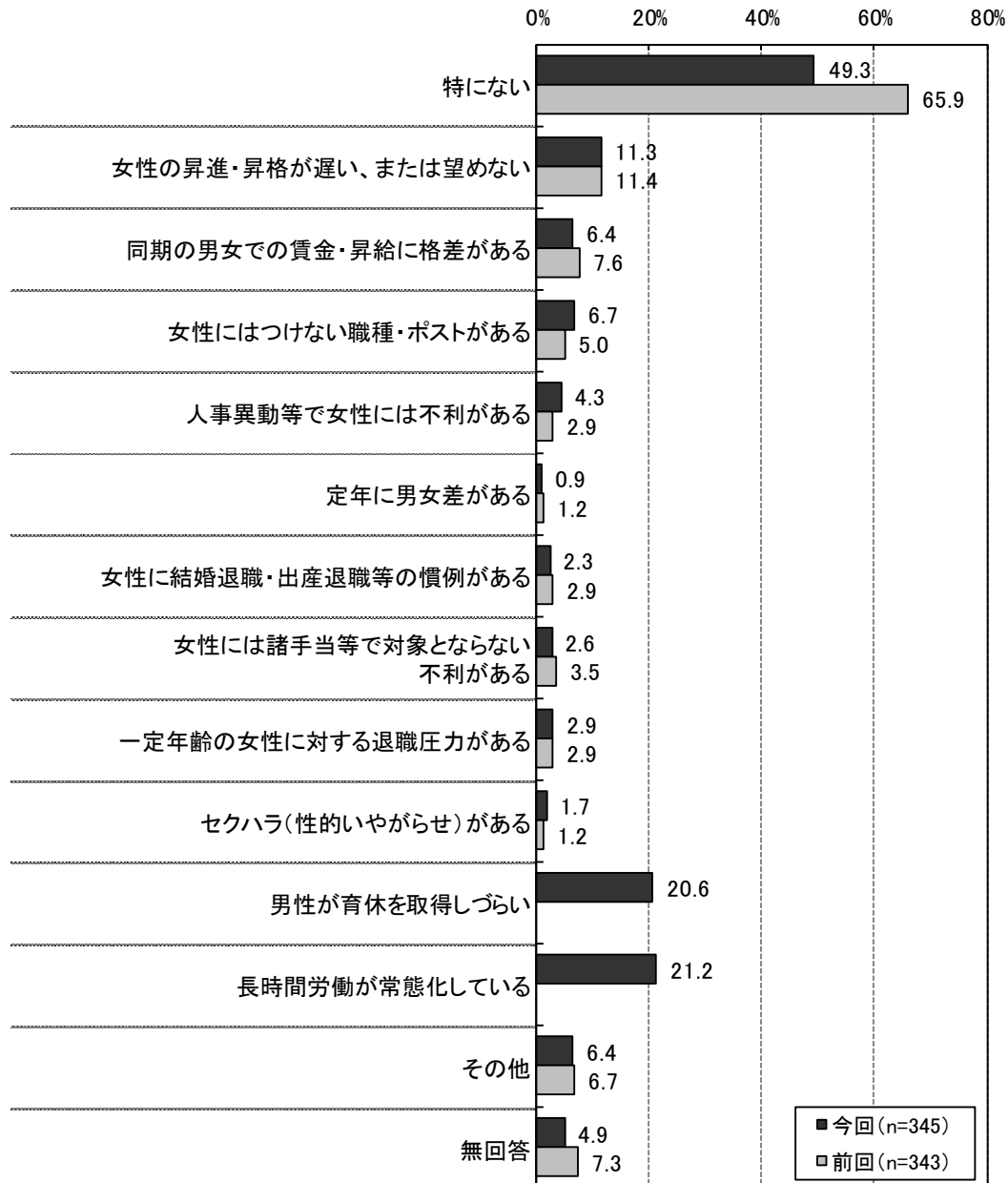
単位：%	n	20時間未満	20～29時間	30～39時間	40～49時間	50～59時間	60時間以上	働いていない	無回答
女性									
今回	267	16.5	9.7	12.0	21.7	3.4	1.9	<b>29.6</b>	5.2
前回	460	12.8	8.5	11.1	16.7	5.0	1.7	<b>41.3</b>	2.8
男性									
今回	213	8.9	3.8	7.5	21.1	15.5	12.2	<b>27.2</b>	3.8
前回	109	11.9	0.9	8.3	<b>25.7</b>	20.2	7.3	24.8	0.9
年代別									
20～29歳	32	6.3	3.1	6.3	31.3	9.4	6.3	<b>34.4</b>	3.1
30～39歳	58	6.9	6.9	12.1	<b>32.8</b>	13.8	12.1	13.8	1.7
40～49歳	79	15.2	10.1	8.9	<b>32.9</b>	15.2	12.7	3.8	1.3
50～59歳	77	14.3	6.5	10.4	<b>33.8</b>	13.0	6.5	13.0	2.6
60～69歳	126	14.3	9.5	13.5	15.9	4.8	4.8	<b>34.1</b>	3.2
70歳以上	108	14.8	3.7	6.5	1.9	2.8	0.9	<b>57.4</b>	12.0

**【問 10 で「働いていない」以外のいずれかを選択した方】**

問 10-1 あなたの職場では現在、次にあげるような問題がありますか。(〇はいくつでも)

職場での問題の有無については、「特にない」が 49.3%で最も高く、次いで「長時間労働が常態化している」が 21.2%、「男性が育休を取得しづらい」が 20.6%となっています。

前回調査と比較すると、「特にない」が 16.6 ポイント減少しています。



※前回調査では「男性が育休を取得しづらい」、「長時間労働が常態化している」は選択肢に含まれていません。

【性別および年代別クロス集計】

職場での問題の有無について性別にみると、男女共に「特にない」が最も高くなっていますが、前回調査と比較すると女性では 7.1 ポイント、男性では 34.5 ポイント減少しています。また、「男性が育休を取得しづらい」では男性が女性を 21.2 ポイント上回っています。

年代別にみると、30～39 歳では「男性が育休を取得しづらい」が、それ以外の年代では「特にない」が最も高くなっています。

問 10-1 あなたの職場では現在、次にあげるような問題がありますか。（○はいくつでも）

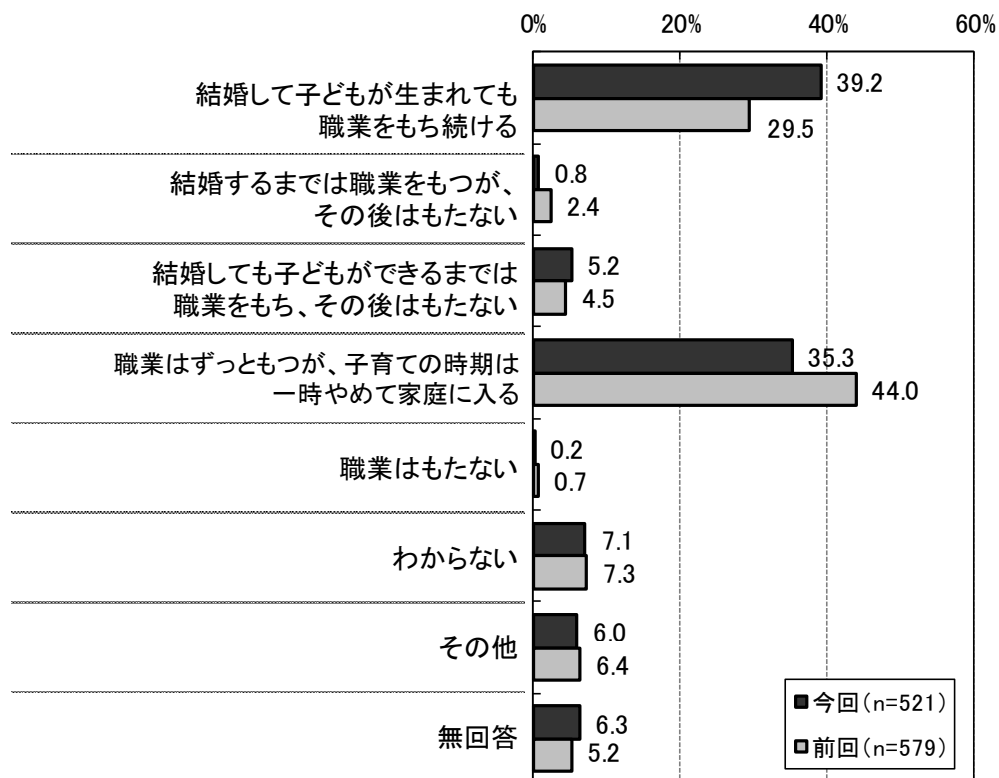
単位：%	n	特にない	女性の昇進・昇格が遅い、または望めない	同期の男女での賃金・昇給に格差がある	女性にはつけない職種・ポストがある	人事異動等で女性には不利がある	定年に男女差がある	女性に結婚退職・出産退職等の慣例がある	女性には諸手当等で対象とならない不利がある
女性									
今回	174	<b>56.3</b>	10.9	7.5	3.4	3.4	1.1	2.9	3.4
前回	257	<b>63.4</b>	12.8	7.4	4.3	2.7	1.2	3.1	3.9
男性									
今回	147	<b>40.8</b>	12.2	4.1	10.2	4.8	0.0	1.4	1.4
前回	81	<b>75.3</b>	7.4	8.6	7.4	3.7	1.2	2.5	2.5
年代別									
20～29歳	20	<b>55.0</b>	15.0	5.0	5.0	0.0	0.0	5.0	0.0
30～39歳	49	<b>40.8</b>	12.2	6.1	4.1	6.1	2.0	4.1	2.0
40～49歳	75	<b>44.0</b>	16.0	4.0	8.0	2.7	0.0	4.0	1.3
50～59歳	65	<b>41.5</b>	9.2	4.6	4.6	1.5	1.5	1.5	3.1
60～69歳	79	<b>57.0</b>	10.1	7.6	7.6	7.6	0.0	0.0	3.8
70歳以上	33	<b>66.7</b>	6.1	9.1	9.1	3.0	0.0	0.0	3.0

単位：%	n	一定年齢の女性に対する退職圧力がある	セクハラ（性的いやがらせ）がある	男性が育休を取得しづらい	長時間労働が常態化している	その他	無回答
女性							
今回	174	3.4	2.3	11.5	17.2	8.0	6.3
前回	257	3.9	1.6	-	-	8.2	7.4
男性							
今回	147	2.7	1.4	32.7	25.9	4.8	2.7
前回	81	0.0	0.0	-	-	1.2	4.9
年代別							
20～29歳	20	5.0	0.0	15.0	20.0	5.0	0.0
30～39歳	49	2.0	4.1	<b>42.9</b>	32.7	4.1	2.0
40～49歳	75	2.7	2.7	20.0	25.3	5.3	6.7
50～59歳	65	1.5	1.5	16.9	21.5	7.7	6.2
60～69歳	79	5.1	1.3	20.3	16.5	6.3	3.8
70歳以上	33	3.0	0.0	6.1	6.1	12.1	6.1

問 11 あなたは、女性と職業の望ましい関わり方についてどのように思いますか。次の中から望ましいと思うものを1つだけお選びください。(○は1つ)

女性と職業の望ましい関わり方については、「結婚して子どもが生まれても職業をもち続ける」の『職業継続型』が39.2%で最も高く、次いで「職業はずっともつが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る」の『中断再就職型』が35.3%、「わからない」が7.1%となっています。

前回調査と比較すると、「結婚して子どもが生まれても職業をもち続ける」が9.7ポイント増加し、「職業はずっともつが、子育ての時期には一時やめて家庭に入る」が8.7ポイント減少しています。



## 【性別および年代別クロス集計】

女性と職業の望ましい関わり方について性別にみると、女性では「結婚して子どもが生まれても職業をもち続ける」の『職業継続型』が、男性では「職業はずっともつが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る」の『中断再就職型』が最も高くなっています。また前回調査と比較すると、女性では「結婚して子どもが生まれても職業をもち続ける」の『職業継続型』が13.1ポイント増加、「職業はずっともつが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る」の『中断再就職型』が10.1ポイント減少しています。一方男性では、「結婚して子どもが生まれても職業をもち続ける」の『職業継続型』が9.5ポイント増加しています。

年代別にみると、30～59歳では「結婚して子どもが生まれても職業をもち続ける」の『職業継続型』が、60～69歳では「結婚して子どもが生まれても職業をもち続ける」の『職業継続型』『職業はずっともつが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る』の『中断再就職型』のいずれも、20～29歳、70歳以上では「職業はずっともつが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る」の『中断再就職型』が最も高くなっています。

問11 あなたは、女性と職業の望ましい関わり方についてどのように思いますか。次の中から望ましいと思うものを1つだけお選びください。

単位:%	n	結婚して子どもが生まれても職業をもち続ける	結婚するまでは職業をもつが、その後はもたない	結婚しても子どもができるまでは職業をもち、その後はもたない	職業はずっともつが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る	職業はもたない	わからない	その他	無回答
<b>女性</b>									
今回	267	<b>43.1</b>	0.4	4.9	34.5	0.0	7.1	4.1	6.0
前回	460	30.0	1.7	3.5	<b>44.6</b>	0.2	7.2	7.4	5.4
<b>男性</b>									
今回	213	35.2	1.4	6.1	<b>36.2</b>	0.5	6.6	8.5	5.6
前回	109	25.7	4.6	9.2	<b>43.1</b>	2.8	8.3	2.8	3.7
<b>年代別</b>									
20～29歳	32	31.3	0.0	12.5	<b>43.8</b>	0.0	9.4	0.0	3.1
30～39歳	58	<b>37.9</b>	0.0	5.2	36.2	0.0	5.2	12.1	3.4
40～49歳	79	<b>54.4</b>	0.0	5.1	24.1	0.0	7.6	7.6	1.3
50～59歳	77	<b>45.5</b>	1.3	2.6	29.9	0.0	3.9	10.4	6.5
60～69歳	126	<b>39.7</b>	0.8	4.0	<b>39.7</b>	0.0	6.3	4.0	5.6
70歳以上	108	27.8	1.9	7.4	<b>38.9</b>	0.9	9.3	2.8	11.1

問 12 あなたは、育児休業・介護休業を取得しましたか。また、今後取得する予定がありますか。(①と②  
それぞれ○は1つ)

■①育児休業

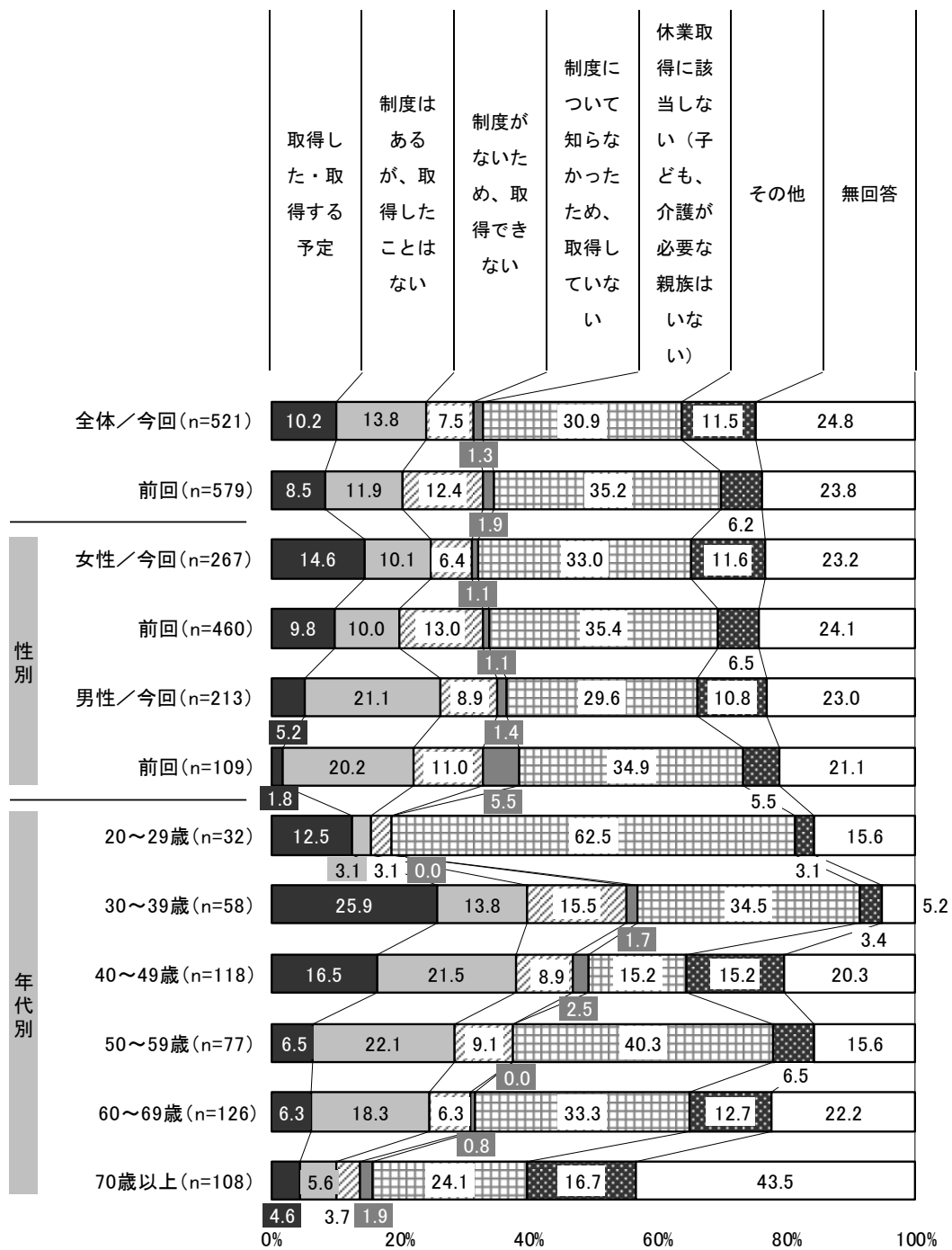
---

育児休業の取得については、「休業取得に該当しない（子ども、介護が必要な親族はいない）」が30.9%で最も高く、次いで「制度はあるが、取得したことはない」が13.8%となっています。

性別にみると、女性では「取得した・取得する予定」が14.6%と男性に比べて高く、男性では「制度はあるが、取得したことはない」が21.1%と女性に比べて高くなっています。

年代別にみると、20～29歳では「休業取得に該当しない（子ども、介護が必要な親族はいない）」が62.5%、30～39歳では「取得した・取得する予定」が25.9%と、他の年代に比べて高くなっています。

---



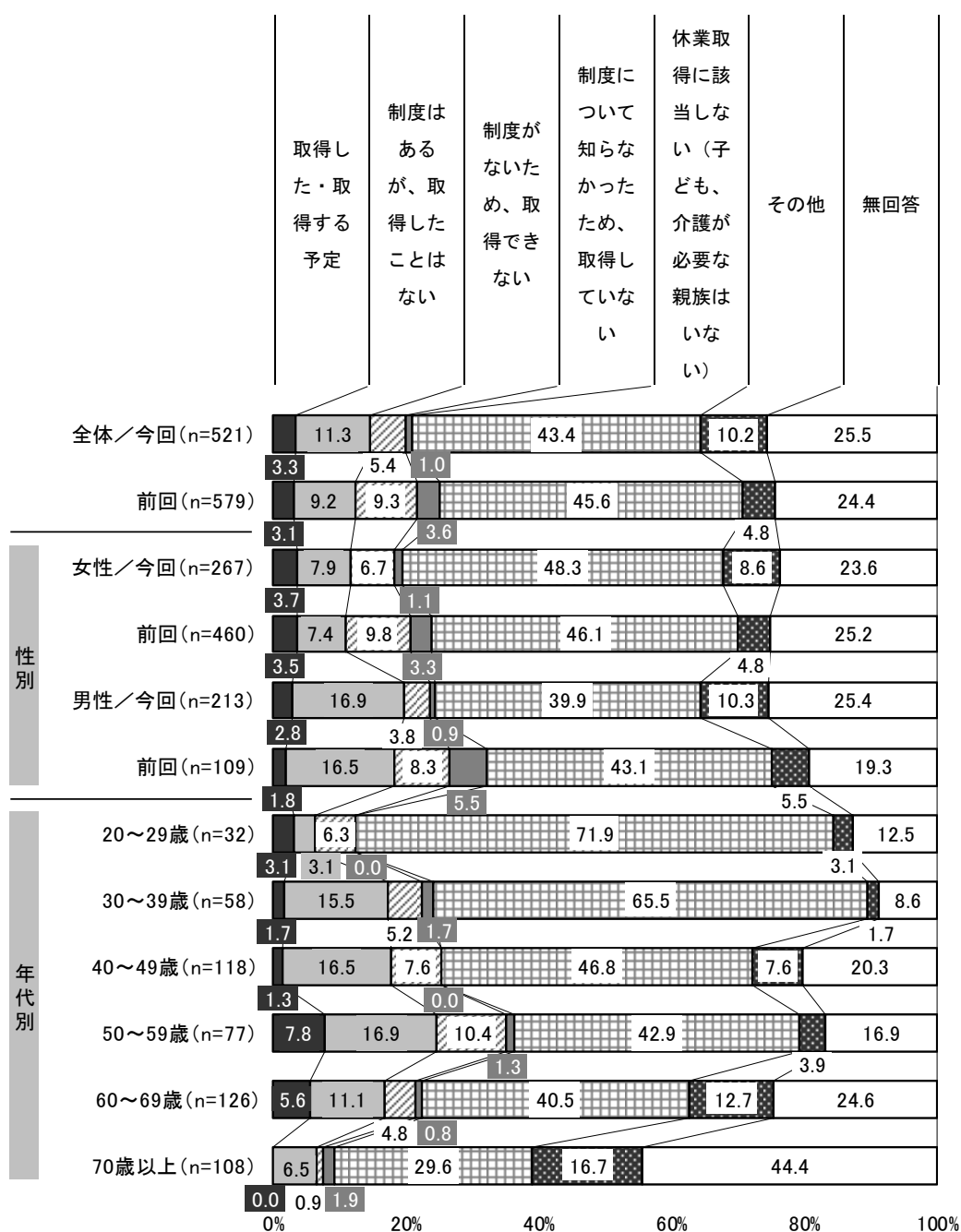


## ■②介護休業

介護休業の取得については、「休業取得に該当しない（子ども、介護が必要な親族はいない）」が43.4%で最も高く、次いで「制度はあるが、取得したことはない」が11.3%、「その他」が10.2%となっています。

性別にみると、男性では「制度はあるが、取得したことはない」が16.9%と、女性に比べてやや高くなっています。

年代別にみると、「休業取得に該当しない（子ども、介護が必要な親族はいない）」がすべての年代で最も高くなっていますが、年齢と共に減少しています。

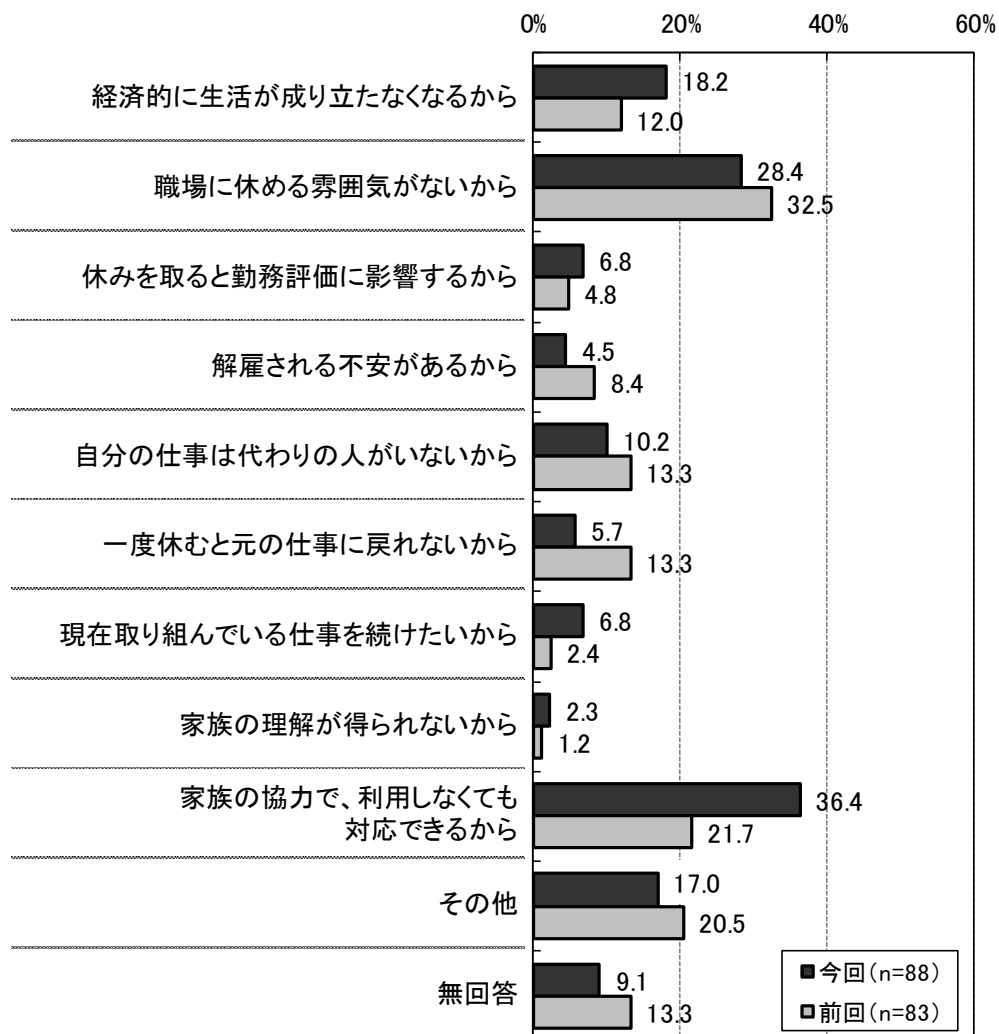


**【問 12 の①または②で「制度はあるが、取得したことはない」を選択した方】**

**問 12-1 育児や介護の休業制度を利用しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)**

育児や介護の休業制度を利用しない理由については、「家族の協力で、利用しなくても対応できるから」が 36.4%で最も高く、次いで「職場に休める雰囲気がないから」が 28.4%、「経済的に生活が成り立たなくなるから」が 18.2%となっています。

前回調査と比較すると、「経済的に生活が成り立たなくなるから」が 6.2 ポイント、「家族の協力で、利用しなくても対応できるから」が 14.7 ポイント増加し、また、「一度休むと元の仕事に戻れないから」が 5.7%と、7.6 ポイント減少しています。



【性別および年代別クロス集計】

育児や介護の休業制度を利用しない理由について性別にみると、女性では「その他」が、男性では「家族の協力で、利用しなくても対応できるから」が最も高くなっています。また、前回調査と比較すると、男性では「職場に休める雰囲気がないから」が20.6ポイント、「自分の仕事は代わりの人がいないから」が13.2ポイント減少しています。

年代別にみると、20～29歳、50～69歳では「家族の協力で、利用しなくても対応できるから」、30～49歳では「職場に休める雰囲気がないから」が最も高くなっています。

【問12の①または②で「制度はあるが、取得したことはない」を選択した方】

問12-1 育児や介護の休業制度を利用しない理由は何ですか。

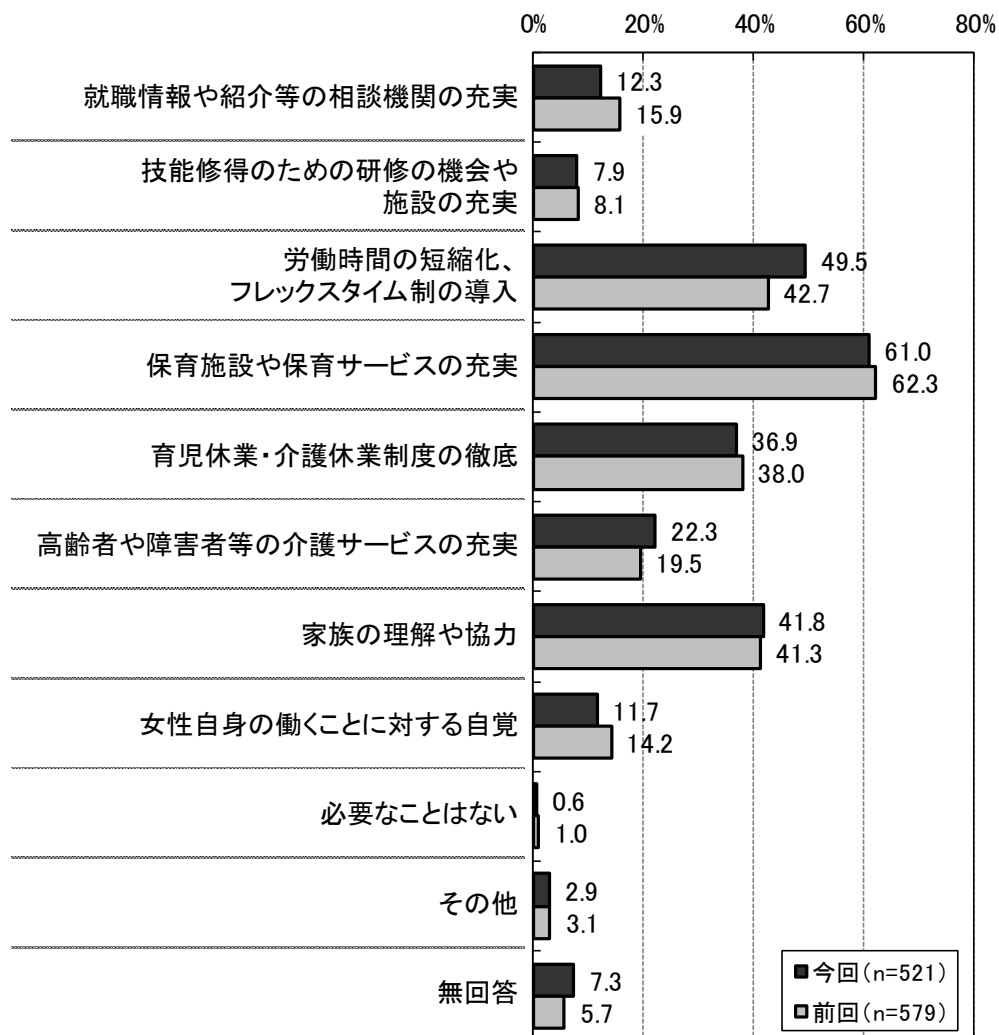
単位:%	n	経済的に生活が成り立たなくなるから	職場に休める雰囲気がないから	休みを取ると勤務評価に影響するから	解雇される不安があるから	自分の仕事は代わりの人がいないから	一度休むと元の仕事に戻れないから	現在取り組んでいる仕事を続けたいから	家族の理解が得られないから
女性									
今回	35	8.6	25.7	2.9	8.6	5.7	11.4	5.7	5.7
前回	58	5.2	<b>25.9</b>	1.7	10.3	8.6	17.2	1.7	1.7
男性									
今回	51	23.5	29.4	9.8	2.0	11.8	2.0	7.8	0.0
前回	24	25.0	<b>50.0</b>	8.3	4.2	25.0	4.2	0.0	0.0
年代別									
20～29歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30～39歳	13	23.1	<b>30.8</b>	7.7	7.7	0.0	15.4	15.4	0.0
40～49歳	21	19.0	<b>33.3</b>	4.8	0.0	28.6	0.0	4.8	4.8
50～59歳	18	16.7	<b>33.3</b>	5.6	11.1	0.0	11.1	0.0	5.6
60～69歳	26	15.4	23.1	11.5	3.8	7.7	3.8	7.7	0.0
70歳以上	7	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0

単位:%	n	家族の協力で、利用しなくても対応できるから	その他	無回答
女性				
今回	35	20.0	<b>31.4</b>	11.4
前回	58	12.1	<b>25.9</b>	19.0
男性				
今回	51	<b>49.0</b>	7.8	5.9
前回	24	41.7	8.3	0.0
年代別				
20～29歳	1	<b>100.0</b>	0.0	0.0
30～39歳	13	23.1	7.7	23.1
40～49歳	21	28.6	9.5	4.8
50～59歳	18	<b>55.6</b>	16.7	5.6
60～69歳	26	<b>38.5</b>	23.1	7.7
70歳以上	7	28.6	<b>42.9</b>	0.0

問 13 女性が結婚・出産後も働き続けるため、また再就職するためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたのお考えに近いものをお選びください。(〇は3つまで)

女性が結婚・出産後も働き続けるため、また再就職するために必要なことについては、「保育施設や保育サービスの充実」が61.0%で最も高く、次いで「労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入」が49.5%、「家族の理解や協力」が41.8%となっています。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向となっているものの、「労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入」が6.8ポイント増加しています。



## 【性別および年代別クロス集計】

女性が結婚・出産後も働き続けるため、また再就職するために必要なことについて性別にみると、男女共に「保育施設や保育サービスの充実」が最も高くなっています。前回調査と比較すると、男性では「労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入」が12.7ポイント増加し、「保育施設や保育サービスの充実」が8.2ポイント減少しています。

年代別にみると、20～29歳では「労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入」「保育施設や保育サービスの充実」が、その他の年代では「保育施設や保育サービスの充実」が最も高くなっています。また、40～49歳では「家族の理解や協力」が55.7%と、他の年代よりも高くなっています。

問13 女性が結婚・出産後も働き続けるため、また再就職するためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたのお考えに近いものをお選びください。

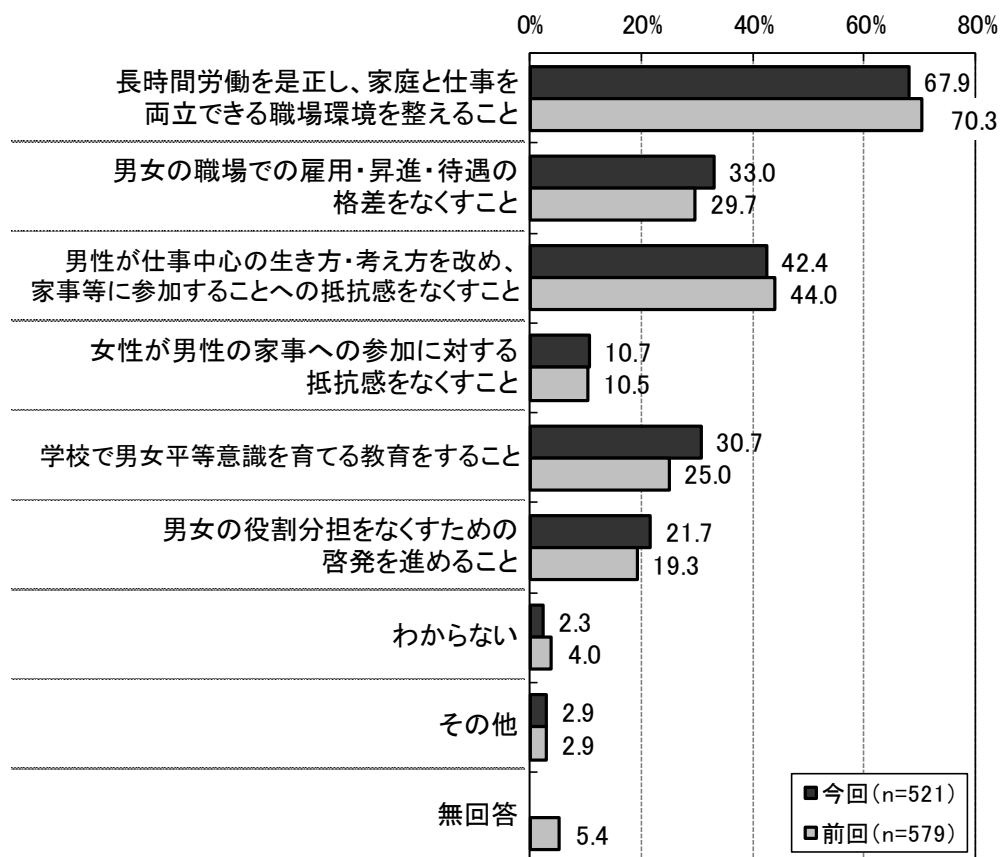
単位：%	n	就職情報や紹介等の相談機 関の充実	技能修得のための研 修の機会や施設の充 実	労働時間の短縮化、フレ ックスタイム制の導入	保育施設や保育サー ビスの充実	育児休業・介護 休業制度の徹底	高齢者 や障害 者等の 介護 サービ スの充実	家族の 理解や 協力	女性自 身の働 くこと に対する自 覚
女性									
今回	267	9.4	8.6	49.8	<b>62.5</b>	35.6	21.7	46.8	9.7
前回	460	16.5	8.5	44.1	<b>61.1</b>	37.2	19.3	43.9	14.6
男性									
今回	213	16.4	7.0	51.2	<b>60.6</b>	40.4	21.6	36.6	13.1
前回	109	13.8	5.5	38.5	<b>68.8</b>	43.1	19.3	31.2	12.8
年代別									
20～29歳	32	28.1	9.4	<b>75.0</b>	<b>75.0</b>	46.9	0.0	34.4	3.1
30～39歳	58	12.1	5.2	60.3	<b>74.1</b>	39.7	12.1	37.9	8.6
40～49歳	79	10.1	7.6	55.7	<b>63.3</b>	27.8	10.1	55.7	12.7
50～59歳	77	11.7	9.1	50.6	<b>63.6</b>	39.0	31.2	36.4	9.1
60～69歳	126	12.7	6.3	43.7	<b>63.5</b>	42.1	31.0	42.9	11.9
70歳以上	108	10.2	10.2	41.7	<b>46.3</b>	35.2	24.1	40.7	14.8

単位：%	n	必要なこ とはない	その他	無回答
女性				
今回	267	0.4	2.2	7.9
前回	460	0.9	3.3	5.2
男性				
今回	213	0.9	4.2	4.2
前回	109	1.8	2.8	6.4
年代別				
20～29歳	32	0.0	0.0	0.0
30～39歳	58	0.0	5.2	6.9
40～49歳	79	1.3	1.3	2.5
50～59歳	77	0.0	3.9	6.5
60～69歳	126	0.8	3.2	3.2
70歳以上	108	0.9	3.7	13.9

問 14 今後、男女が共に仕事と生活の調和を図るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

男女が共に仕事と生活の調和を図るために必要なことについては、「長時間労働を是正し、家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること」が67.9%で最も高く、次いで「男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事等に参加することへの抵抗感をなくすこと」が42.4%、「男女の職場での雇用・昇進・待遇の格差をなくすこと」が33.0%となっています。

前回調査と比較すると、「学校で男女平等意識を育てる教育をすること」が30.7%と、5.7ポイント増加しています。



【性別および年代別クロス集計】

男女が共に仕事と生活の調和を図るために必要なことについて性別にみると、前回調査と同様、男女共に「長時間労働を是正し、家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること」が最も高くなっています。

性別にみると、女性では前回と比較して「学校で男女平等意識を育てる教育をすること」が10.4ポイント増加しています。

年代別にみると、すべての年代で「長時間労働を是正し、家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること」が最も高くなっています。また、20～29歳では「男女の職場での雇用・昇進・待遇の格差をなくすこと」が他の年代と比べて高く、「男女の役割分担をなくすための啓発を進めること」が他の年代と比べて低くなっています。

問14 今後、男女が共に仕事と生活の調和を図るためには、どのようなことが必要だと思いますか。

単位：%	n	長時間労働を是正し、家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること	男女の職場での雇用・昇進・待遇の格差をなくすこと	男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事等に参加することへの抵抗感をなくすこと	女性が男性の家事への参加に対する抵抗感をなくすこと	学校で男女平等意識を育てる教育をすること	男女の役割分担をなくすための啓発を進めること	わからない	その他	無回答
女性										
今回	267	<b>65.5</b>	34.8	45.3	10.5	34.1	21.7	1.5	3.0	7.5
前回	460	<b>69.8</b>	30.0	45.0	11.3	23.7	18.7	3.7	3.0	5.2
男性										
今回	213	<b>72.8</b>	30.5	39.0	9.9	25.4	22.5	3.8	2.8	4.2
前回	109	<b>73.4</b>	30.3	37.6	7.3	29.4	20.2	5.5	2.8	5.5
年代別										
20～29歳	32	<b>87.5</b>	56.3	43.8	12.5	18.8	9.4	0.0	0.0	3.1
30～39歳	58	<b>74.1</b>	25.9	36.2	8.6	29.3	27.6	1.7	0.0	6.9
40～49歳	79	<b>70.9</b>	27.8	49.4	11.4	29.1	22.8	3.8	5.1	2.5
50～59歳	77	<b>67.5</b>	32.5	41.6	5.2	32.5	16.9	0.0	2.6	6.5
60～69歳	126	<b>64.3</b>	33.3	42.9	11.9	33.3	27.8	1.6	4.8	4.0
70歳以上	108	<b>64.8</b>	33.3	40.7	11.1	29.6	19.4	5.6	1.9	11.1

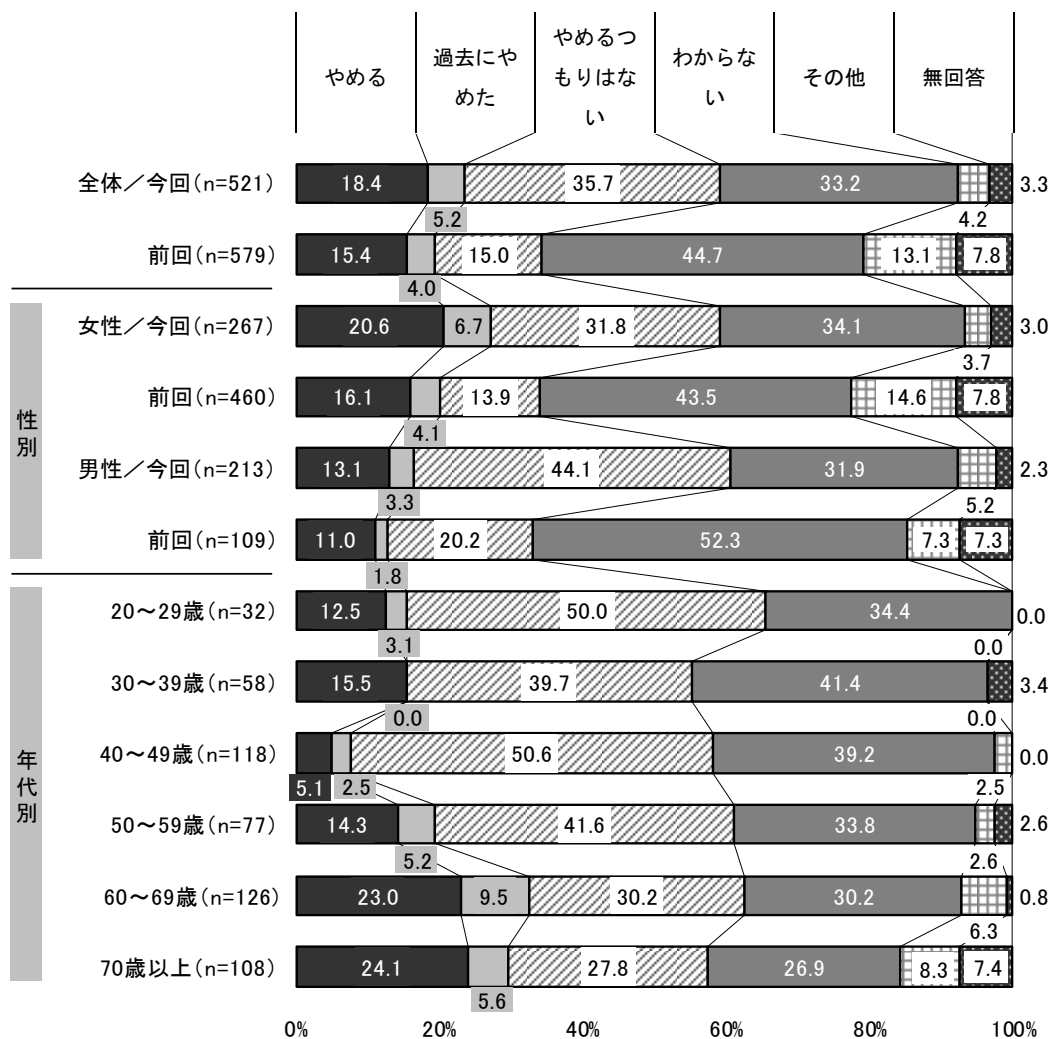
#### 4. 介護・定年後について

問 15 あなたは同居している家族に介護が必要になった場合、仕事をやめますか。実際に同居している家族がいっしょにいない場合はいると仮定して、また、仕事をしていない場合はしていると仮定してお答えください。(〇は1つ)

同居している家族に介護が必要になった場合、仕事をやめるかどうかについては、「やめるつもりはない」が35.7%で最も高く、次いで「わからない」が33.2%、「やめる」が18.4%となっています。

性別にみると、女性では「やめる」が20.6%と男性に比べてやや高く、男性では「やめるつもりはない」が44.1%と女性に比べて高くなっています。前回調査と比較すると、男女共に「やめるつもりはない」が大きく増加しています。

年代別にみると、20～29歳、40～49歳では「やめるつもりはない」が5割台と、他の年代に比べて高くなっています。

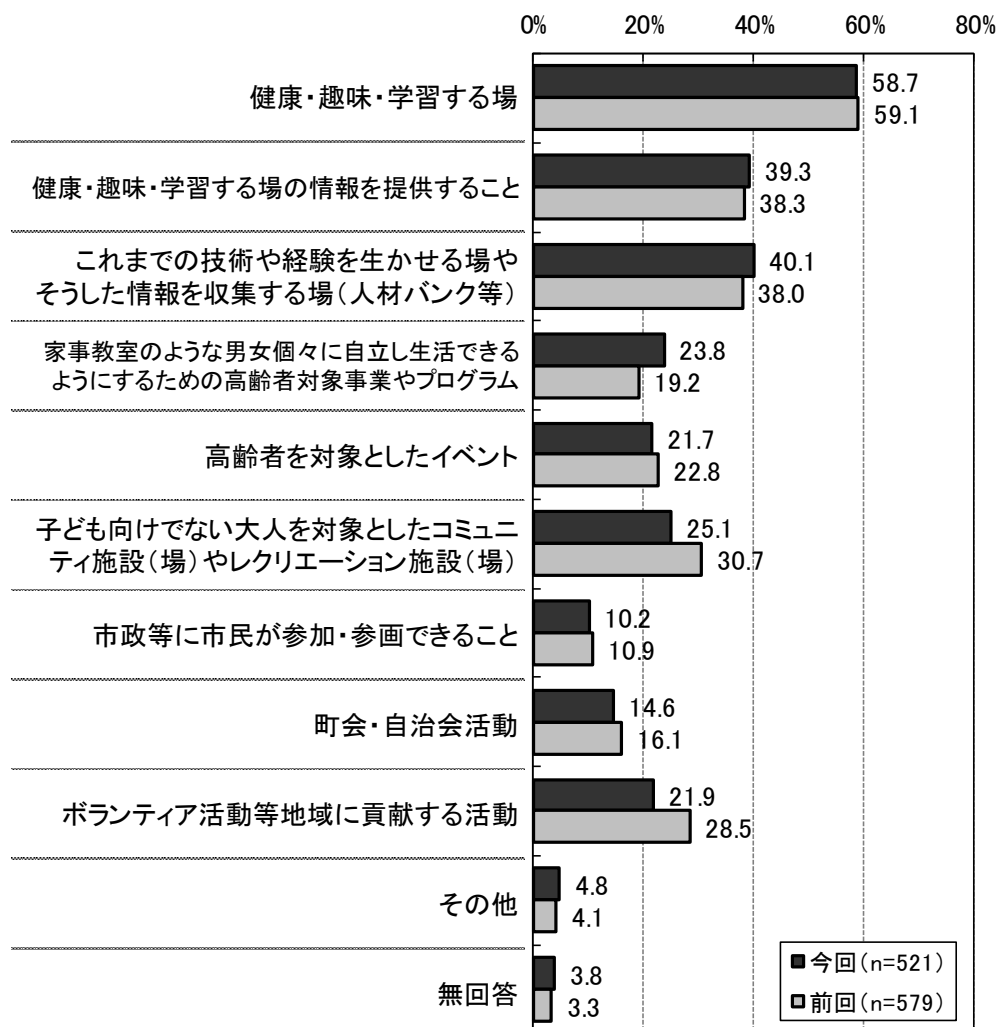




問 16 定年後の人生を男女が共に豊かに生きていく社会をつくるには、次のどのようなものが有効だと思いますか。(〇はいくつでも)

定年後の人生を男女が共に豊かに生きていく社会をつくるために有効なものについては、「健康・趣味・学習する場」が58.7%で最も高く、次いで「これまでの技術や経験を生かせる場やそうした情報を収集する場(人材バンク等)」が40.1%、「健康・趣味・学習する場の情報を提供すること」が39.3%となっています。

前回調査と比較すると、「子ども向けでない大人を対象としたコミュニティ施設(場)やレクリエーション施設(場)」が25.1%と5.6ポイント、「ボランティア活動等地域に貢献する活動」が21.9%と6.6ポイント減少しています。



### 【性別および年代別クロス集計】

---

定年後の人生を男女が共に豊かに生きていく社会をつくるために有効なものについて性別にみると、男女共に「健康・趣味・学習する場」が最も高くなっています。前回調査と比較すると、女性では「家事教室のような男女個々に自立し生活できるようにするための高齢者対象事業やプログラム」が7.9ポイント増加、「ボランティア活動等地域に貢献する活動」が8.1ポイント減少しています。男性では、「健康・趣味・学習する場」が8.3ポイント増加、「町会・自治会活動」が7.5ポイント減少、「ボランティア活動等地域に貢献する活動」が6.9ポイント減少しています。

年代別にみると、すべての年代で「健康・趣味・学習する場」が最も高くなっています。

---

問 16 定年後の人生を男女が共に豊かに生きていく社会をつくるには、次のどのようなものが有効だと思いますか。

単位:%	n	健康・趣味・学習する場	健康・趣味・学習する場の情報を提供すること	これまでの技術や経験を生かせる場やそうした情報を収集する場(人材バンク等)	家事教室のような男女個々に自立生活できるようにするための高齢者対象事業やプログラム	高齢者を対象としたイベント	子ども向けでない大人を対象としたコミュニティ施設(場)やレクリエーション施設(場)	市政等に市民が参加・参画できること	町会・自治会活動
女性									
今回	267	58.1	41.6	44.9	27.7	24.0	27.3	9.0	12.4
前回	460	61.1	37.8	39.3	19.8	23.3	31.1	9.6	14.1
男性									
今回	213	62.4	38.0	34.3	16.9	18.8	23.0	11.3	16.4
前回	109	54.1	42.2	32.1	17.4	20.2	29.4	15.6	23.9
年代別									
20～29歳	32	71.9	43.8	46.9	18.8	25.0	34.4	12.5	21.9
30～39歳	58	67.2	31.0	44.8	15.5	24.1	25.9	5.2	5.2
40～49歳	79	69.6	27.8	35.4	17.7	27.8	31.6	7.6	15.2
50～59歳	77	67.5	36.4	46.8	24.7	16.9	27.3	7.8	10.4
60～69歳	126	51.6	47.6	42.1	23.8	13.5	20.6	11.9	11.9
70歳以上	108	50.0	46.3	32.4	29.6	27.8	22.2	13.0	21.3

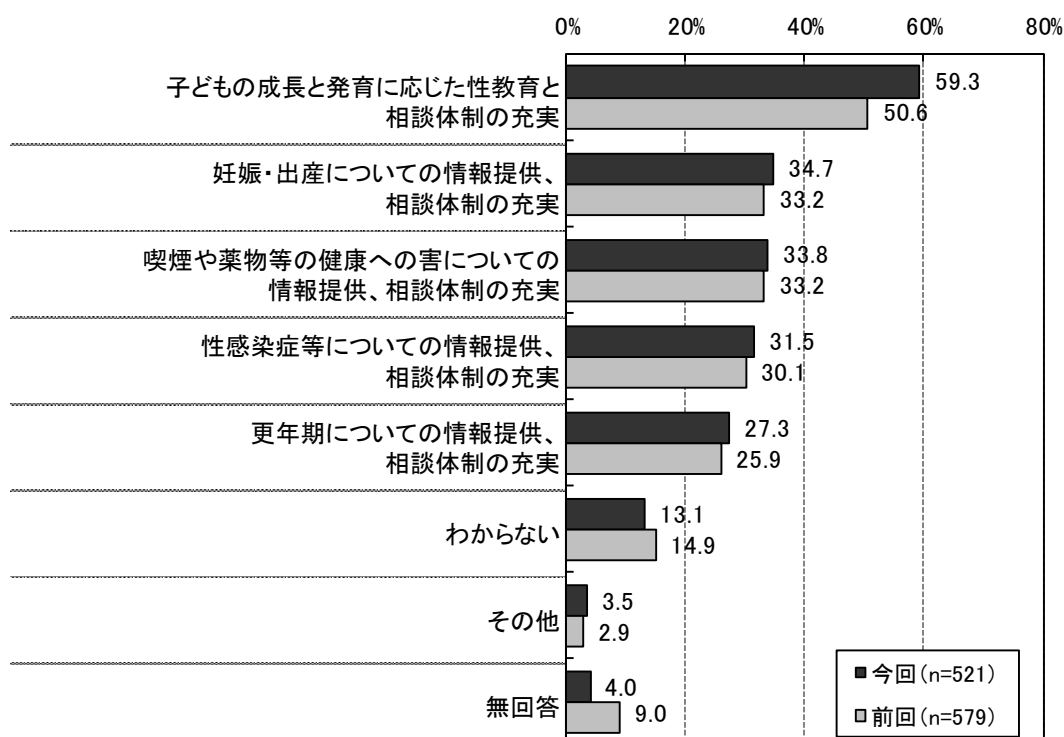
単位:%	n	ボランティア活動等地域に貢献する活動	その他	無回答
女性				
今回	267	20.2	3.0	3.4
前回	460	28.3	4.3	2.6
男性				
今回	213	22.5	6.6	3.3
前回	109	29.4	3.7	5.5
年代別				
20～29歳	32	21.9	0.0	3.1
30～39歳	58	10.3	5.2	3.4
40～49歳	79	21.5	3.8	0.0
50～59歳	77	29.9	1.3	2.6
60～69歳	126	20.6	4.0	2.4
70歳以上	108	21.3	9.3	7.4

## 5. 健康（性の権利・考え方）について

問 17 性の自己決定権(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)に基づいて、女性が妊娠、避妊、中絶に関して自分で決めたり、自分の健康を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

女性が妊娠、避妊、中絶に関して自分で決めたり、自分の健康を守るために必要なことについては、「子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実」が 59.3%で最も高く、次いで「妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実」が 34.7%、「喫煙や薬物等の健康への害についての情報提供、相談体制の充実」が 33.8%となっています。

前回調査と比較すると、「子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実」が 8.7 ポイント増加しています。



【性別および年代別クロス集計】

女性が妊娠、避妊、中絶に関して自分で決めたり、自分の健康を守るために必要なことについて性別にみると、男女共に「子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実」が最も高く、女性は前回調査と比較して10ポイント以上増加しています。また、男性は「わからない」が20.2%と女性を上回っています。

年代別にみると、20～29歳では「妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実」が、その他の年代では「子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実」が最も高くなっています。また、20～29歳では「性感染症等についての情報提供、相談体制の充実」が他の年代と比較して高くなっています。

問 17 性の自己決定権（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）に基づいて、女性が妊娠、避妊、中絶に関して自分で決めたり、自分の健康を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。

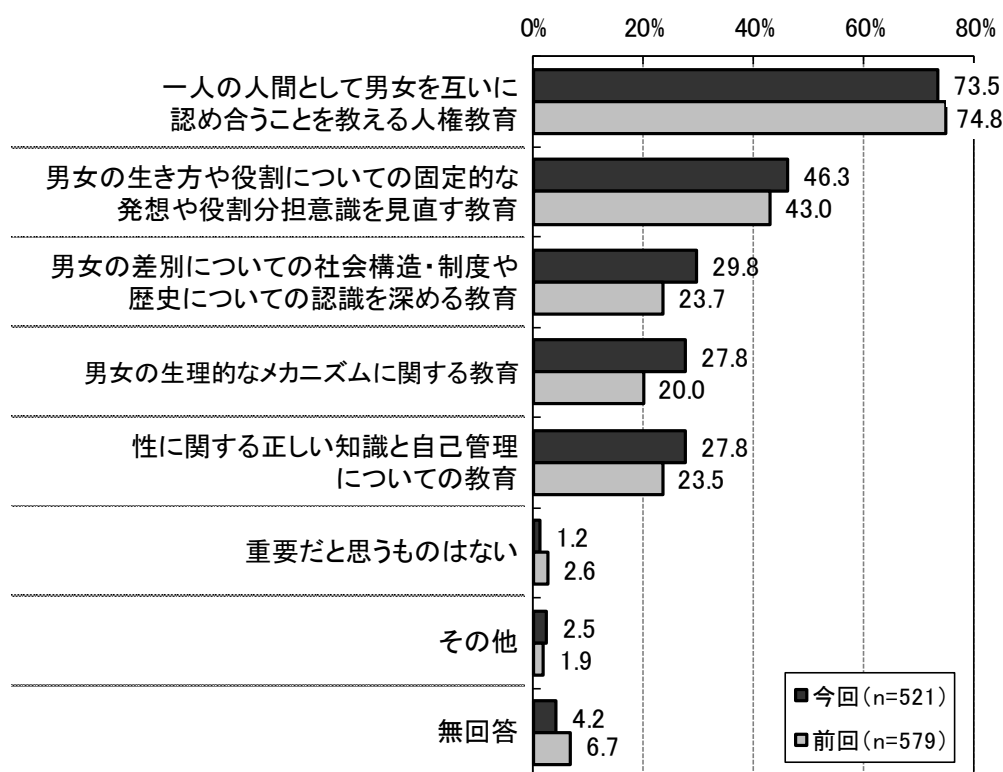
単位：%	n	子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実	妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実	喫煙や薬物等の健康への害についての情報提供、相談体制の充実	性感染症等についての情報提供、相談体制の充実	更年期についての情報提供、相談体制の充実	わからない	その他	無回答
女性									
今回	267	<b>65.5</b>	36.7	37.1	33.3	29.6	7.5	4.5	3.0
前回	460	<b>53.0</b>	35.0	33.3	30.9	27.4	12.8	3.7	8.0
男性									
今回	213	<b>52.6</b>	35.7	30.0	30.5	24.4	20.2	1.9	2.3
前回	109	<b>43.1</b>	25.7	33.9	28.4	18.3	24.8	0.0	10.1
年代別									
20～29歳	32	68.8	<b>71.9</b>	25.0	56.3	12.5	3.1	3.1	3.1
30～39歳	58	<b>67.2</b>	44.8	22.4	25.9	19.0	12.1	3.4	3.4
40～49歳	79	<b>70.9</b>	41.8	29.1	31.6	21.5	11.4	6.3	0.0
50～59歳	77	<b>53.2</b>	33.8	37.7	28.6	31.2	18.2	1.3	2.6
60～69歳	126	<b>57.1</b>	34.1	39.7	35.7	31.0	11.1	1.6	2.4
70歳以上	108	<b>52.8</b>	21.3	37.0	26.9	33.3	16.7	4.6	4.6

## 6. 教育について

問 18 男女共同参画社会の形成のために行う教育の内容についてはどのようなことが重要だと思いますか。  
(〇は3つまで)

男女共同参画社会の形成のために行う教育の内容について重要なことについては、「一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える人権教育」が73.5%で最も高く、次いで「男女の生き方や役割についての固定的な発想や役割分担意識を見直す教育」が46.3%、「男女の差別についての社会構造・制度や歴史についての認識を深める教育」が29.8%となっています。

前回調査と比較すると、「男女の差別についての社会構造・制度や歴史についての認識を深める教育」が6.1ポイント、「男女の生理的なメカニズムに関する教育」が7.8ポイント増加しています。



## 【性別および年代別クロス集計】

男女共同参画社会の形成のために行う教育の内容について重要なことについて性別にみると、男女共に「一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える人権教育」が最も高くなっています。また、女性では「男女の生理的なメカニズムに関する教育」が9.4ポイント、「性に関する正しい知識と自己管理についての教育」が7.9ポイント増加しており、男性では「男女の差別についての社会構造・制度や歴史についての認識を深める教育」が8.1ポイント増加しています。

年代別にみると、すべての年代で「一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える人権教育」が最も高くなっています。また、20～29歳では「性に関する正しい知識と自己管理についての教育」が37.5%と、他の年代よりもやや高くなっています。

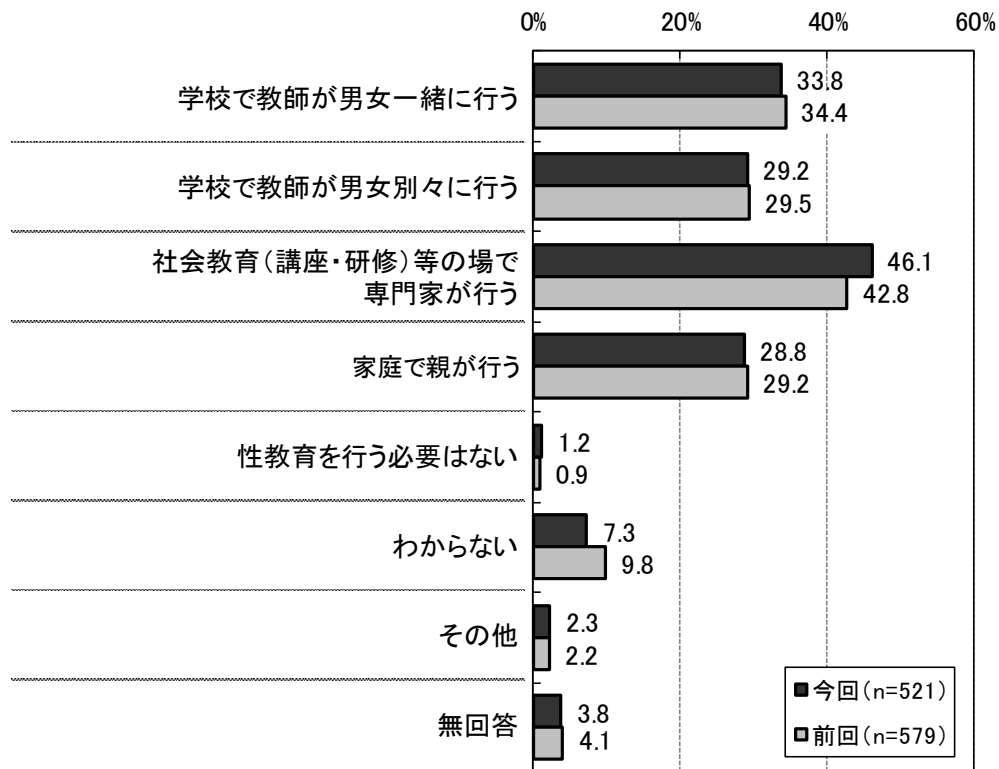
問18 男女共同参画社会の形成のために行う教育の内容についてはどのようなことが重要だと思いますか。

単位：%	n	一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える人権教育	男女の生き方や役割についての固定的な発想や役割分担意識を見直す教育	男女の差別についての社会構造・制度や歴史についての認識を深める教育	男女の生理的なメカニズムに関する教育	性に関する正しい知識と自己管理についての教育	重要だと思うものはない	その他	無回答
女性									
今回	267	<b>77.9</b>	45.3	26.6	28.5	30.7	0.4	1.5	3.7
前回	460	<b>75.9</b>	42.0	23.3	19.1	22.8	2.6	2.0	6.7
男性									
今回	213	<b>66.7</b>	50.2	34.7	27.7	23.0	2.3	3.8	2.8
前回	109	<b>71.6</b>	48.6	26.6	23.9	24.8	2.8	1.8	4.6
年代別									
20～29歳	32	<b>62.5</b>	53.1	34.4	34.4	37.5	0.0	0.0	3.1
30～39歳	58	<b>56.9</b>	44.8	24.1	36.2	25.9	1.7	3.4	1.7
40～49歳	79	<b>65.8</b>	58.2	25.3	41.8	25.3	1.3	1.3	2.5
50～59歳	77	<b>80.5</b>	37.7	22.1	28.6	24.7	2.6	1.3	2.6
60～69歳	126	<b>83.3</b>	51.6	36.5	22.2	27.0	0.0	2.4	1.6
70歳以上	108	<b>72.2</b>	41.7	34.3	18.5	28.7	1.9	4.6	7.4

問 19 適切な性教育の重要性が言われていますが、あなたは子どもの性教育はどのように行うのが望ましいと思いますか。(〇は2つまで)

性教育はどのように行うのが望ましいと思うかについては、「社会教育（講座・研修）等の場で専門家が行う」が46.1%で最も高く、次いで「学校で教師が男女一緒に行う」が33.8%、「学校で教師が男女別々に行う」が29.2%となっています。

前回調査と比較すると、同様の傾向となっています。





【性別および年代別クロス集計】

性教育はどのように行うのが望ましいと思うかについて性別にみると、男女共に「社会教育（講座・研修）等の場で専門家が行う」が最も高くなっています。前回調査と比較すると、男性では「学校で教師が男女別々に行う」が7.1ポイント減少、「社会教育（講座・研修）等の場で専門家が行う」が9.7ポイント増加しています。

年代別にみると、20～29歳では「学校で教師が男女別々に行う」が、それ以外の年代では「社会教育（講座・研修）等の場で専門家が行う」が最も高くなっています。

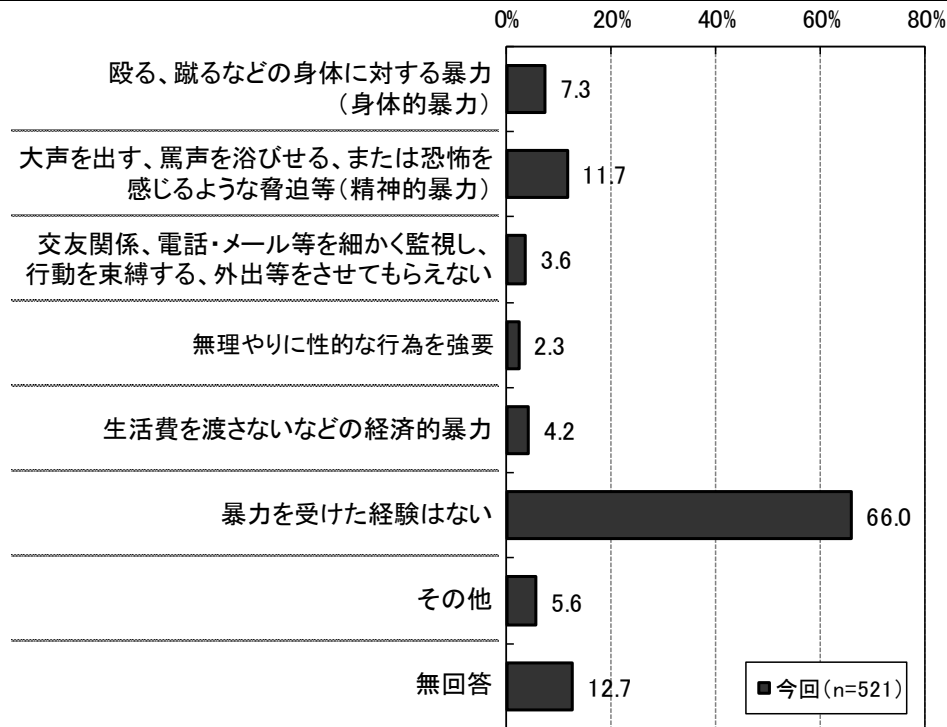
問 19 適切な性教育の重要性が言われていますが、あなたは子どもの性教育はどのように行うのが望ましいと思いますか。

単位：%	n	学校で教師が男女一緒に 行う	学校で教師が男女別々に 行う	社会教育（講座・研修）等の 場で専門家が行う	家庭で親が行う	性教育を行う必要はない	わからない	その他	無回答
女性									
今回	267	33.3	30.3	<b>47.6</b>	30.3	0.7	6.4	2.6	3.4
前回	460	35.2	28.5	<b>44.8</b>	30.2	0.4	8.9	2.4	4.1
男性									
今回	213	34.3	29.6	<b>45.5</b>	27.7	1.4	8.5	1.9	2.3
前回	109	29.4	<b>36.7</b>	35.8	26.6	0.9	13.8	1.8	2.8
年代別									
20～29歳	32	25.0	<b>53.1</b>	43.8	31.3	0.0	6.3	3.1	0.0
30～39歳	58	32.8	34.5	<b>43.1</b>	31.0	0.0	8.6	0.0	3.4
40～49歳	79	35.4	31.6	<b>38.0</b>	31.6	0.0	7.6	1.3	2.5
50～59歳	77	31.2	26.0	<b>55.8</b>	31.2	1.3	5.2	3.9	1.3
60～69歳	126	34.9	22.2	<b>52.4</b>	28.6	0.0	7.9	3.2	3.2
70歳以上	108	36.1	31.5	<b>42.6</b>	25.0	3.7	7.4	1.9	4.6

## 7. 男女の人権について

問 20 あなたは、配偶者や交際相手等から以下のような暴力を受けた経験はありますか。(〇はいくつでも)

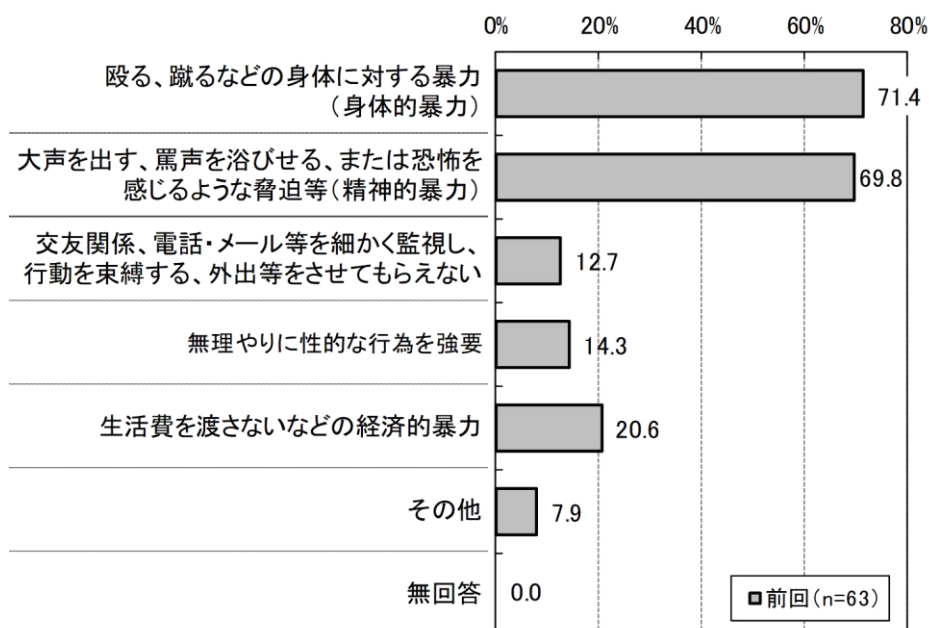
配偶者や交際相手等からどのような暴力を受けた経験があるかについては、「暴力を受けた経験はない」が66.0%で最も高く、次いで「大声を出す、罵声を浴びせる、または恐怖を感じるような脅迫等(精神的暴力)」が11.7%、「殴る、蹴るなどの身体に対する暴力(身体的暴力)」が7.3%となっています。



### ■参考: 前回結果

問 どのような暴力を受けましたか。次の中からお選びください。

(自分が直接暴力を経験したことがあると回答した方を対象とした。)



【性別および年代別クロス集計】

配偶者や交際相手等からどのような暴力を受けた経験があるかについて性別にみると、男女共に「暴力を受けた経験はない」が最も高くなっています。

性別にみると、男性は女性と比較して「暴力を受けた経験がない」が19.8ポイント高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「暴力を受けた経験はない」が最も高くなっています。また、30～49歳、60～69歳では「大声を出す、罵声を浴びせる、または恐怖を感じるような脅迫等（精神的暴力）」他の世代と比較してやや高くなっています。

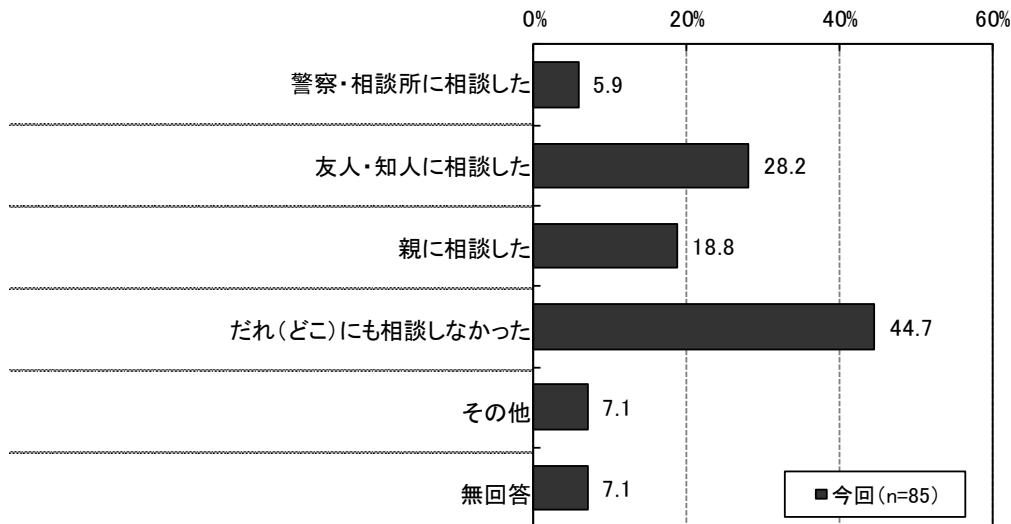
問 20 あなたは、配偶者や交際相手等から以下のような暴力を受けた経験はありますか。

単位：%	n	殴る、蹴るなどの身体に対する暴力（身体的暴力）	大声を出す、罵声を浴びせる、または恐怖を感じるような脅迫等（精神的暴力）	交友関係、電話・メール等を細かく監視し、行動を束縛する、外出等をさせてもらえない	無理やりに性的な行為を強要	生活費を渡さないなどの経済的暴力	暴力を受けた経験はない	その他	無回答
女性									
今回	267	10.5	17.6	6.4	4.1	7.9	<b>58.1</b>	6.0	12.4
男性									
今回	213	3.3	4.2	0.9	0.0	0.0	<b>77.9</b>	5.2	10.3
年代別									
20～29歳	32	6.3	9.4	6.3	3.1	3.1	<b>84.4</b>	0.0	6.3
30～39歳	58	5.2	15.5	6.9	3.4	8.6	<b>72.4</b>	1.7	5.2
40～49歳	79	11.4	15.2	7.6	3.8	6.3	<b>69.6</b>	3.8	6.3
50～59歳	77	7.8	9.1	1.3	1.3	3.9	<b>64.9</b>	6.5	15.6
60～69歳	126	7.9	15.1	4.8	3.2	4.0	<b>64.3</b>	4.0	11.9
70歳以上	108	4.6	5.6	0.0	0.0	1.9	<b>61.1</b>	12.0	16.7

**【問 20 で「暴力を受けた経験はない」、「その他」以外のいずれかを選択した方】**

問 20-1 そのとき、だれ(どこ)かに相談しましたか。(〇はいくつでも)

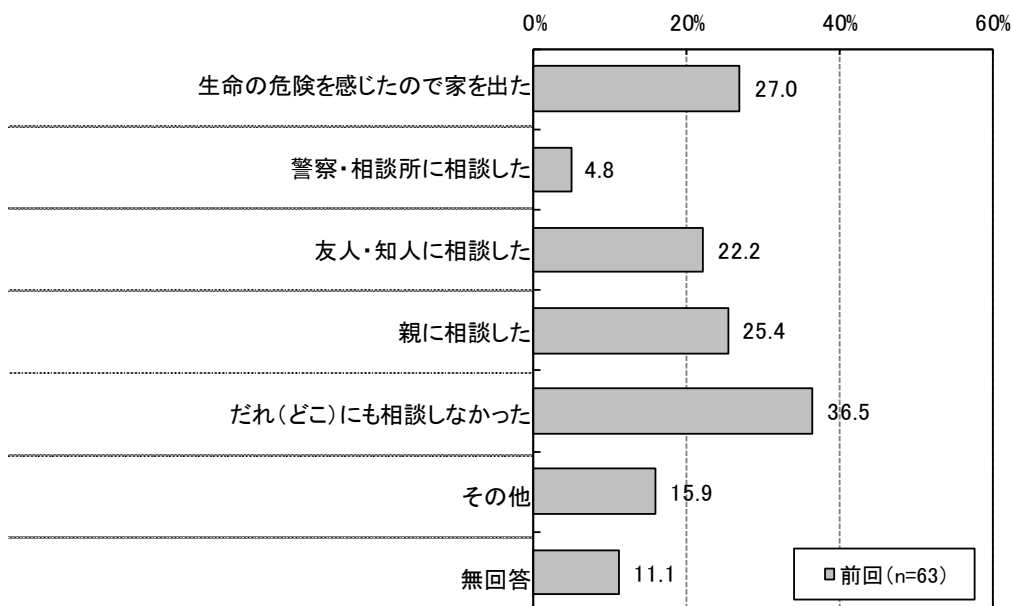
だれ(どこ)かに相談したかについては、「だれ(どこ)にも相談しなかった」が 44.7%で最も高く、次いで「友人・知人に相談した」が 28.2%、「親に相談した」が 18.8%となっています。



■参考: 前回結果

問 暴力を受けたとき、あなたはどうしましたか。

(自分が直接暴力を経験したことがあると回答した方を対象とした。)



### 【性別および年代別クロス集計】

だれ（どこ）かに相談したかについて性別にみると、男女共に「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっています。

性別にみると、男性では女性と比較して「だれ（どこ）にも相談しなかった」が20.0ポイント高くなっています。

年代別にみると、20～29歳、40～49歳では「友人・知人に相談した」が、50～59歳では「親に相談した」が、それ以外の年代では「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっています。

### 【問20で「暴力を受けた経験はない」、「その他」以外のいずれかを選択した方】

問20-1 そのとき、だれ（どこ）かに相談しましたか。

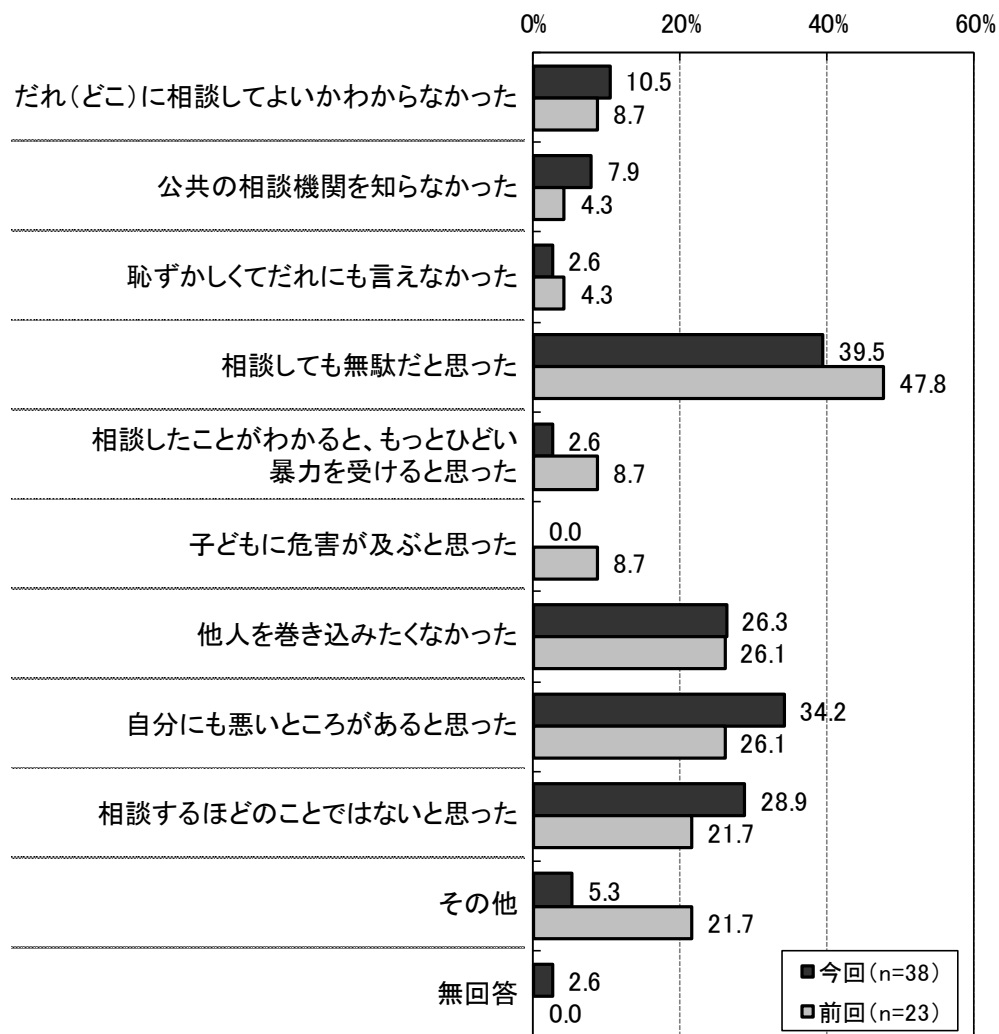
単位：%	n	警察・相談所に相談した	友人・知人に相談した	親に相談した	だれ（どこ）にも相談しなかった	その他	無回答
<b>女性</b>							
今回	65	4.6	32.3	20.0	<b>40.0</b>	7.7	9.2
<b>男性</b>							
今回	15	6.7	13.3	13.3	<b>60.0</b>	6.7	0.0
<b>年代別</b>							
20～29歳	3	0.0	<b>66.7</b>	33.3	33.3	0.0	0.0
30～39歳	12	0.0	25.0	8.3	<b>33.3</b>	16.7	25.0
40～49歳	16	12.5	<b>56.3</b>	31.3	18.8	6.3	6.3
50～59歳	11	9.1	27.3	<b>54.5</b>	27.3	0.0	0.0
60～69歳	26	3.8	23.1	7.7	<b>57.7</b>	7.7	0.0
70歳以上	12	0.0	0.0	0.0	<b>75.0</b>	8.3	16.7

**【問 20-1で「だれ(どこ)にも相談しなかった」を選択した方】**

問 20-2 だれ(どこ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

だれ(どこ)にも相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思った」が39.5%で最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」が34.2%、「相談するほどのことではないと思った」が28.9%となっています。

前回調査と比較すると、「相談しても無駄だと思った」「相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思った」「子どもに危害が及ぶと思った」がやや減少し、「自分にも悪いところがあると思った」が8.1ポイント増加しています。



【性別および年代別クロス集計】

だれ（どこ）にも相談しなかった理由について性別にみると、女性では「相談しても無駄だと思った」が、男性では「自分にも悪いところがあると思った」が最も高くなっています。

【問 20-1 で「だれ（どこ）にも相談しなかった」を選択した方】

問 20-2 だれ（どこ）にも相談しなかったのは、なぜですか。

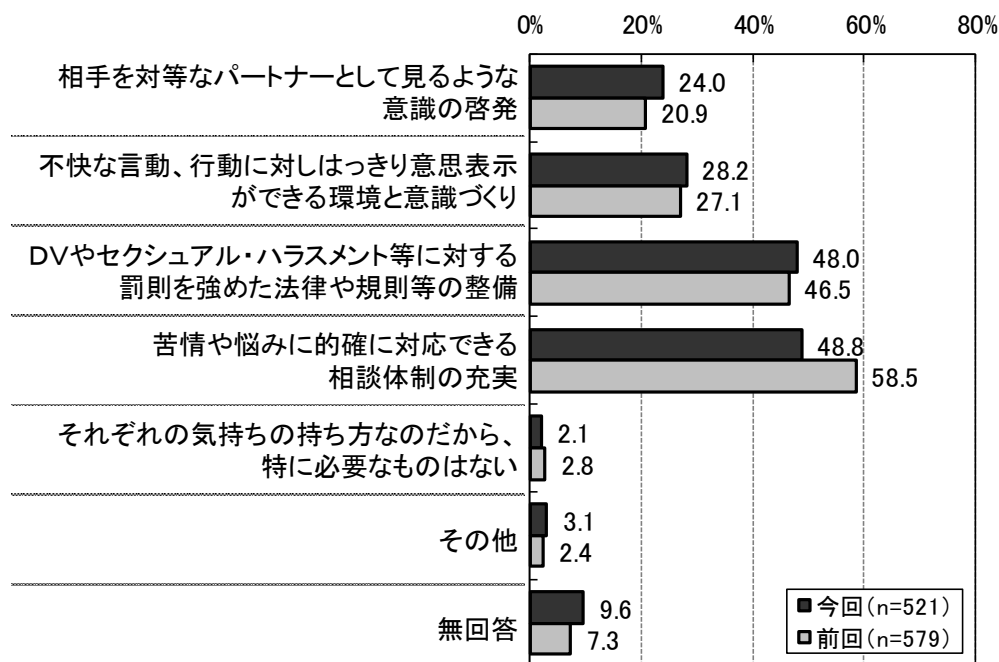
単位：%	n	だれ(どこ)に相談してよいかわからなかった	公共の相談機関を知らなかった	恥ずかしくてだれにも言えなかった	相談しても無駄だと思った	相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思った	子どもに危害が及ぶと思った	他人を巻き込みたくなかった	自分にも悪いところがあると思った
女性									
今回	26	7.7	11.5	3.8	<b>42.3</b>	3.8	0.0	34.6	30.8
前回	23	8.7	4.3	4.3	<b>47.8</b>	8.7	8.7	26.1	26.1
男性									
今回	9	22.2	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	11.1	<b>55.6</b>
前回	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：%	n	相談するほどのことではないと思った	その他	無回答
女性				
今回	26	23.1	7.7	3.8
前回	23	21.7	21.7	0.0
男性				
今回	9	33.3	0.0	0.0
前回	0	0.0	0.0	0.0

問 21 ドメスティック・バイオレンス(DV)やセクシュアル・ハラスメント等の人権侵害をあらゆる分野からなくすためには、行政の取り組みとしてどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

人権侵害をあらゆる分野からなくすために、行政の取り組みとして必要なことについては、「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実」が48.8%で最も高く、次いで「DVやセクシュアル・ハラスメント等に対する罰則を強めた法律や規則等の整備」が48.0%、「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」が28.2%となっています。

前回調査と比較すると、「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実」が9.7ポイント減少しています。





【性別および年代別クロス集計】

人権侵害をあらゆる分野からなくすために、行政の取り組みとして必要なことについて性別にみると、女性では「DVやセクシュアル・ハラスメント等に対する罰則を強めた法律や規則等の整備」が、男性では「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実」が最も高くなっています。前回調査と比較すると、女性では「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実」が10.5ポイント減少しています。

年代別にみると、20～49歳では「DVやセクシュアル・ハラスメント等に対する罰則を強めた法律や規則等の整備」が、50歳以上では「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実」が最も高くなっています。

問21 ドメスティック・バイオレンス（DV）やセクシュアル・ハラスメント等の人権侵害をあらゆる分野からなくすためには、行政の取り組みとしてどのようなことが必要だと思いますか。

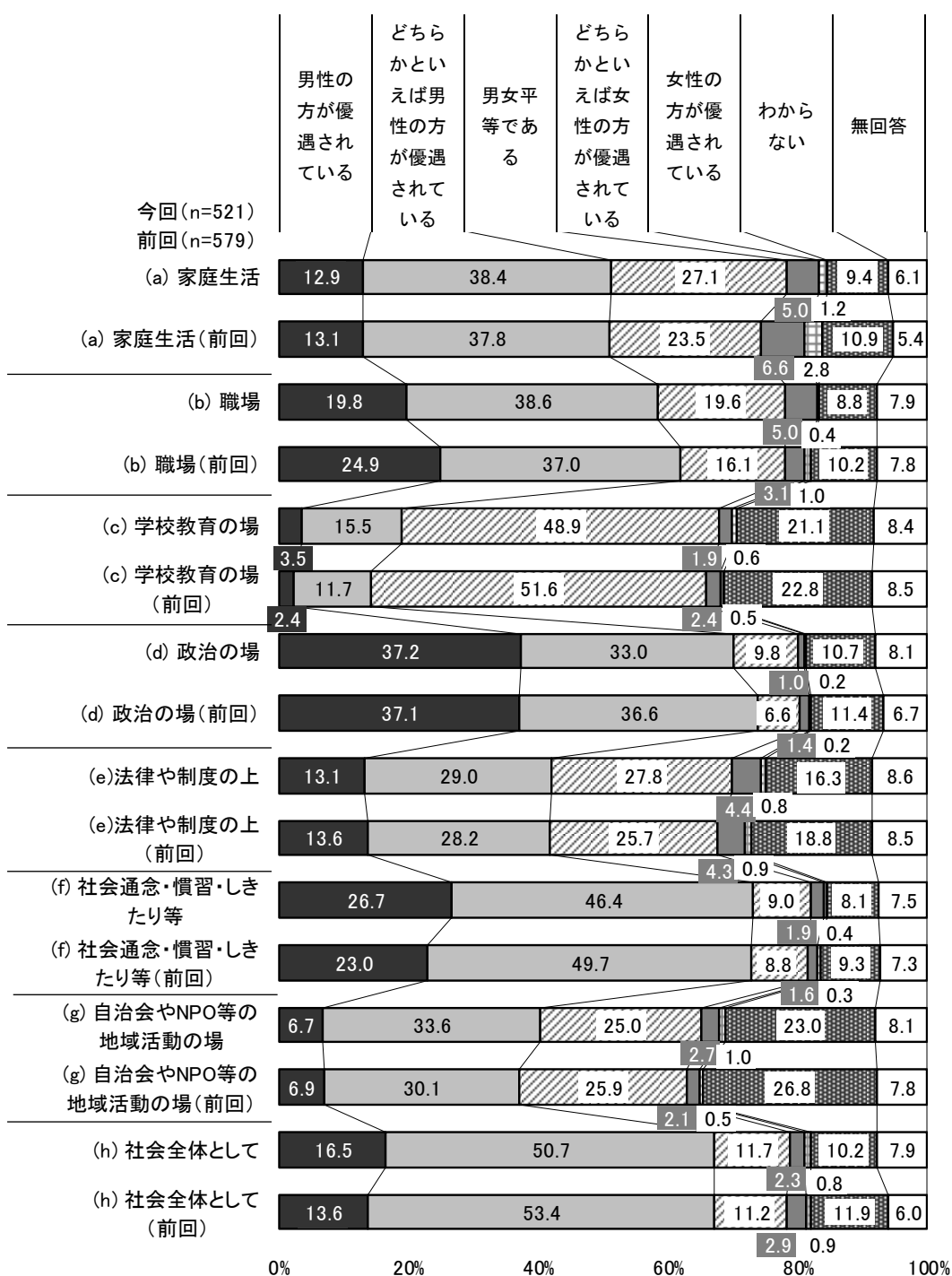
単位：%	n	相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発	不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり	DVやセクシュアル・ハラスメント等に対する罰則を強めた法律や規則等の整備	苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実	それぞれの気持ちの持ち方などから、特に必要なものはない	その他	無回答
女性								
今回	267	23.6	28.5	<b>52.1</b>	50.2	1.1	2.6	7.1
前回	460	19.6	27.4	46.7	<b>60.7</b>	2.6	2.2	7.0
男性								
今回	213	25.4	29.6	46.0	<b>48.8</b>	3.3	2.8	8.9
前回	109	25.7	27.5	47.7	<b>52.3</b>	3.7	3.7	4.6
年代別								
20～29歳	32	12.5	34.4	<b>68.8</b>	53.1	0.0	0.0	6.3
30～39歳	58	27.6	24.1	<b>63.8</b>	41.4	1.7	1.7	3.4
40～49歳	79	26.6	22.8	<b>59.5</b>	43.0	1.3	5.1	3.8
50～59歳	77	23.4	31.2	49.4	<b>55.8</b>	0.0	3.9	6.5
60～69歳	126	26.2	26.2	46.0	<b>54.8</b>	1.6	1.6	7.9
70歳以上	108	23.1	36.1	32.4	<b>47.2</b>	5.6	2.8	14.8

## 8. 男女共同参画社会の形成について

問 22 あなたは、次のような場で男女が平等になっていると思いますか。(a から h それぞれ○は1つ)

男女平等感については、『d. 政治の場』と『f. 社会通念・慣習・しきたり等』では、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性の方が優遇されている」が7割台前半と高くなっています。また、『c. 学校教育の場』では、「男女平等である」が48.9%と、他の項目に比べて高くなっています。

前回と比較すると、『b. 職場』では「男性の方が優遇されている」が5.1ポイント減少しています。



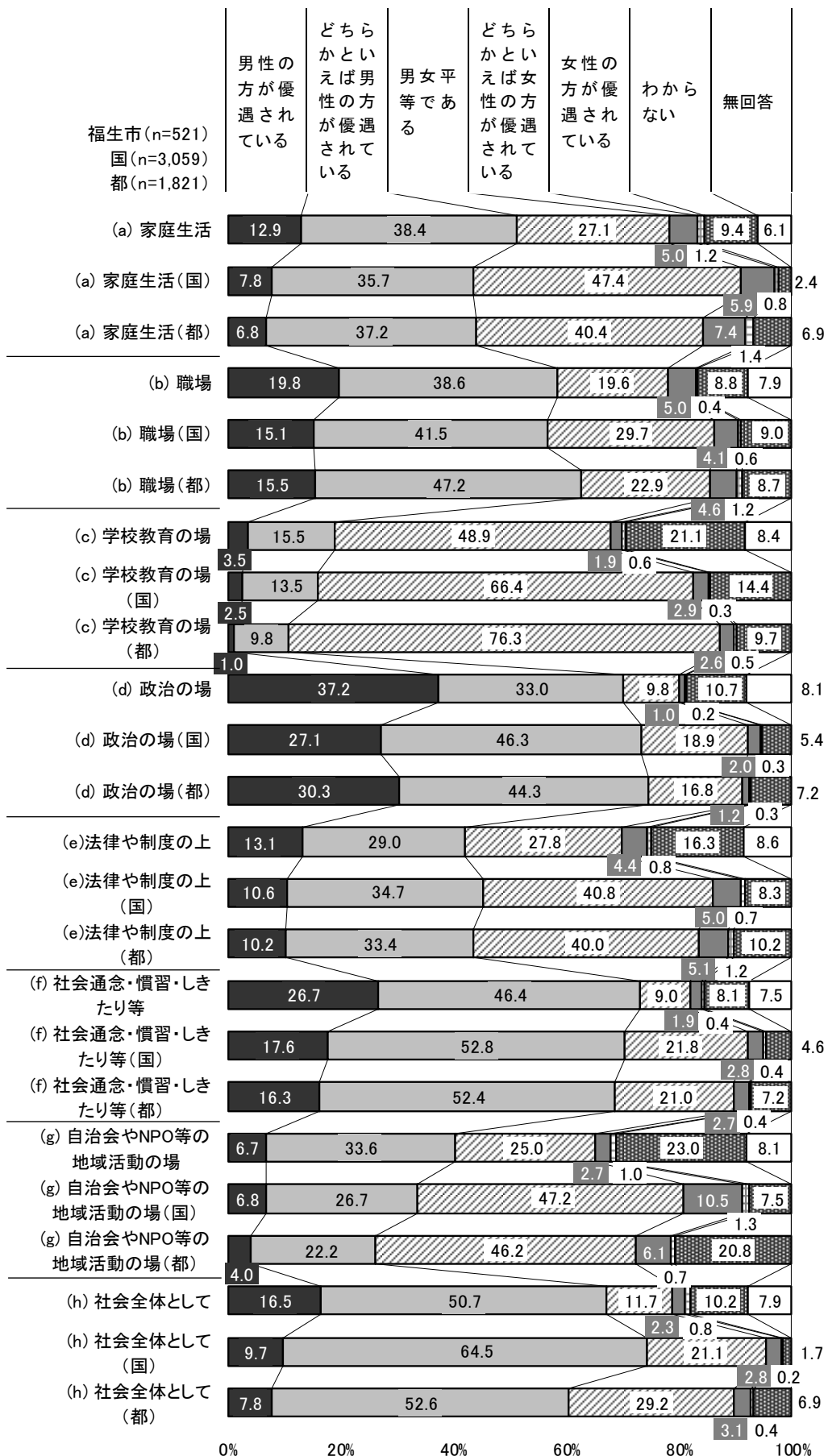
## 【国、都との比較】

---

国・都と比較すると、『a. 家庭生活』において、「男性の方が優遇されている」がやや高く、「平等である」が10ポイント以上低くなっています。また、『b. 職場』において、「平等である」が国より11.1ポイント低くなっています。学校教育の場において、「平等である」が国より12.3ポイント、都より27.4ポイント低くなっています。『f. 社会通念・慣習・しきたり等』において、「平等である」が国・都と比較して10ポイント以上低くなっています。『g. 自治会やNPO等の地域活動の場』において、「平等である」が国・都と比較して20ポイント以上低く、「男性の方が優遇されている」がやや高くなっています。

---

■a~h (国、都との比較)

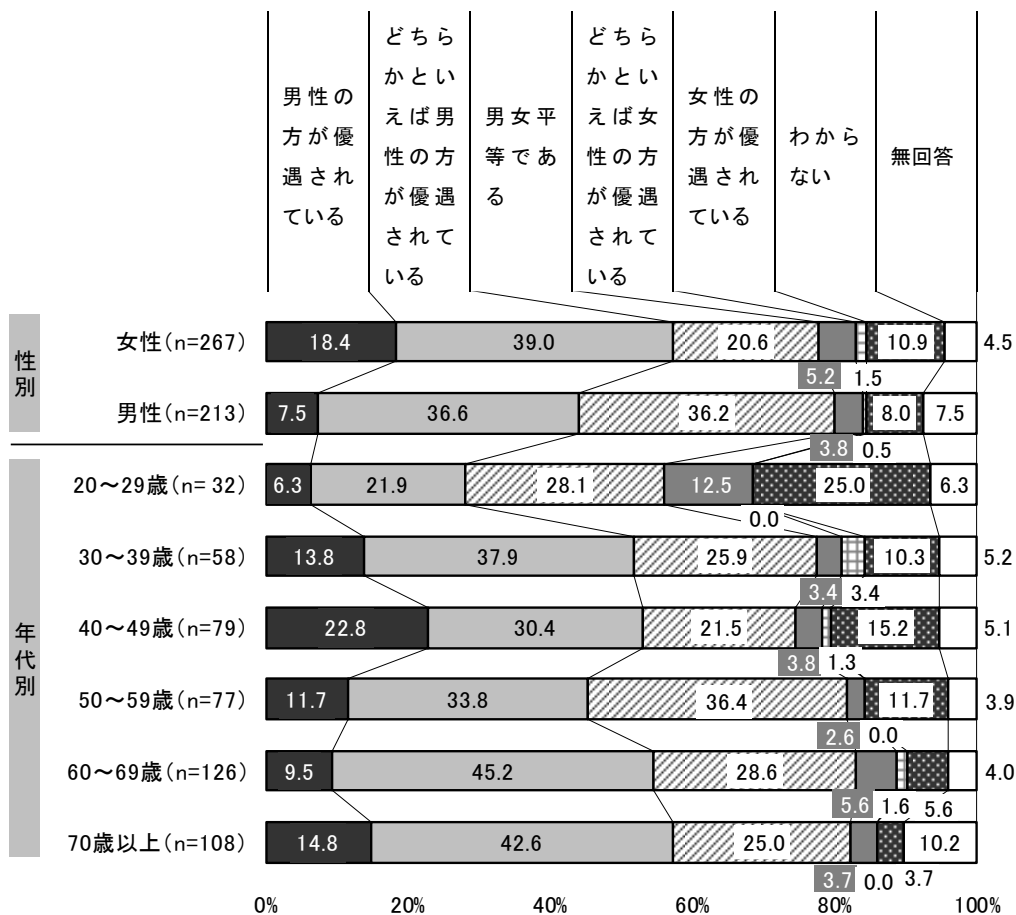


国：「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年)  
 都：「男女平等参画に関する世論調査」(平成27年)

■a. 家庭生活(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「男性の方が優遇されている」が18.4%と男性に比べて10.9ポイント高く、男性では「男女平等である」が36.2%と女性に比べて15.6ポイント高くなっています。

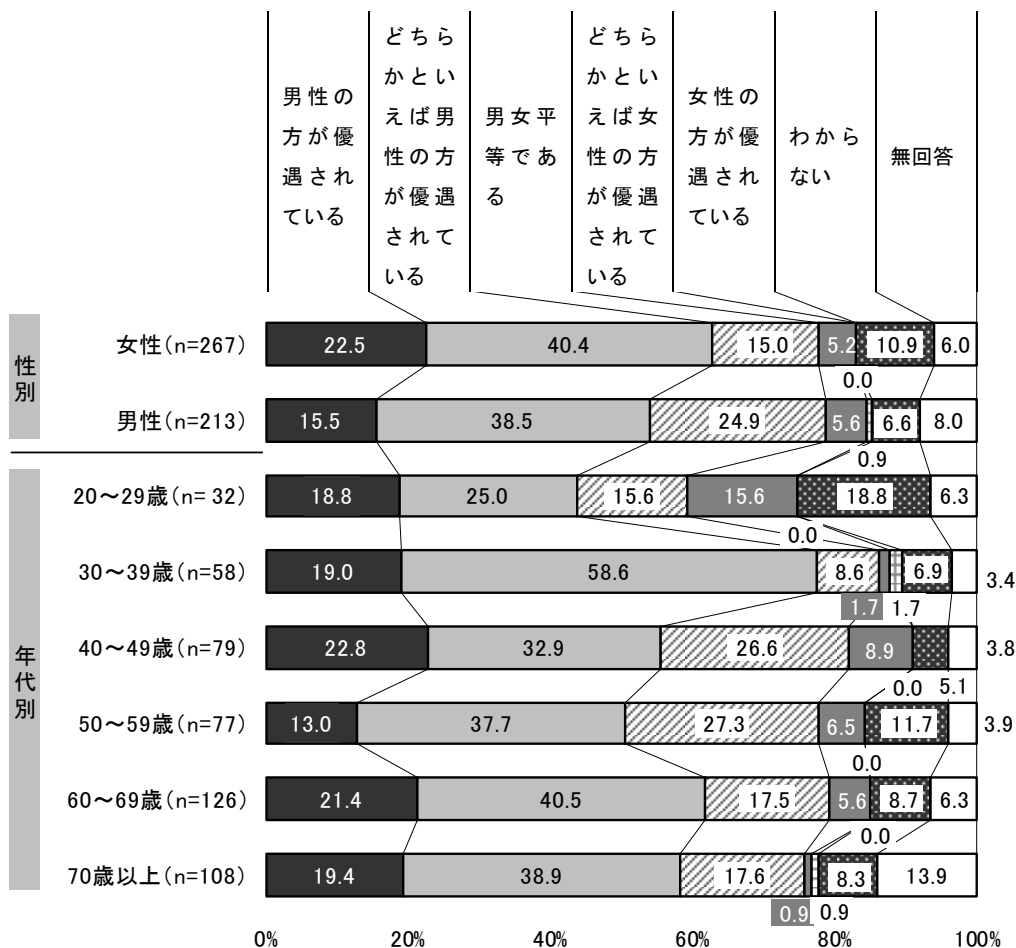
年代別にみると、20～29歳では「男性の方が優遇されている」が28.2%と、他の年代に比べて低くなっています。



■b. 職場(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「男性の方が優遇されている」が22.5%と男性に比べて7.0ポイント高く、男性では「男女平等である」が24.9%と女性に比べて9.9ポイント高くなっています。

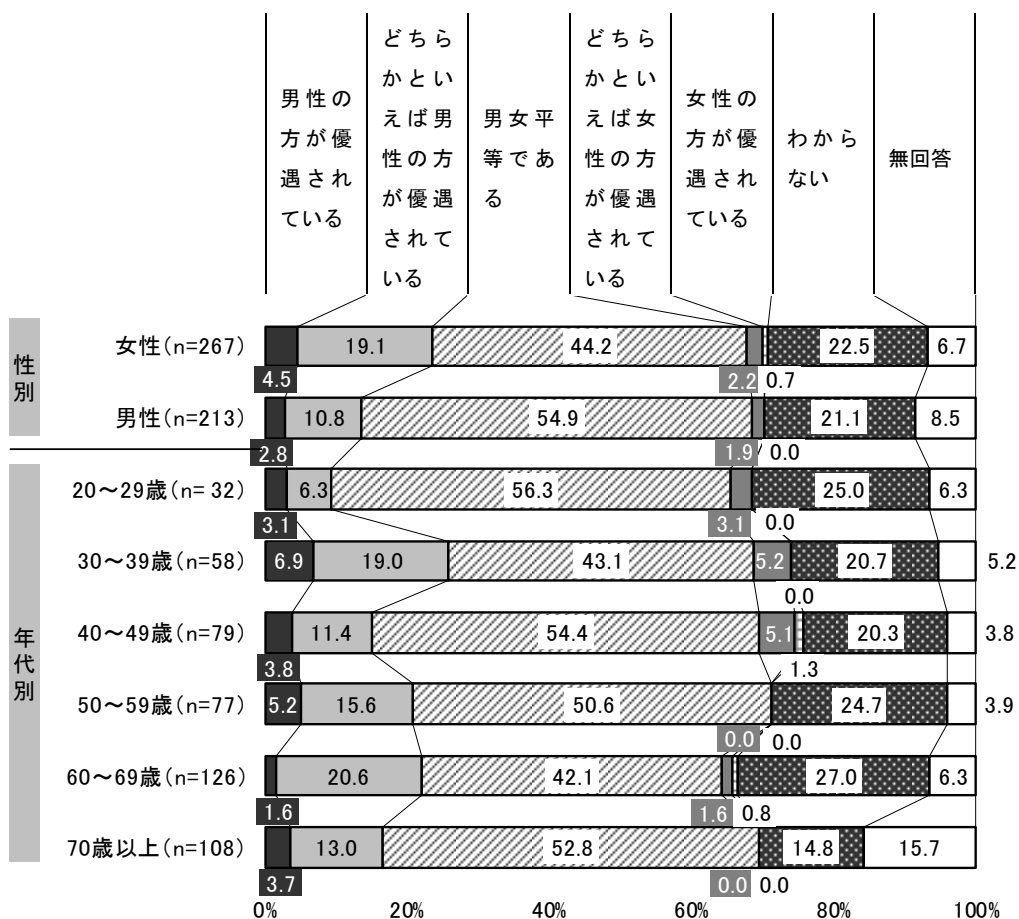
年代別にみると、30～39歳では「男性の方が優遇されている」が77.6%と、他の年代に比べて高くなっています。



■c. 学校教育の場(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が19.1%と男性に比べて8.3ポイント高く、男性では「男女平等である」が54.9%と女性に比べて10.7ポイント高くなっています。

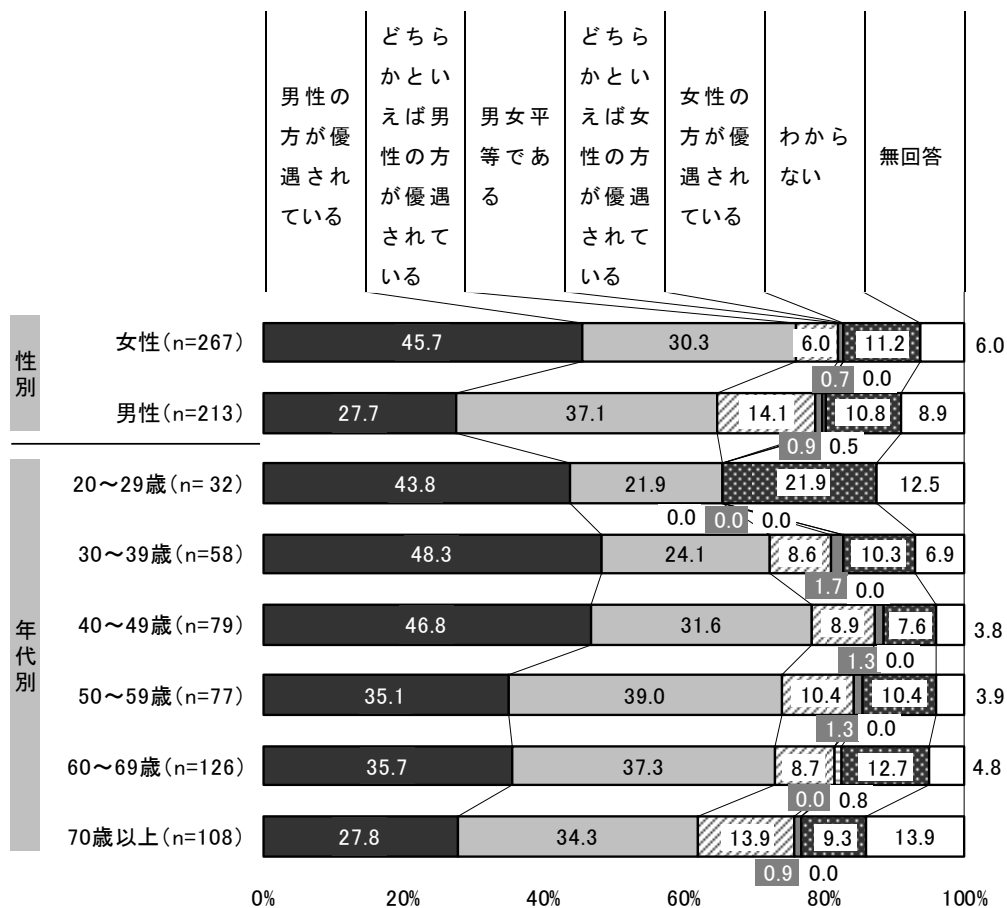
年代別にみると、20～29歳では「男性の方が優遇されている」が9.4%と、他の年代に比べて低くなっています。



■d. 政治の場(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「男性の方が優遇されている」が45.7%と男性に比べて18.0ポイント高く、男性では「男女平等である」が14.1%と女性に比べて8.1ポイント高くなっています。

年代別にみると、20～49歳では「男性の方が優遇されている」が4割台半ばから4割台後半と、他の年代に比べて高くなっています。

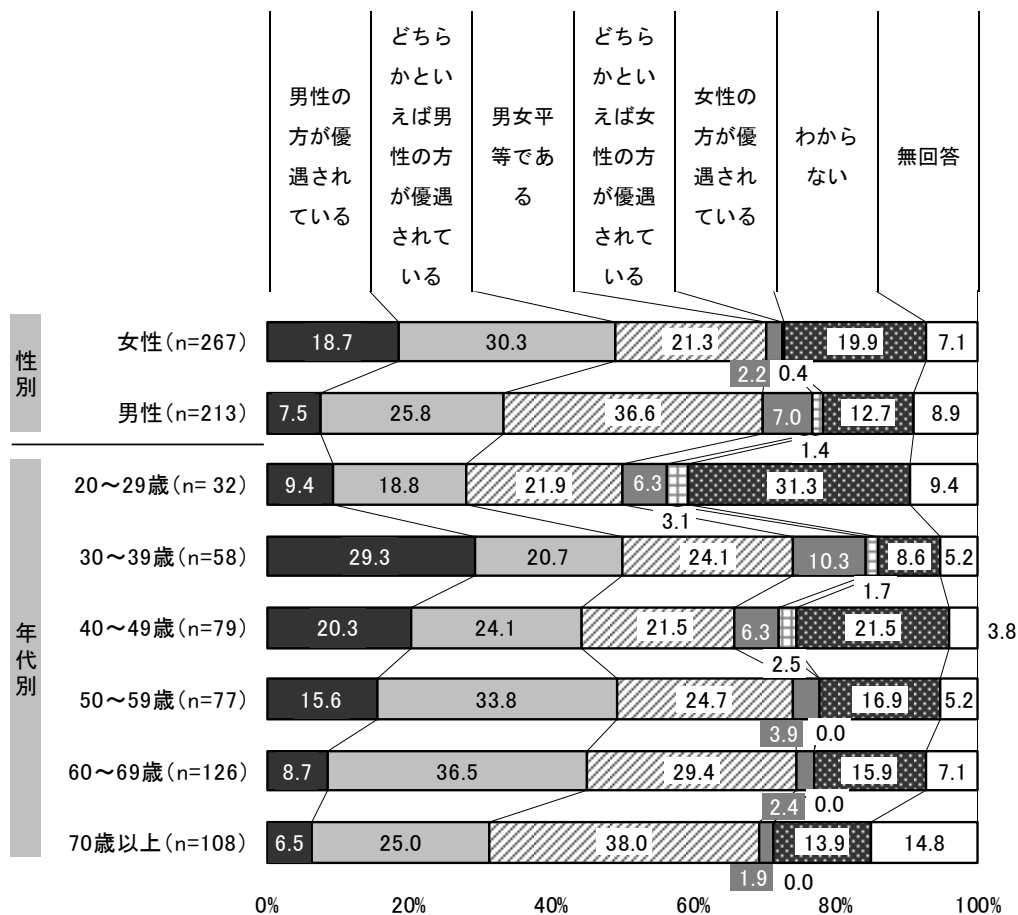




■e. 法律や制度の上(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「男性の方が優遇されている」が18.7%と男性に比べて11.2ポイント高く、男性では「男女平等である」が36.6%と女性に比べて15.3ポイント高くなっています。

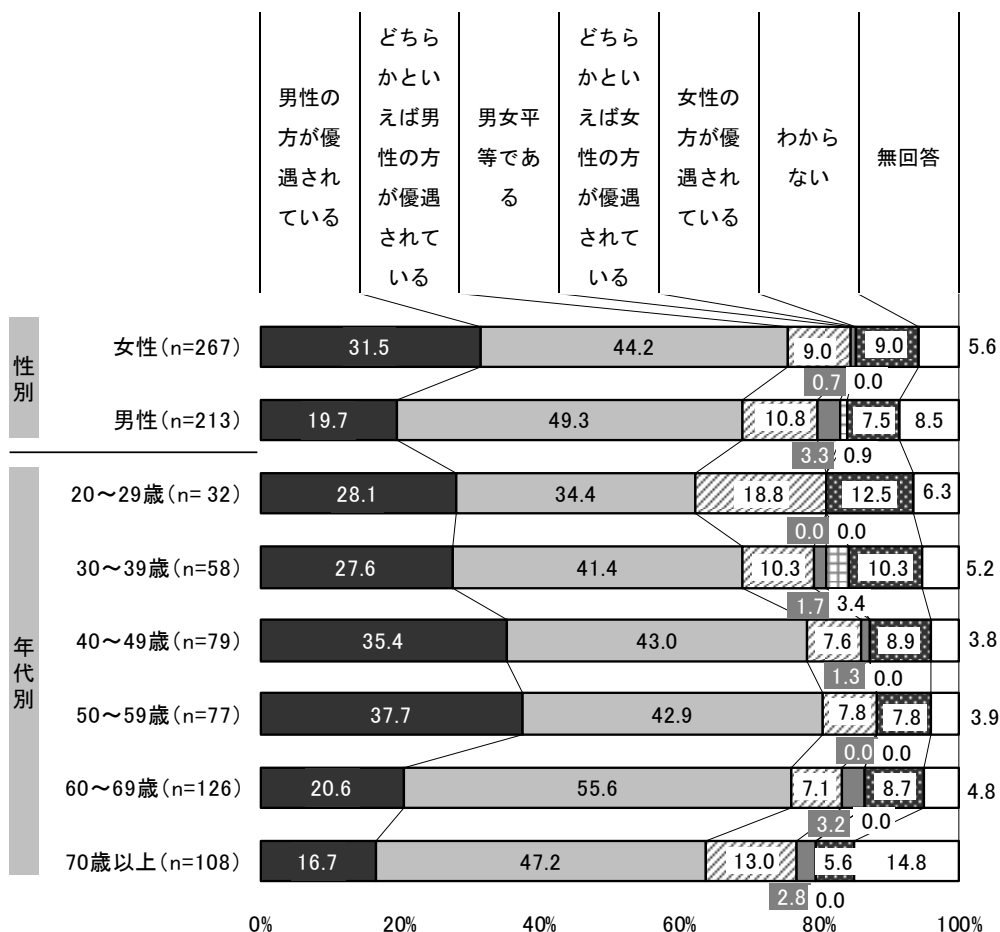
年代別にみると、「男性の方が優遇されている」が20～29歳では28.2%、70歳以上では31.5%と、他の年代に比べて低くなっています。



■f. 社会通念・慣習・しきたり等(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「男性の方が優遇されている」が31.5%と、男性に比べて11.8ポイント高くなっています。

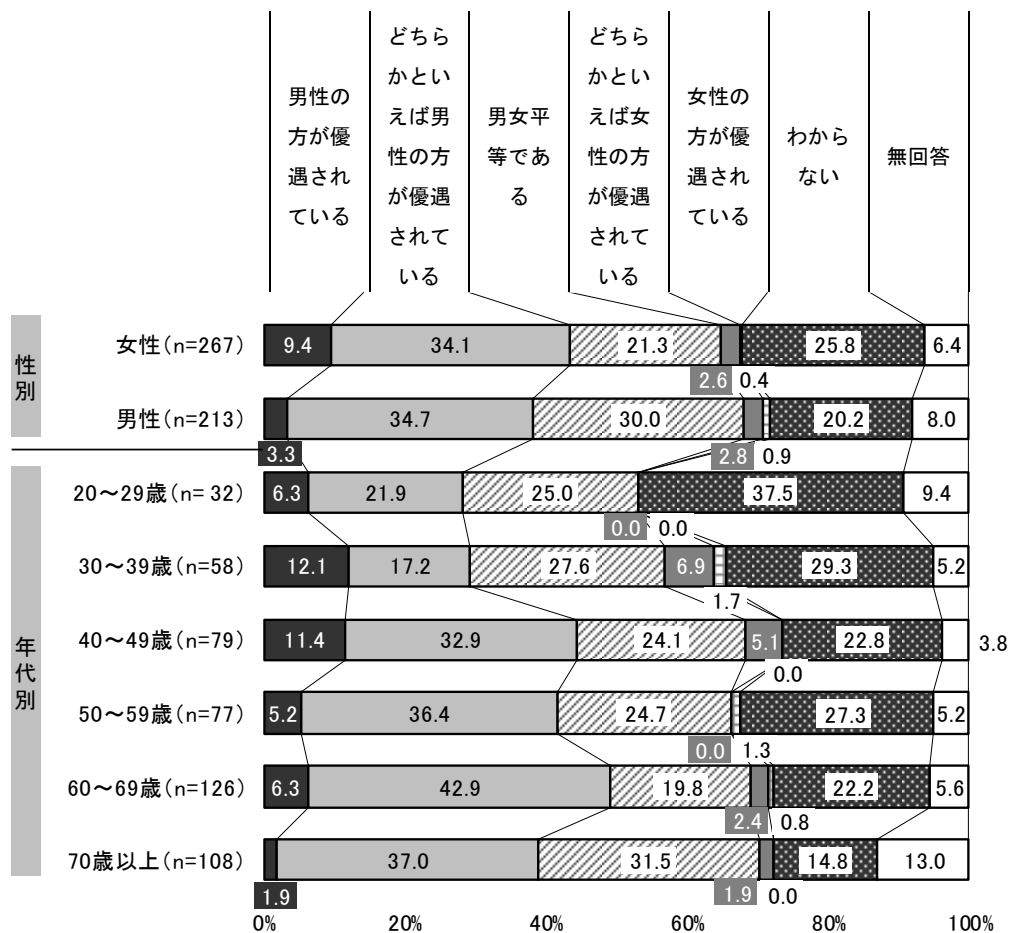
年代別にみると、60歳以上では「男性の方が優遇されている」が1割台半ばから2割台前半と、他の年代に比べて低くなっています。



■g. 自治会やNPO等の地域活動の場(性別および年代別クロス集計)

性別にみると、女性では「男性の方が優遇されている」が9.4%と男性に比べて6.1ポイント高く、男性では「男女平等である」が30.0%と女性に比べて8.7ポイント高くなっています。

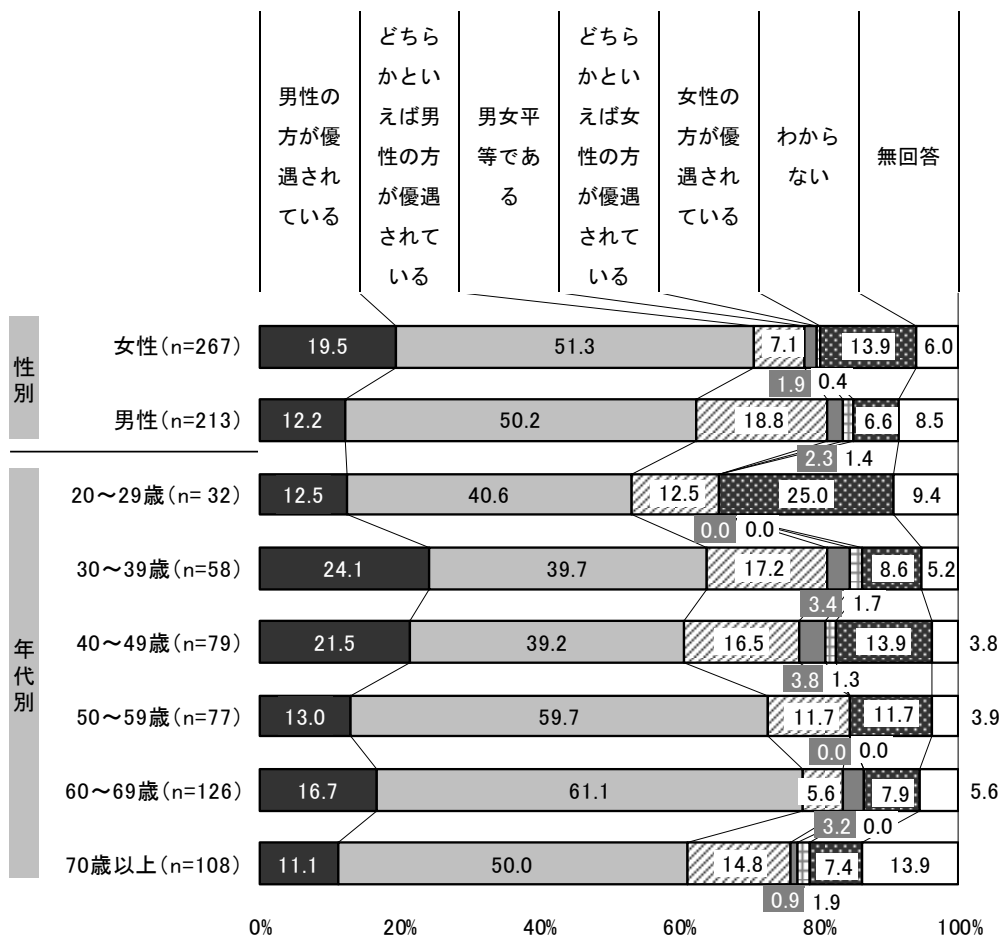
年代別にみると、20～39歳では「男性の方が優遇されている」が2割台後半と、他の年代に比べて低くなっています。



■h. 社会全体として(性別および年代別クロス集計)

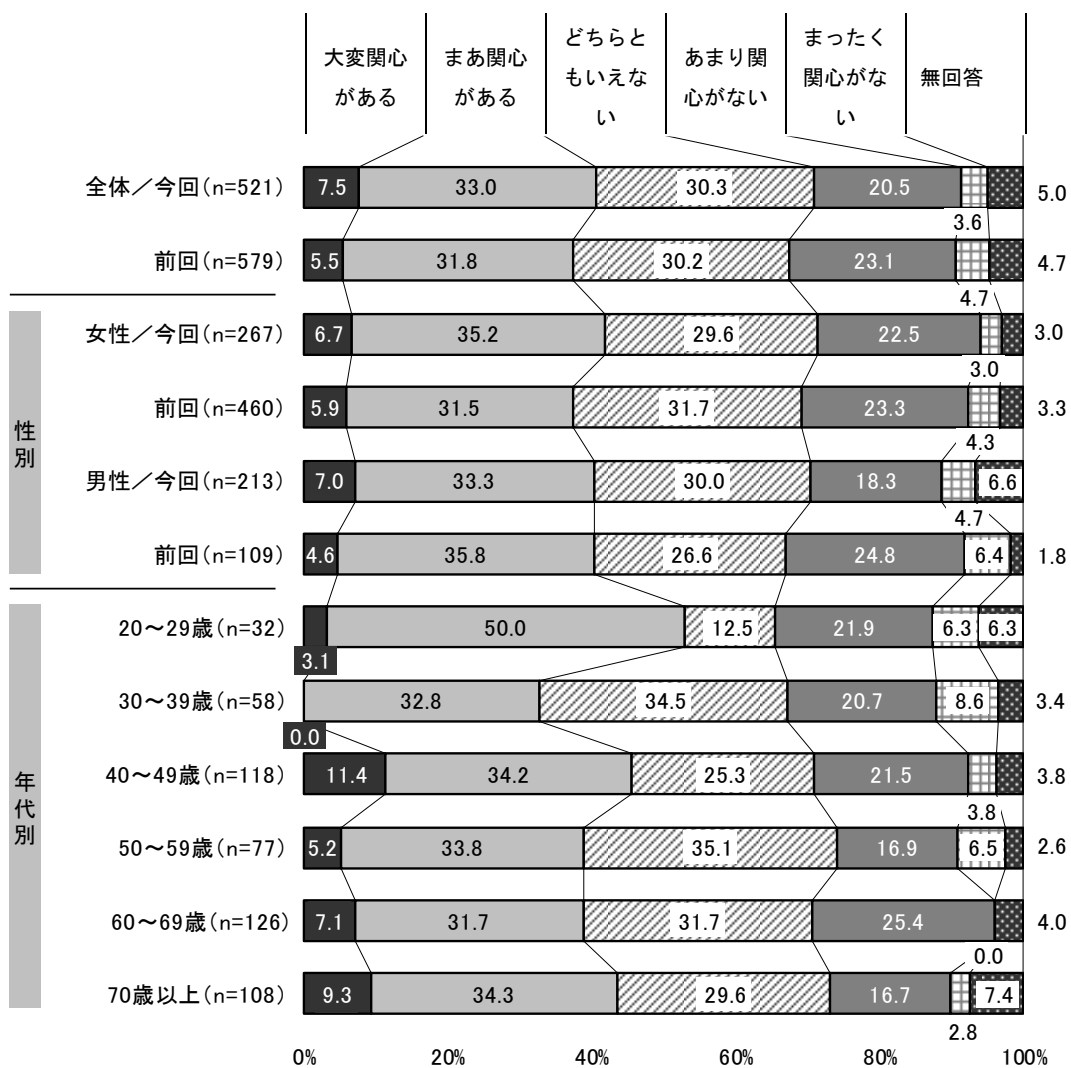
性別にみると、女性では「男性の方が優遇されている」が19.5%と男性に比べて7.3ポイント高く、男性では「男女平等である」が18.8%と女性に比べて11.7ポイント高くなっています。

年代別にみると、20～29歳では「男性の方が優遇されている」が53.1%と、他の年代に比べてやや低くなっています。



問 23 男女共同参画社会基本法に加え、女性活躍推進法が制定され、男女共同参画社会の形成に関する動きが高まっています。あなたはこのような男女共同参画に関する動きについてのどの程度関心をお持ちですか。(〇は1つ)

男女共同参画に関する動きへの関心については、「まあ関心がある」が33.0%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が30.3%、「あまり関心がない」が20.5%となっています。性別にみると、前回と同様に、大きな違いは見られません。年代別にみると、20～29歳では「大変関心がある」と「まあ関心がある」を合わせた《関心がある》が53.1%と、他の年代に比べて高くなっています。



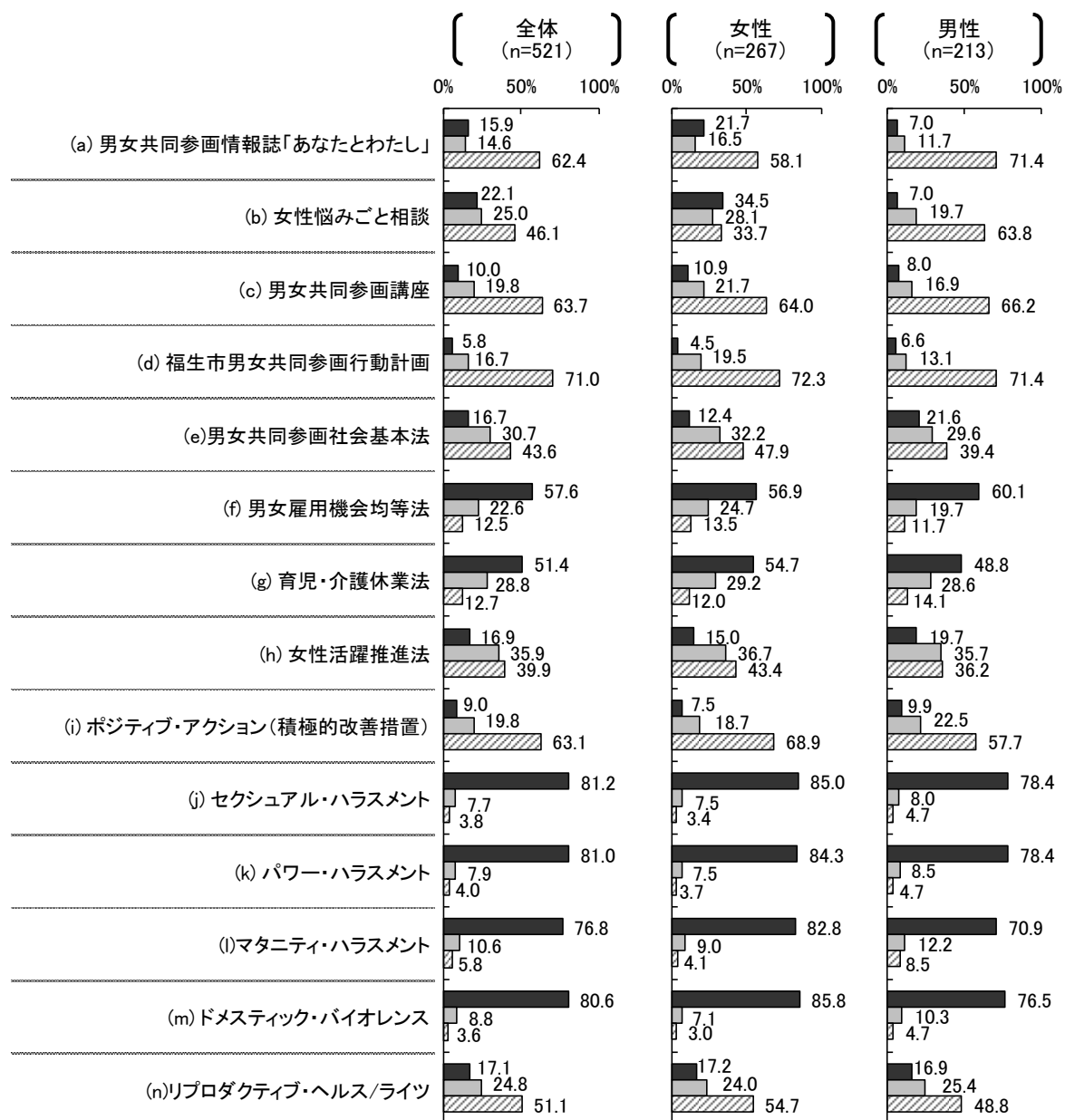
問 24 あなたは、次の「事柄」や「言葉」を知っていますか。(a からnそれぞれ○は1つ)

---

男女共同参画にかかわる事柄や言葉の認知については、「知っている」が“セクシュアル・ハラスメント”、“パワー・ハラスメント”“マタニティ・ハラスメント”、“ドメスティック・バイオレンス”が7～8割、“男女雇用機会均等法”や“育児・介護休業法”が5～6割と高くなっているものの、市の取り組みである a から d を含め、それ以外の項目は相対的に低くなっています。

性別にみると、全体的な傾向はおおむね一致しているものの、女性では「知っている」が“男女共同参画情報誌「あなたとわたし」”で 21.7%、“女性悩みごと相談”で 34.5%、“マタニティ・ハラスメント”で 82.8%となっており、男性よりも 10～30 ポイント上回っています。

---



■ 知っている  
 □ 聞いたことがある  
 ▨ 知らない

【前回結果との比較（事柄や言葉について「知っている」と回答した割合）】

男女共同参画にかかわる事柄や言葉の認知について前回調査と比較すると、全体では“女性悩みごと相談”が14.0ポイント減少、“マタニティ・ハラスメント”が10.3ポイント増加しています。

女性で見ると、“マタニティ・ハラスメント”が12.6ポイント増加、男性で見ると、“マタニティ・ハラスメント”が14.0ポイント、“リプロダクティブ・ヘルス/ライツ”が12.3ポイント増加しています。

問24 あなたは、次の「事柄」や「言葉」を知っていますか。

単位：%	n	(a) 男女共同参画情報誌「あなたとわたし」	(b) 女性悩みごと相談	(c) 男女共同参画講座	(d) 福生市男女共同参画行動計画	(e) 男女共同参画社会基本法	(f) 男女雇用機会均等法	(g) 育児・介護休業法	(h) 女性活躍推進法
全体									
今回	521	15.9	22.1	10.0	5.8	16.7	57.6	51.4	16.9
前回	579	22.1	36.1	10.2	5.9	13.0	56.5	52.3	-
女性									
今回	267	21.7	34.5	10.9	4.5	12.4	56.9	54.7	15.0
前回	460	25.4	42.8	11.5	6.5	12.4	57.0	54.1	-
男性									
今回	213	7.0	7.0	8.0	6.6	21.6	60.1	48.8	19.7
前回	109	10.1	11.0	5.5	3.7	16.5	59.6	49.5	-

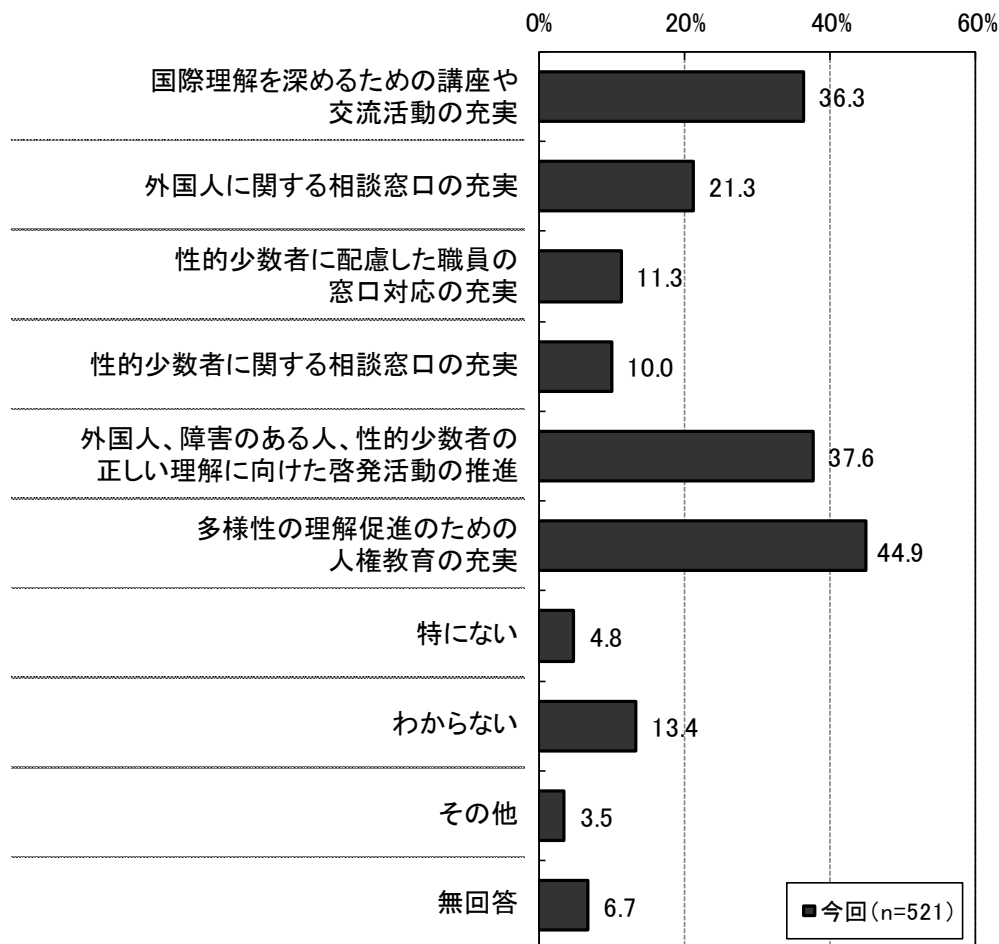
単位：%	n	(i) ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	(j) セクシュアル・ハラスメント	(k) パワー・ハラスメント	(l) マタニティ・ハラスメント	(m) ドメスティック・バイオレンス	(n) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
全体							
今回	521	9.0	81.2	81.0	76.8	80.6	17.1
前回	579	-	80.3	76.3	66.5	80.0	7.3
女性							
今回	267	7.5	85.0	84.3	82.8	85.8	17.2
前回	460	-	82.2	78.3	70.2	82.0	8.0
男性							
今回	213	9.9	78.4	78.4	70.9	76.5	16.9
前回	109	-	79.8	75.2	56.9	78.9	4.6

※前回調査では「女性活躍推進法」「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」は設問に含まれていません。



問 25 多様性を生かした社会づくりに向けて、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

多様性を生かした社会づくりに向けて行政がどのようなことに力を入れるべきかについては、「多様性の理解促進のための人権教育の充実」が 44.9%で最も高く、次いで「外国人、障害のある人、性的少数者の正しい理解に向けた啓発活動の推進」が 37.6%、「国際理解を深めるための講座や交流活動の充実」が 36.3%となっています。



【性別および年代別クロス集計】

多様性を生かした社会づくりに向けて行政がどのようなことに力を入れるべきかについて性別で傾向に差はありませんでした。

年代別にみると、20～29歳では「外国人、障害のある人、性的少数者の正しい理解に向けた啓発活動の推進」が、それ以外の年代では「多様性の理解促進のための人権教育の充実」が、また、50～59歳では「国際理解を深めるための講座や交流活動の充実」も最も高くなっています。

問 25 多様性を生かした社会づくりに向けて、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

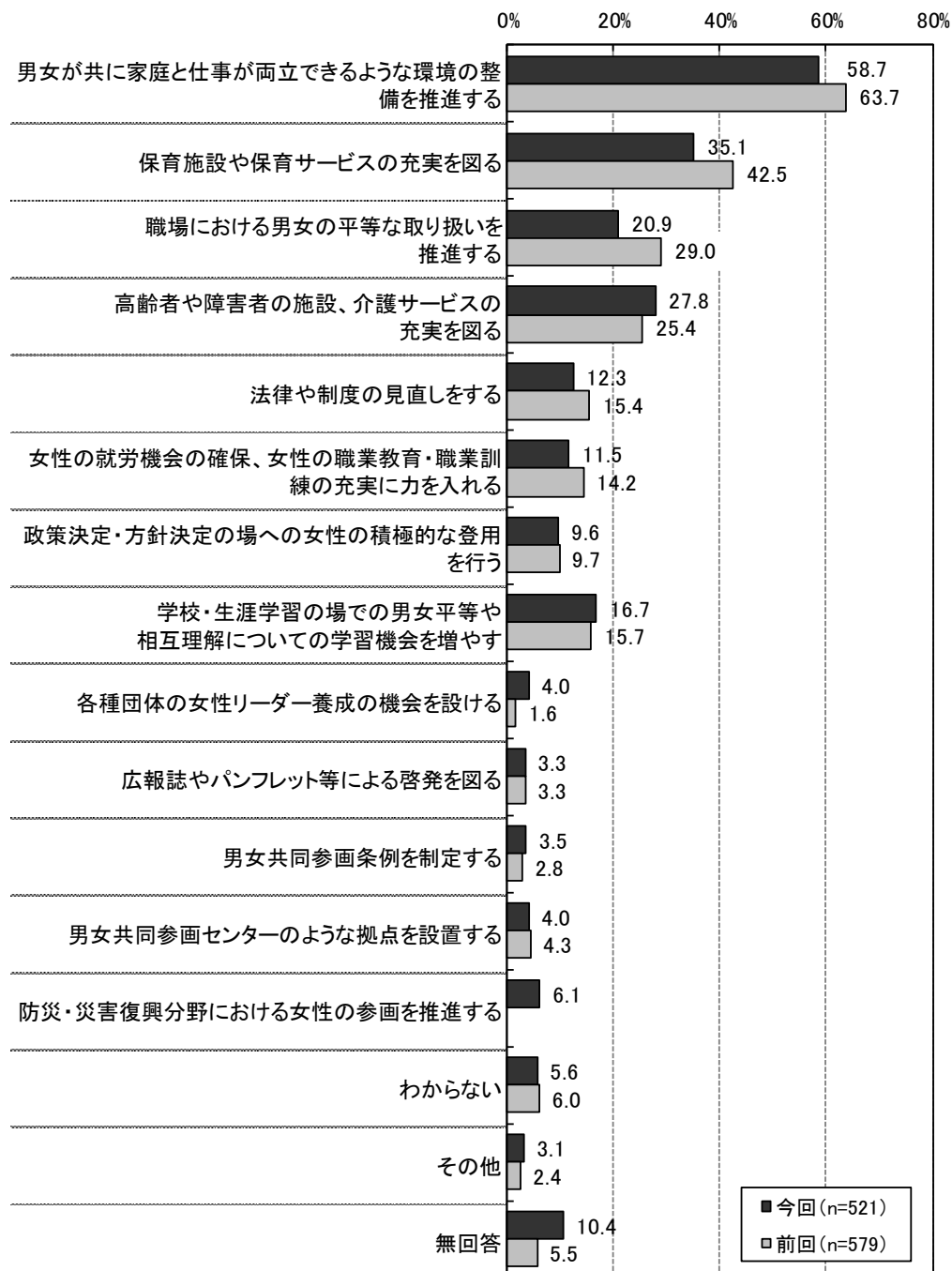
単位：%	n	国際理解を深めるための講座や交流活動の充実	外国人に関する相談窓口の充実	性的少数者に配慮した職員の窓口対応の充実	性的少数者に関する相談窓口の充実	外国人、障害のある人、性的少数者の正しい理解に向けた啓発活動の推進	多様性の理解促進のための人権教育の充実	特にない	わからない
女性									
今回	267	35.6	18.7	9.0	9.0	38.6	<b>43.8</b>	3.7	17.6
男性									
今回	213	38.5	25.8	13.6	12.7	38.5	<b>46.0</b>	5.2	8.0
年代別									
20～29歳	32	31.3	25.0	15.6	12.5	<b>43.8</b>	34.4	6.3	12.5
30～39歳	58	37.9	15.5	13.8	15.5	32.8	<b>43.1</b>	8.6	13.8
40～49歳	79	32.9	24.1	8.9	12.7	35.4	<b>51.9</b>	3.8	5.1
50～59歳	77	<b>48.1</b>	24.7	9.1	11.7	37.7	<b>48.1</b>	1.3	11.7
60～69歳	126	37.3	23.8	11.1	8.7	42.9	<b>45.2</b>	4.8	14.3
70歳以上	108	32.4	18.5	11.1	7.4	38.0	<b>40.7</b>	3.7	19.4

単位：%	n	その他	無回答
女性			
今回	267	3.0	4.5
男性			
今回	213	3.3	8.0
年代別			
20～29歳	32	0.0	6.3
30～39歳	58	3.4	5.2
40～49歳	79	7.6	5.1
50～59歳	77	1.3	3.9
60～69歳	126	3.2	4.8
70歳以上	108	1.9	10.2

問 26 男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

男女共同参画社会を実現するために重要だと思うことについては、男女共に「男女が共に家庭と仕事が両立できるような環境の整備を推進する」が58.7%で最も高く、次いで「保育施設や保育サービスの充実を図る」が35.1%、「高齢者や障害者の施設、介護サービスの充実を図る」が27.8%となっています。

前回調査と比較すると、「職場における男女の平等な取り扱いを推進する」が20.9%と、8.1ポイント減少しています。



※前回調査では「防災・災害分野における女性の参画を推進する」は設問に含まれていません。

【性別および年代別クロス集計】

男女共同参画社会を実現するために重要だと思うことについて性別にみると、「男女が共に家庭と仕事が両立できるような環境の整備を推進する」が最も高く、前回調査と比較すると、男性では「保育施設や保育サービスの充実を図る」が12.0ポイント減少しています。

年代別にみると、すべての年代で「男女が共に家庭と仕事が両立できるような環境の整備を推進する」が最も高くなっています。

問 26 男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことが重要だと思いますか。

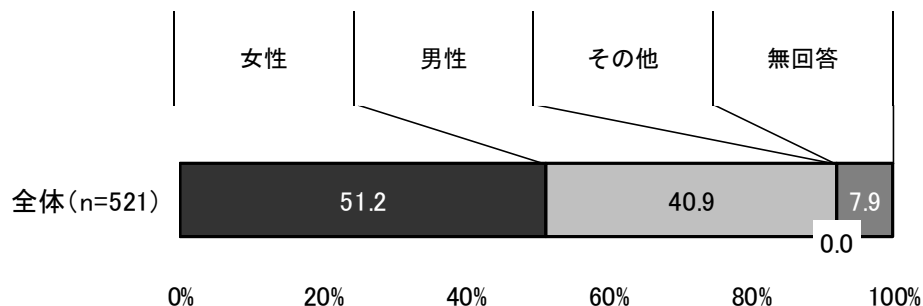
単位:%	n	男女が共に家庭と仕事が両立できるような環境の整備を推進する	保育施設や保育サービスの充実を図る	職場における男女の平等な取り扱いを推進する	高齢者や障害者の施設、介護サービスの充実を図る	法律や制度の見直しをする	女性の就労機会の確保、女性の職業教育・職業訓練の充実に力を入れる	政策決定・方針決定の場への女性の積極的な登用を行う	学校・生涯学習の場での男女平等や相互理解についての学習機会を増やす
女性									
今回	267	<b>62.5</b>	37.8	25.1	33.3	10.5	11.2	9.0	21.3
前回	460	<b>64.8</b>	41.5	30.0	26.7	13.7	14.8	10.4	14.6
男性									
今回	213	<b>65.3</b>	38.5	19.7	25.8	16.9	14.1	12.2	14.1
前回	109	<b>65.1</b>	50.5	27.5	22.0	23.9	12.8	7.3	22.0
年代別									
20～29歳	32	<b>68.8</b>	56.3	34.4	25.0	21.9	3.1	15.6	12.5
30～39歳	58	<b>69.0</b>	55.2	22.4	13.8	13.8	17.2	1.7	15.5
40～49歳	79	<b>77.2</b>	38.0	31.6	20.3	13.9	17.7	10.1	26.6
50～59歳	77	<b>62.3</b>	32.5	27.3	28.6	15.6	10.4	10.4	18.2
60～69歳	126	<b>58.7</b>	31.0	19.8	34.9	14.3	12.7	9.5	20.6
70歳以上	108	<b>56.5</b>	36.1	13.0	42.6	7.4	10.2	14.8	12.0

単位:%	n	各種団体の女性リーダー養成の機会を設ける	広報誌やパンフレット等による啓発を図る	男女共同参画条例を制定する	男女共同参画センターのような拠点を設置する	防災・災害復興分野における女性の参画を推進する	わからない	その他
女性								
今回	267	4.5	2.2	2.6	4.1	4.5	6.7	3.0
前回	460	1.7	3.7	2.4	5.0	0.0	6.7	2.4
男性								
今回	213	4.2	5.2	5.2	4.7	9.4	4.7	3.8
前回	109	0.9	1.8	4.6	1.8	0.0	3.7	2.8
年代別								
20～29歳	32	9.4	0.0	0.0	0.0	3.1	3.1	0.0
30～39歳	58	6.9	3.4	1.7	1.7	10.3	8.6	1.7
40～49歳	79	5.1	2.5	3.8	5.1	2.5	1.3	7.6
50～59歳	77	1.3	1.3	6.5	5.2	3.9	7.8	1.3
60～69歳	126	4.0	3.2	3.2	4.8	5.6	7.1	2.4
70歳以上	108	3.7	7.4	4.6	5.6	12.0	5.6	4.6

## 9. ご自身やご家族について

F1 あなたの性別を、お聞かせください。(○は1つ)

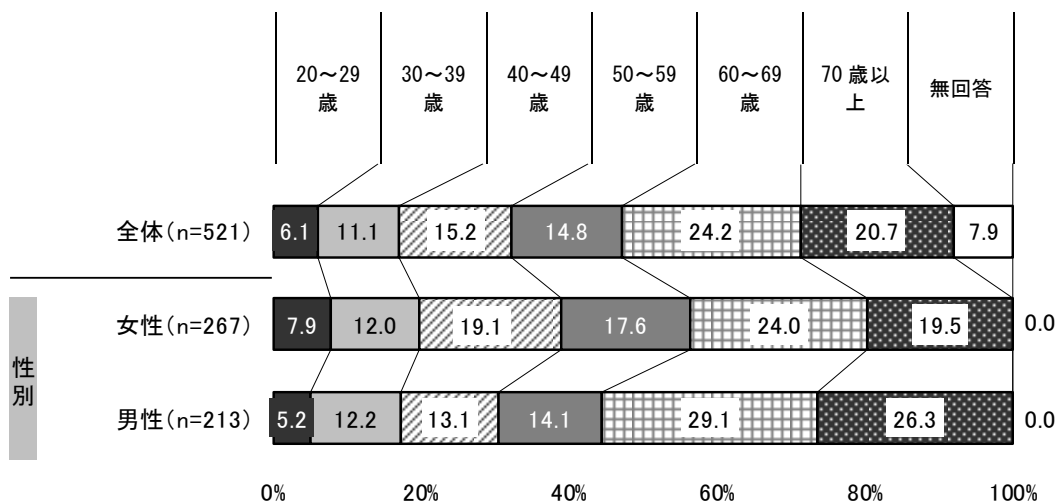
性別については、「女性」が51.2%、「男性」が40.9%となっています。



F2 あなたの年齢を次の中からお選びください。

年齢については、「60～69歳」が24.2%で最も高く、次いで「70歳以上」が20.7%、「40～49歳」が15.2%となっています。

性別にみると、女性では「40～49歳」が19.1%と男性に比べて6.0ポイント高く、男性では「60～69歳」「70歳以上」が2割台半ばから2割台後半と、女性に比べてやや高くなっています。

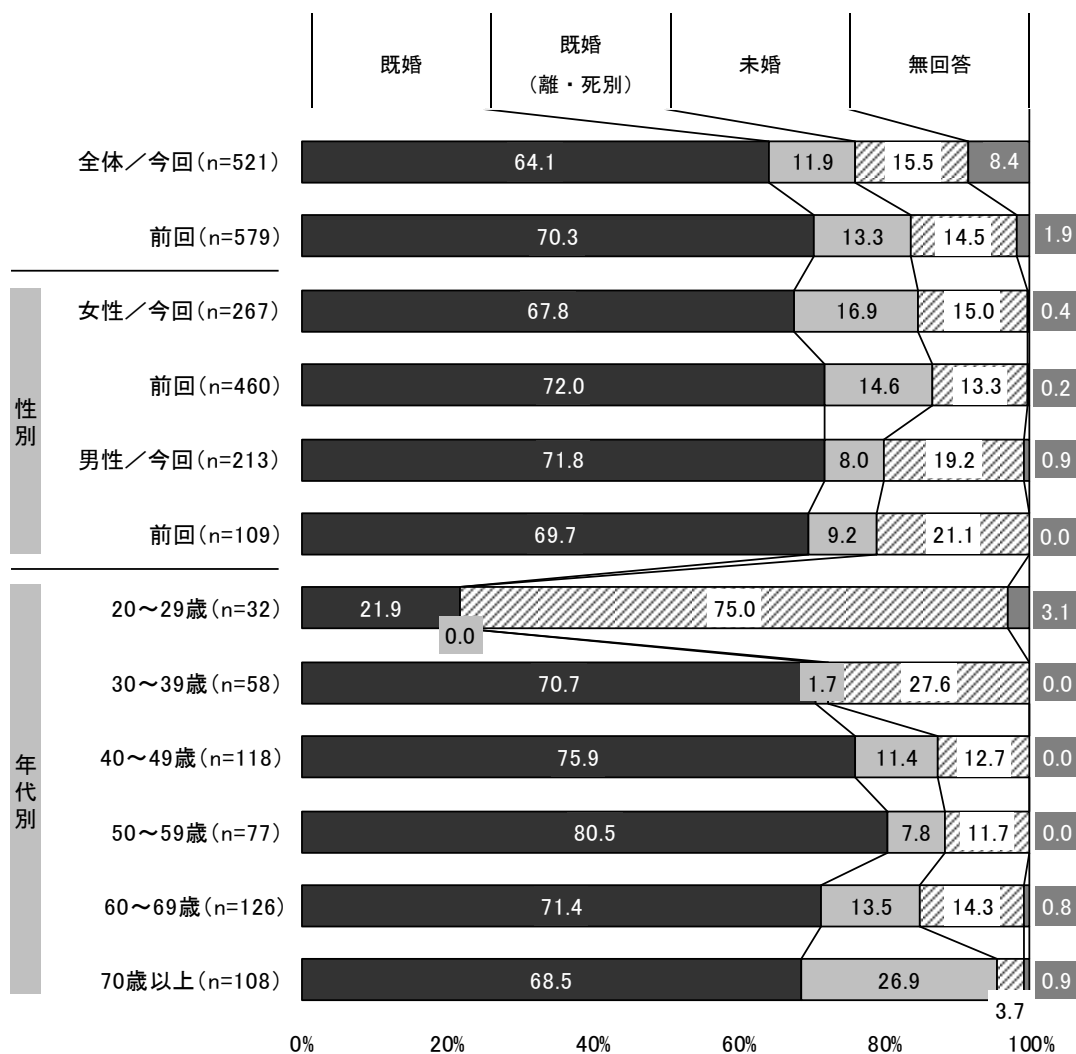


### F3 あなたは現在ご結婚されていますか。(〇は1つ)

婚姻の有無については、「既婚」が64.1%で最も高く、次いで「未婚」が15.5%、「既婚(離・死別)」が11.9%となっています。

性別にみると、女性では「既婚(離・死別)」が16.9%と、男性に比べて8.9ポイント高くなっています。また、前回調査と比較すると、同様の傾向となっています。

年代別にみると、「未婚」が20～29歳では75.0%、30～39歳では27.6%と、他の年代に比べて高くなっています。また、70歳以上では「既婚(離・死別)」が26.9%と他の年代に比べて高くなっています。



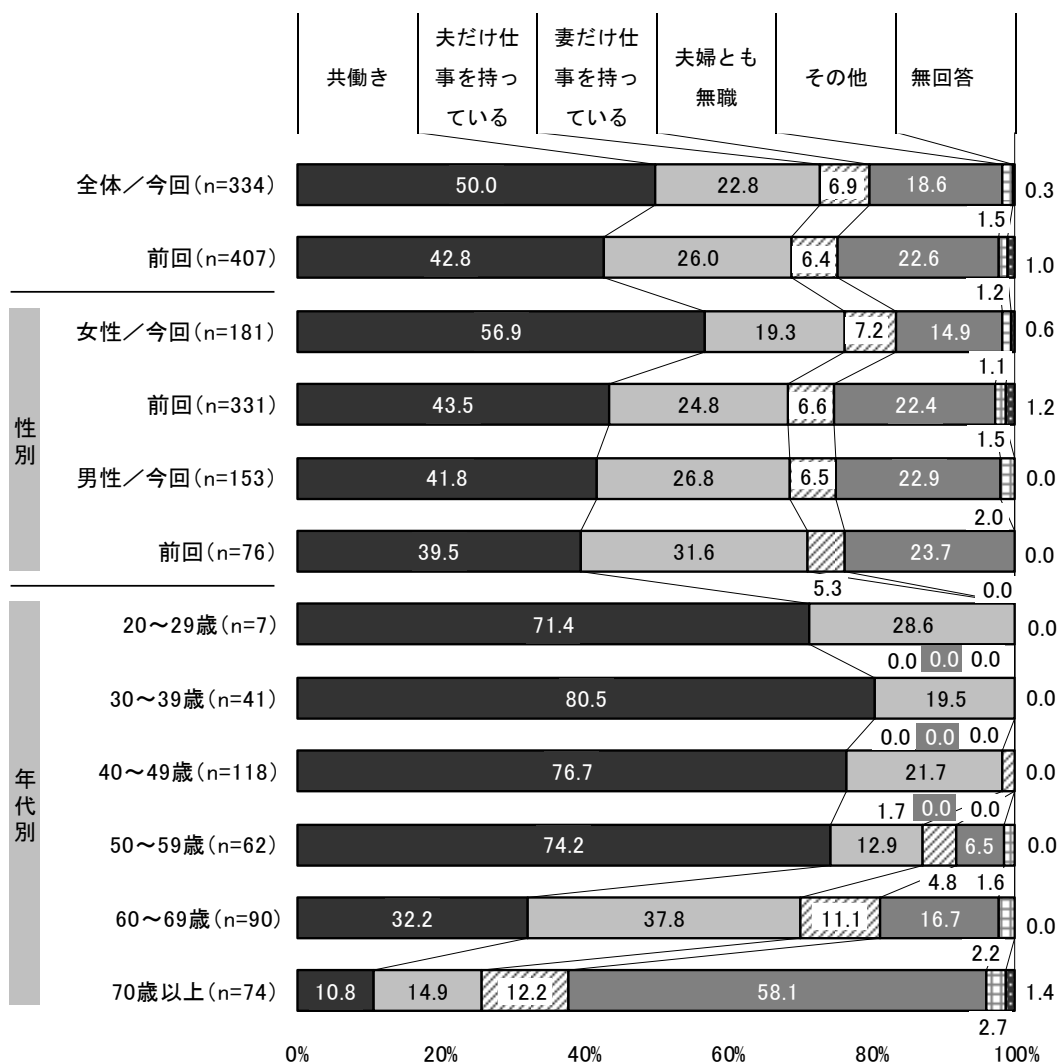
### 【F3で「既婚」を選択した方】

F3-1 あなたの世帯は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

世帯の就労状況については、「共働き」が50.0%で最も高く、次いで「夫だけ仕事を持っている」が22.8%、「夫婦とも無職」が18.6%となっています。

性別にみると、女性では「共働き」が56.9%と男性に比べて15.1ポイント、男性では「夫だけ仕事を持っている」が26.8%と女性に比べて7.5ポイント高くなっています。前回調査と比較すると、女性では「共働き」が13.4ポイント増加しています。

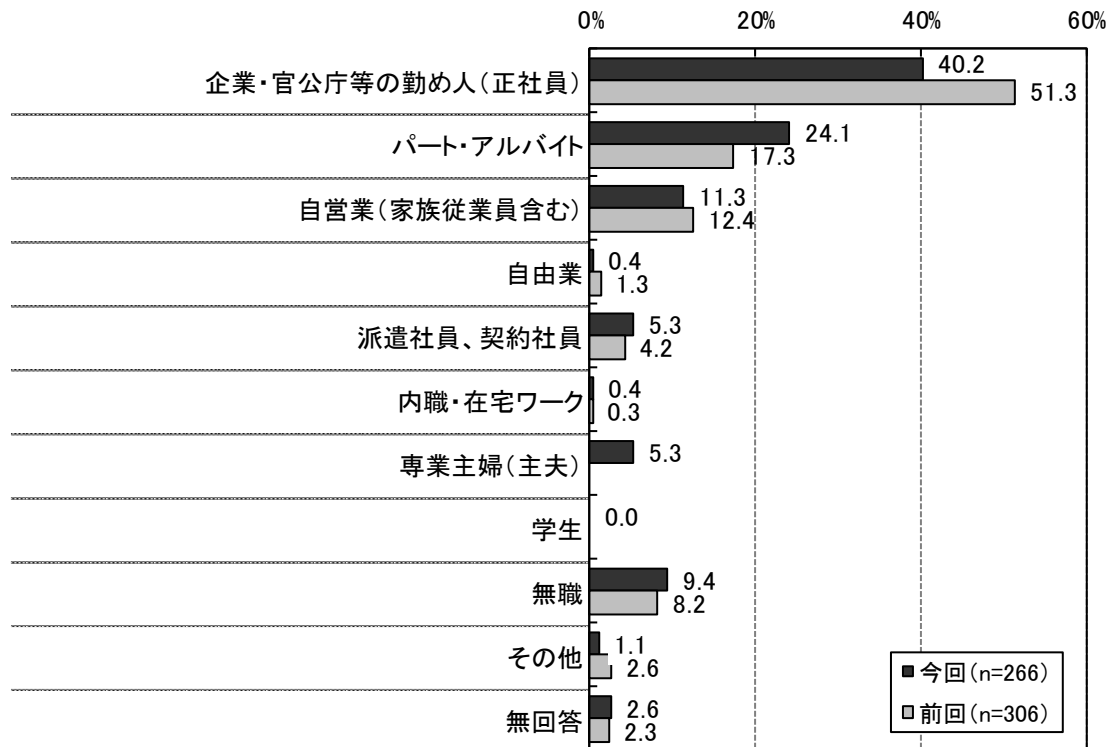
年代別にみると20～59歳では「共働き」が7割台前半から8割台前半、60～69歳では「夫だけ仕事を持っている」が37.8%、70歳以上では「夫婦とも無職」が58.1%と、最も高くなっています。



**【F3-1で「共働き」「夫だけ仕事を持っている」「妻だけ仕事を持っている」のいずれかを選択した方】**

**F3-2 配偶者の職業は何ですか。(○は1つ)**

配偶者の職業については、「企業・官公庁等の勤め人（正社員）」が 40.2%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」が 24.1%、「自営業（家族従業員含む）」が 11.3%となっています。



※前回調査では「専業主婦（夫）」、「学生」は選択肢に含まれていません。



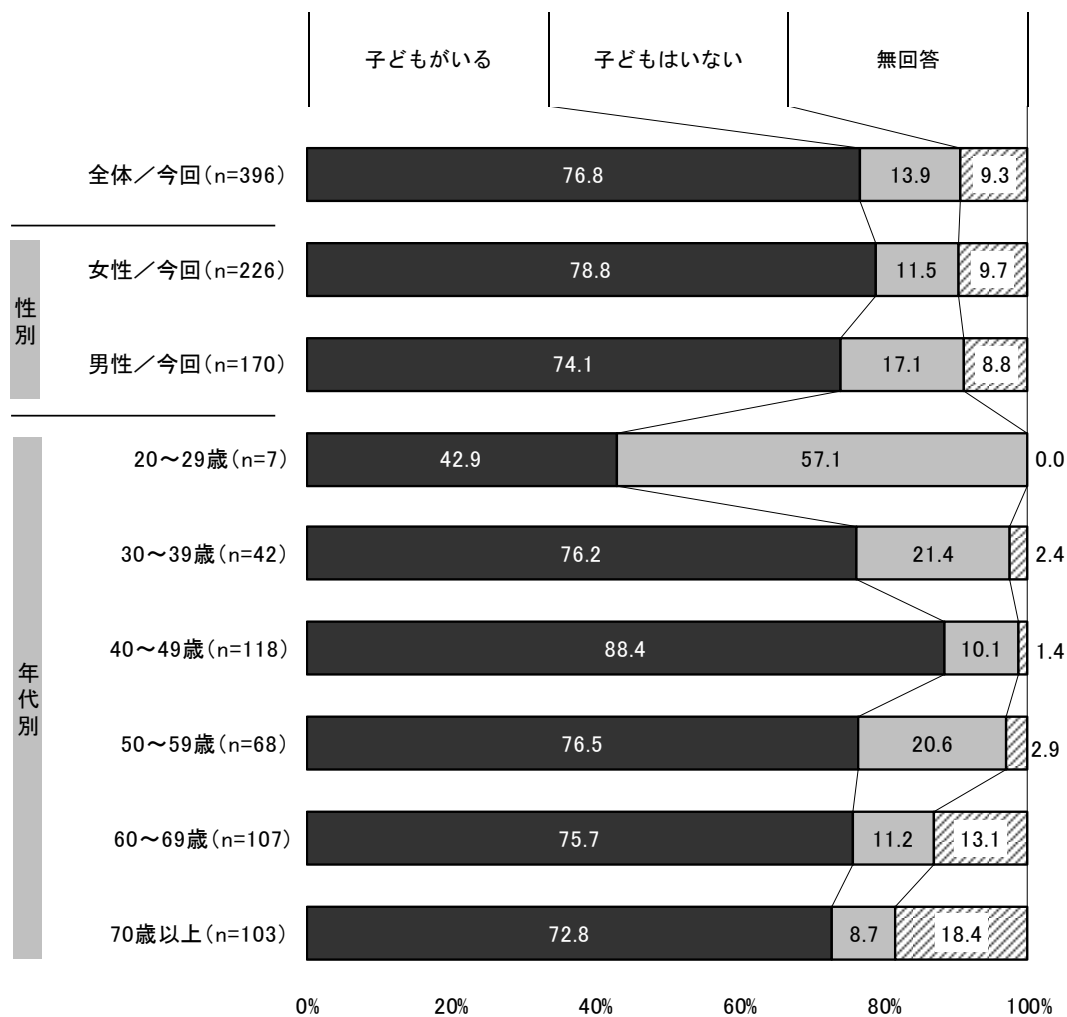
**【F3で「既婚」または「既婚(離・死別)」を選択した方】**

F4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。現在お子さんと同居されていない方も含めて次の中からお選びください。(○は1つ)

子どもの有無については、「子どもがいる」が76.8%で、「子どもはいない」の13.9%を上回っています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

年代別にみると、20～29歳では「子どもがいらない」が57.1%で、「子どもがいる」の42.9%を上回っています。また、40～49歳では「子どもがいる」が88.4%と、他の年代に比べて高くなっています。



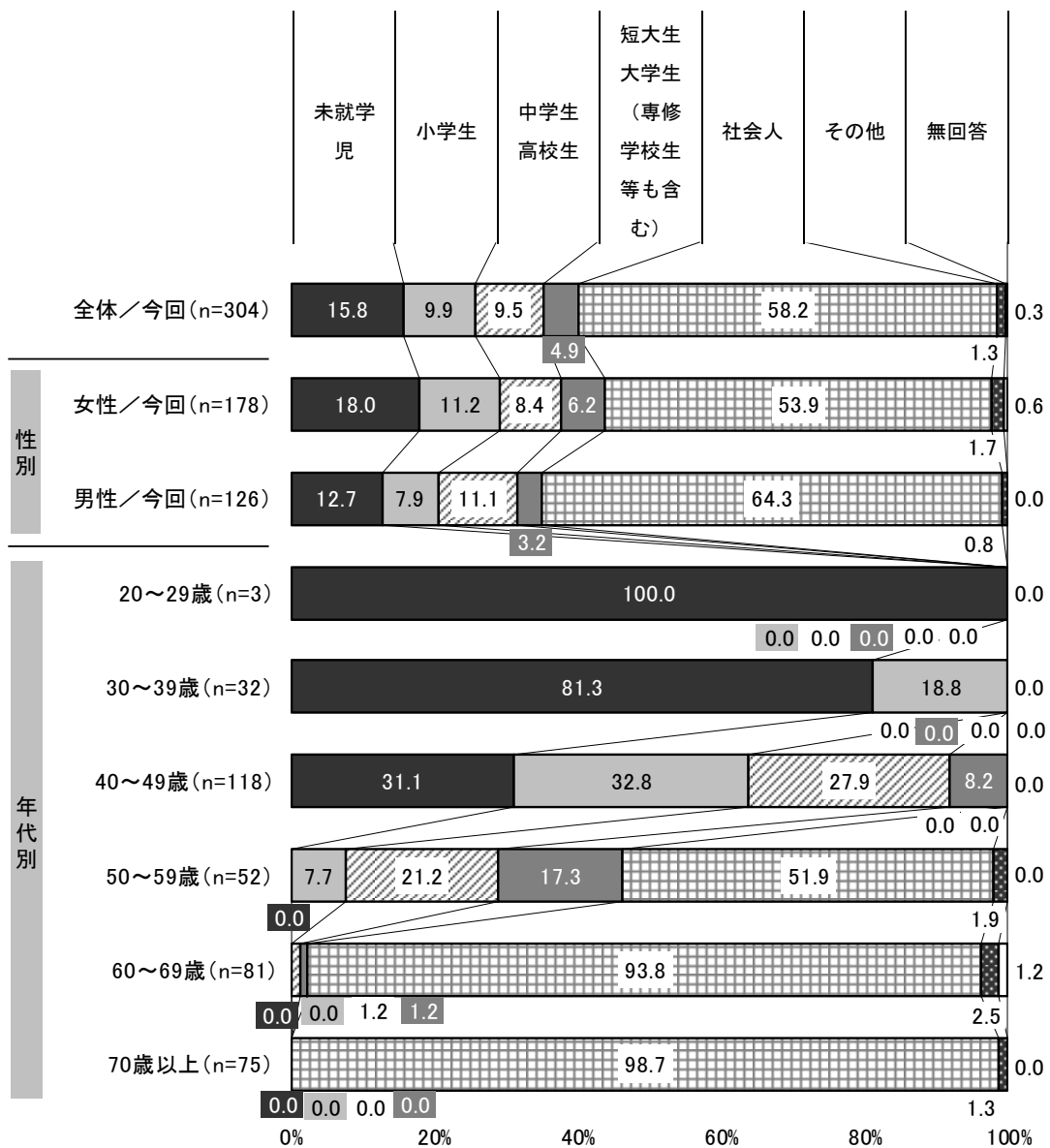
**【F4で「子どもがいる」を選択した方】**

F4-1 一番下のお子さんは次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

末子の状態については、「社会人」が 58.2%で最も高く、次いで「未就学児」が 15.8%、「小学生」が 9.9%となっています。

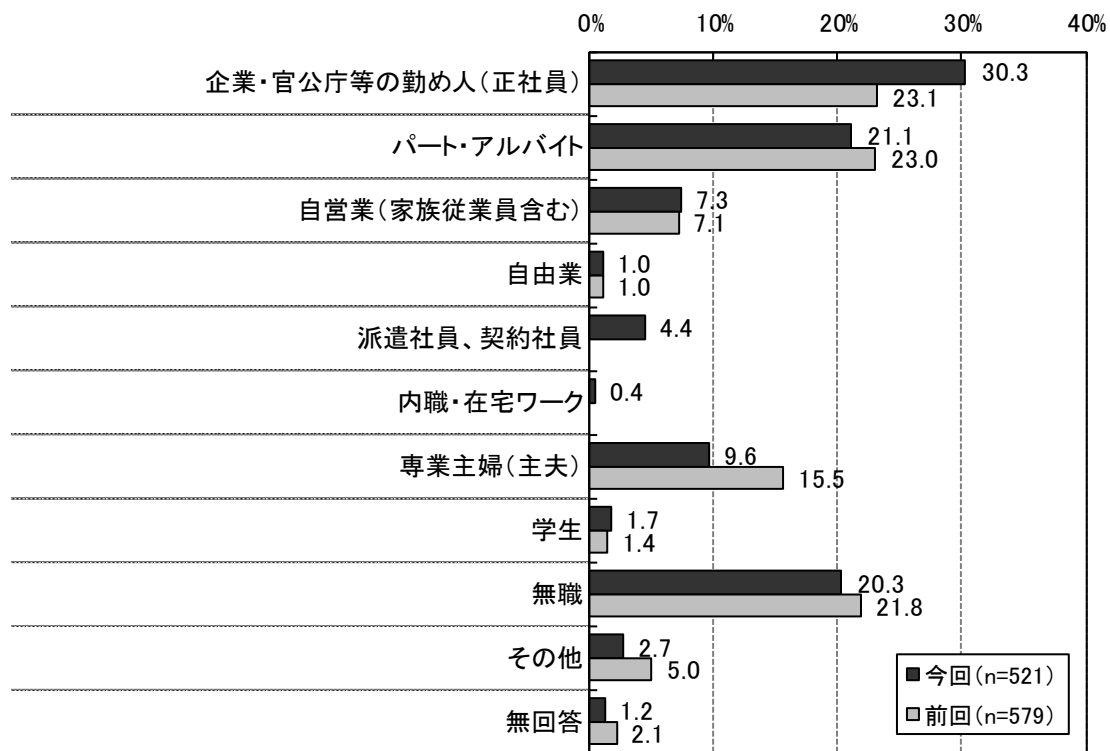
性別にみると、女性では「未就学児」が 18.0%と男性に比べて 5.3 ポイント高く、男性では「社会人」が 64.3%と女性に比べて 10.4 ポイント高くなっています。

年代別にみると、20～39 歳では「未就学児」が 8 割台前半から 10 割、50 歳以上では「社会人」が 5 割台前半から 9 割台後半と高くなっています。



F5 あなたのご職業を次の中から選びください。(〇は1つ)

職業については、「企業・官公庁等の勤め人(正社員)」が30.3%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」が21.1%、「無職」が20.3%となっています。



※前回調査では「派遣社員、契約社員」、「内職・在宅ワーク」は選択肢に含まれていません。

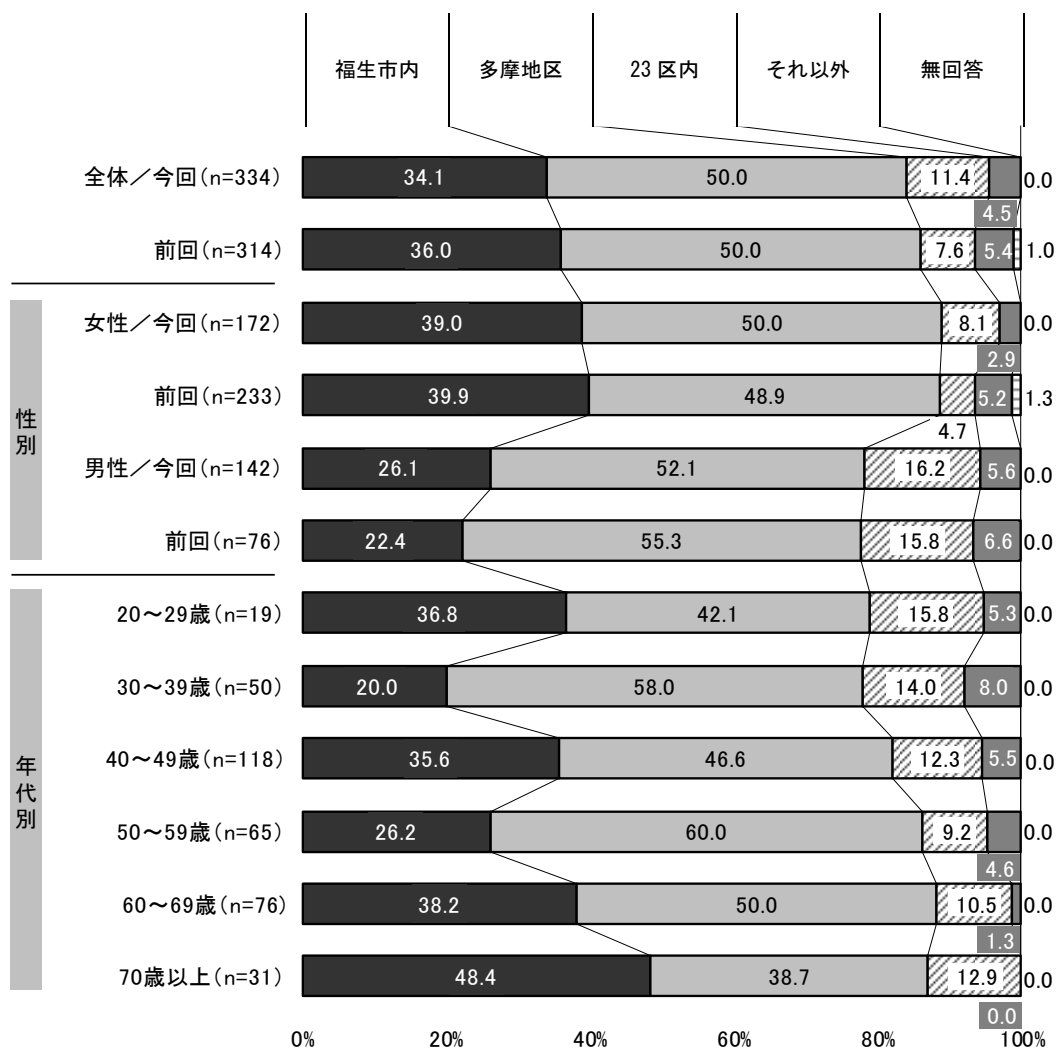
**F5で「企業・官公庁等の勤め人(正社員)」、「パート・アルバイト」、「自営業(家族従業員含む)」、「自由業」、「派遣社員、契約社員」のいずれかを選択した方】**

F5-1 あなたの主な仕事場は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

主な仕事場については、「多摩地区」が50.0%で最も高く、次いで「福生市内」が34.1%、「23区内」が11.4%となっています。

性別にみると、女性では「福生市内」が39.0%と、男性に比べて12.9ポイント高く、男性では「23区内」が16.2%と、女性に比べて8.1ポイント高くなっています。また、前回調査と比較すると、同様の傾向となっています。

年代別にみると、30～39歳、50～59歳では「福生市内」が2割割から2割台半ばと低く、「多摩地区」が5割台後半から6割と高くなっています。

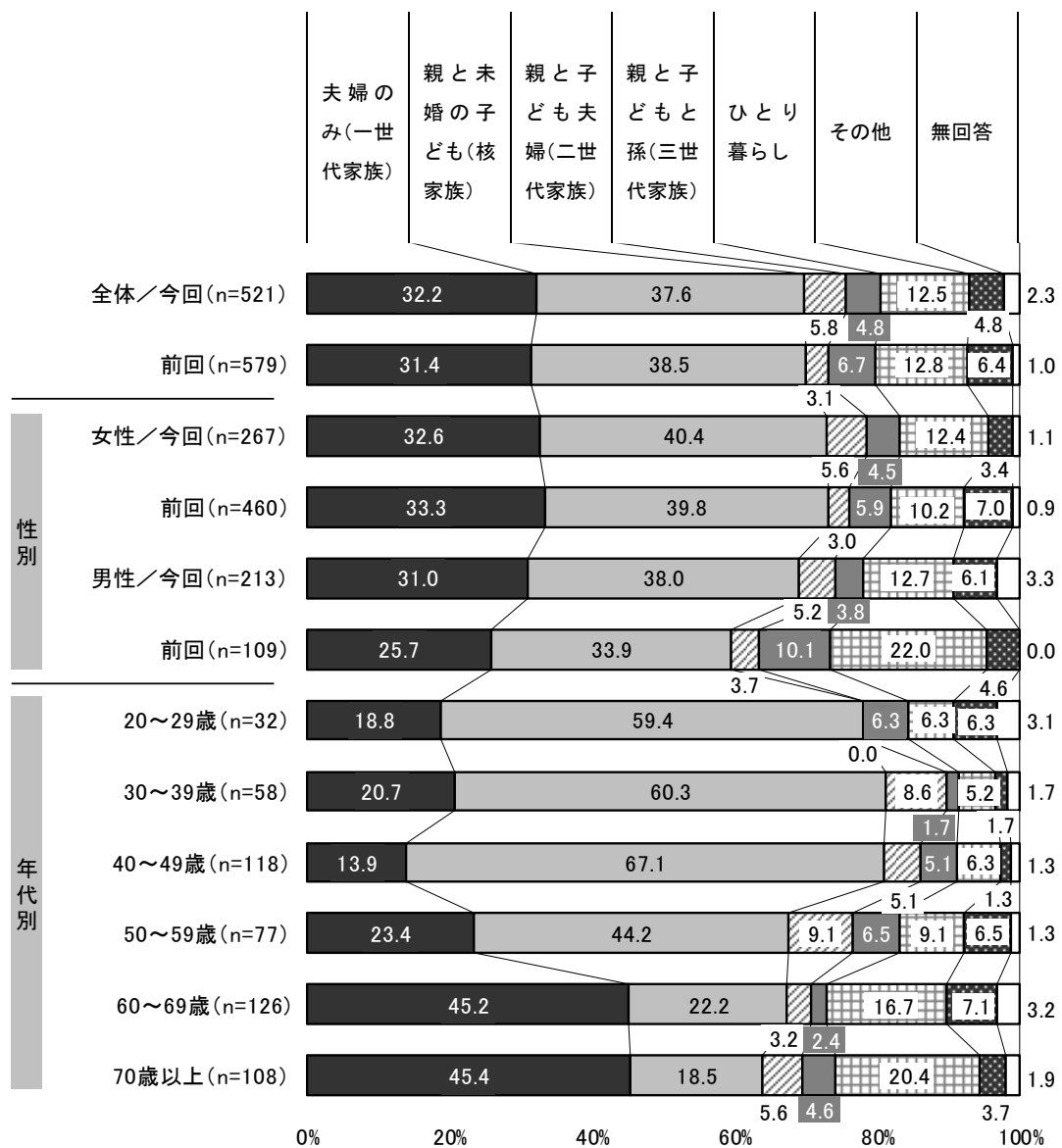


F6 現在のあなたのお宅の家族構成を次の中からお選びください。(〇は1つ)

家族構成については、「親と未婚の子ども（核家族）」が37.6%で最も高く、次いで「夫婦のみ（一世代家族）」が32.2%、「ひとり暮らし」が12.5%となっています。

性別にみると、大きな違いは見られません。前回調査と比較すると、男性では「ひとり暮らし」が12.7ポイントと、9.3ポイント減少しています。

年代別にみると、20～59歳では「親と未婚の子ども（核家族）」が4割台から6割台後半、60歳以上では「夫婦のみ（一世代家族）」が4割台半ばと最も高くなっています。



## 10. 自由回答について

女性も男性も共にいきいきと暮らせる社会づくりに向けて、ご意見をうかがいました。

いただいたご意見を、第5期福生市男女共同参画行動計画の4つの主要課題ごとに分類し、主なものを紹介します。なお、掲載に当たり、原文の趣旨を損なわない範囲で一部表現を変えている場合があります。

### ■主要課題1 男女共同参画社会形成への意識づくり

回答	性別	年齢
まだまだ男子優先の考えはなかなか抜けないと思う。職場でも「男女平等」と謳って突如リーダーの女性を作っても、結局、子供の面倒、親の面倒は女性の役目。男性の意識改革をしていくのはまだまだ難しいと思う。制度の前に、40歳以降の男性にも、その意味を、男女平等をしっかり勉強してほしい。	女性	30歳代
外国で生活をして、男女の生き方、人間関係が日本より良く、住みやすいと感じていました。男性の方が体も大きく体力もあるので、力仕事は男性、女性はまた男性に出来ない事をして、生活や社会では、平等に意見を言っていました。周りの方も常にサポートして、知らない人にでも見て見ぬふりはあまり感じませんでした。日本では派閥が多く、自分の意見が言えない環境があり、いじめが多く見られて残念です。自分は未熟だと思い常に相手を尊重し強制せず、思いやれたら幸いだと思います。	女性	40歳代
意識改革はもちろん必要かと思いますが、案外清潔な街づくり、明るい色だったり、道路整備、通勤や混雑の解消、素敵な公園等がストレス軽減に繋がり、いきいきと暮らせる社会へと繋がる一つになるのではないかと思います。	女性	40歳代
高校生くらいで市外や国外に行かせるような制度があると、地元の中での共通認識的な慣習が蔓延しないのではないかと思います。小中学校での課題で様々な国や村などの生活を面白く表現した映画や本などの充実を図る。	女性	40歳代
女性が強くなり、男性への感謝等、平等で当たり前と思う事も世の中のバランスが崩れた要因かなと思う事が多い。男の、女の役割は、体のづくりでは平等にはならないかと。	女性	50歳代
まずは健康を促進する場を増やし、男女がお互いに意見を言える場と環境を整える事。女性の意見を取り入れる事。市民のためになることに税金を使って下さい。住みやすい街づくりこそ、市民の生活を豊かにすると思います。男女共同参画に対して、市民全体が理解を深められる場を作る事。今回の台風でもそうですが、災害で被害に遭わない様に何をどうすれば良いかを頭で考えるより、実際の手順、行動を把握しておく。訓練が必要。男女が意見を出し合い、よりよい生活ができるように考えていくことが必要。	女性	50歳代

回答	性別	年齢
大きな会社、組織は分からないが、私が今まで就いていた職場では、小規模のせいかな常に男性が優位にあり、また私自身の体調や親の介護等、なかなか認められる事はありませんでした。報道等でも色々見ますが、子供の頃の家庭や学校での教育を充実していかない限り、女性も男性もというところには難しいのではないかと思います。	女性	60 歳代
男女別の問題ではなく、共に相手を尊重し、同じ立ち位置で関わり合うという事。要は、成育歴、人間性の問題。	女性	70 歳以上
私達は 70 代の高齢夫婦なので、今更男性、女性平等という教育を受けていない夫に家事を分担してというのは無理のようです。でも人生 100 年時代、これからも一緒に暮らしていく為にも、中高年の男性の意識改革が必要だと思います。	女性	70 歳以上
男女共に男女間の性差を認識し、社会生活において相互に補助し合う事が重要かと思います。男女についての社会通念、慣習等は今まさに変革期を迎えている段階ですので、様々な課題もあるでしょうが、男女共にこのような意識を持てるような環境、取り組みがあれば双方にとってより良い社会を形づくれるのではないのでしょうか。	男性	20 歳代
第一に根本的な男性の方が偉いという価値観を見直すべき。正直難しいと思うけれど。また、保育の無償化の対象年齢と内容を更に充実すべき。	男性	20 歳代
男女共同参画、多様性を美化し過ぎる事で、自己満足を達成しようとする考えは持たないで欲しい。男女平等を求めるのであれば、女性のみが優遇される事等も問題視すべき事象もあり、留意すべき事かと感じる。	男性	40 歳代
平成から令和へと新しい時代を迎える中、男女共同参画社会実現への啓発、啓蒙活動の充実をより一層図る事が必要ではないのでしょうか。	男性	60 歳代
男性、女性、LGBT とは言わなくとも、人は他者に対して思いやりさえきちんと持っていれば大したトラブルは起きない。社会は個人の能力に対して評価や働き方が当然としたシステムの上に成り立てば、男女差別はそもそも生まれない。愛ある家庭があって、夢や希望の上に人は働く意欲を持つことから、日本社会と世界の労働の義務自体が個人のそういった思いの上であり、個々の集合体であるだけに過ぎないのだという大前提を忘れる事なく、驕る事なく、助け合いの意識で社会の歯車が回っているのを認知すべき。	無回答	無回答

■主要課題2 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進

回答	性別	年齢
介護、保育等の福祉サービス向上。	女性	20 歳代
働きやすい環境づくり。子育てしながらの仕事は大変なので、保育施設でのサポートが必要であると感じる。一番望んでいるのは、会社の敷地内に保育園がある事。	女性	20 歳代
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりが根強いように感じます。育児、介護などを男女が共に担う為の制度やサービス等が整備されているとは思えず、本人と家族の負担が大きくなってしまふ事で、子どもを持つ事や、老いていく事を前向きに考えられません。女性が能力を發揮できる環境や機会が十分でなく、能力を發揮している女性を適正に評価する仕組みが欠けているのかなとも、社会全体で見た場合に男性の方が優遇されている、と感じてしまう原因にあると思います。	女性	30 歳代
小さい子供が安心して過ごせる空間づくりをして欲しい。休日や放課後の公園でも安心して遊べるような環境に。また、男性(夫)が安心して連れだせる施設や遊具、落書きやゴミの少ない環境などが整えば、女性(妻、母)の時間が確保出来ると思います。	女性	30 歳代
社会参画=いきいきと暮らす事(特に女性が)、という感じには違和感を覚えます。仕事をしたいのにできないと育児や介護をしている人もいます。	女性	30 歳代
まだまだ男女差別が根強く、女だからお茶入れやトイレ掃除を職場でさせられていることが多いです。女性は妊娠すると産後休暇や育児休暇を取って休むため、一度退職してしまうと社会復帰は本当に難しく、会社側は採用してくれないし、退職しなくても疎まれるのが現実。女性が子供を産み、育てていくためにはもっと男性も家事育児に参加出来るよう社会が考え方を根本から見直す事が必要に思います。法的にも、もっと企業に男女平等、育児休暇の義務付けなどを呼びかけして欲しいです。	女性	40 歳代
男性の家事分担。会社側が育休を取りやすいシステムを作れば男性も育児に参加出来ると思います。	女性	40 歳代
女性が仕事を続けるためには、子供が病気の時、安心してお願いできる人や場所が必要だと思います。仕事より子供を優先すべきだとは思いますが、どうしても仕事を休めないことがあるので。私の場合は近くに両親がいたので助かったことが多かったです。女性も男性も共にいきいきと暮らすためには、自分のことばかり考えないで、他人に優しくできる気持ちを育てること、人に優しい社会になることだと思います。	女性	50 歳代
娘は今、共働きで 1 歳と 3 歳の子供を育てながら正規社員で働いています。見ていると家庭と子育てを一人で背負っていて、言葉に出せない程忙しい生活をしています。夫の方は仕事に早朝から遅くまで出かける日々なので手伝ってもらえていません。この状況を日本は何とか変えていく必要があると思います。子供の家庭と離れて暮らしているので手伝いに行くのも思うようにはいきません。今は子育てをする女性は本当に大変な時代です。	女性	60 歳代



回答	性別	年齢
今の現状はどうしても男社会ですね。昔と比べて女性の社会参加も増えてきていますが、どうしても家庭を持てば、男性と同じという訳にはいきません。何かあった時には、どうしても女性が家庭に入るしかないと思います。いくら仕事が好きでも。理想は、仕事が続けていけて、家庭もうまく治められると良いですね。色々な使える制度があったら良いですね。	女性	60 歳代
子育て支援（特に0歳～幼保に入園するまでの母子へのサービス。乳児のみの一時預かりや母親への相談サービス、出産した病院等から保健所への綿密な連絡体制。保健師の人数の増加、保育の人数の増加。これは給与体制が変わらない限り不可能です。）	女性	60 歳代
労働時間の短縮（一日の中でのリフレッシュタイムが大事）。家事、育児の負担が男性より女性の方が大きい。なので、仕事の見直し（仕事改革）が必要。男性（父親）は、家庭にいる時間が大切。両親揃っての育児が必要。	女性	60 歳代
北欧の様に男性も家事、育児に参加し、女性が出産後も働ける社会作りが必要だと思う。子供は国が育てるという環境を作れば労働力不足も多少はなくなるのではと思う。又、女性に対する差別もなくなるのでは。	女性	60 歳代
少子高齢化社会に対応するためにも、男性女性が協力し合い、仕事、家庭生活などのバランスが取れて自分らしい生き方を選択できる住み良い社会になることを願います。	女性	60 歳代
女性の社会進出を促すための理由だけで女性を登用せず、能力、資質が充分にあれば男女に関係なく働け、しかるべき地位に就けるようにすべき。社会貢献する上では男女にこだわらず人として平等に評価され待遇されるべき。他方では男性の給料の昇給率が低いので女性に働いてもらわないと結婚できない状況。AIの出現で人員経費削減にどのように対処していくのかも課題だと思う。	女性	60 歳代
保育、介護等の施設を増やして、預けながら仕事を続けられる環境である事。	女性	70 歳以上
性差ではなく、能力によって判断される社会が望ましいと思います。女性の管理職を増やすため、本人の気持ちを無視して昇進させた結果、精神を病み、退職された方を知っているので、慎重な対応を望みます。	男性	20 歳代
女性が社会参加できるような社会づくりが必要と考えますが、その結果、保育サービスを向上させる事だけに重点が置かれ、本来、親の育児が他人任せになる事は、本末転倒と思います。いずれにしても、意識改革は、児童達には良策と思いますが、時間を要する為、現在の社会を変えるには法整備が必要不可欠と思います。	男性	50 歳代
男女共同参画が言われてから久しく時が過ぎて、女性の社会進出が進んでいるが、頭打ちの感がある。今まさに、行政、企業が横断的に結ばれた組織や枠組みが必要であると思う。	男性	60 歳代
女性が経済的に自立すること。万が一のときは夫に頼らなくてもよい経済的基盤を持つこと。（スキル・能力・資格を身に付けること）	男性	60 歳代

### ■主要課題3 あらゆる暴力の根絶

回答	性別	年齢
情報弱者に対する教育の徹底。犯罪に対するペナルティ強化。性別を越えたイベントの実施。	男性	70歳以上
女性が上司等に異なる意見（会議等で）を発表した為に上司によるパワーハラスメントを受け、退職せざるを得ない場合が多々あります。人間性の問題でしょうか。	女性	70歳以上

### ■主要課題4 あらゆる分野における男女共同参画の推進

回答	性別	年齢
子供から大人まで誰でも気軽に参加できる、コミュニケーションの場がたくさんあると良いと思います。	女性	60歳代
地域、社会に積極的に参加する事の大切さを感じました。現状では行動が伴いませんが、少しでも協力し、地域との繋がりが持てれば良いと思います。	女性	70歳以上
一人暮らしや高齢者など人との付き合いが苦手な人達が集まれる場所が何カ所かあると孤立することもなく人との繋がりが出来楽しい1日が過ごせるのでは。高齢者がこれから多くなるのでその立場で。	女性	70歳以上
個人個人で参加意識を高め、アクションを起こす。	男性	70歳以上
特に、能力有るなら、女性も男性も差別する必要は無い。女性を特に引き上げるための制度を作るのは必要は無い。このような制度を作ると逆に差別化になるのではないか。	男性	70歳以上
性差を考えなければダメな時を弁えれば、男女を意識せずに活動すべき。女性を政治的に優遇すべきでは無い。	無回答	無回答
自分の住む町を好きであるかが問われる事だと思います。ただ住んで生活でなく、もっと魅力、良さを皆が分かち合えるような町であるなら、いきいき暮らしていけると思います。年代、世代別の格差や、他人、隣人との交流の希薄など無くす方向に、地道に時間かけて推し進めばおのずと良い街、誇れる市民、地域社会になっていくと願っています。老人と若人、幼児達と合体した施設(老人ホーム、託児所、学校教育現場、学童、中高生達の放課後、日、休日に学べる施設など交流、考え、学び合う場など複合的な営みの場)があれば幼い頃から世代を超えた人々との交流関わり方が学べるのではと常々思っています。少子化が叫ばれる昨今、概念や慣習、既成などを超越した着眼で長期的に福生市の在り方、市民が我が街、未来型、持続的な営み暮らしができ、且つ、夢、誇れる皆であって欲しいと願っています。	無回答	無回答

### ■アンケートについて

回答	性別	年齢
自分なりにしっかり考えてアンケートに答えました。子供が寝てる間に回答しましたが、次回は、働いて時間に追われ、忙しかったらあえて時間を作って回答はしないと思います。	女性	30 歳代
無作為にアンケート調査をした様ですが、高齢者には返答しにくい事が多かったです。	女性	70 歳以上
ある程度内容に応じられる人選をして書類の送付を願いたい。	女性	70 歳以上
アンケートを取るなら、もう少し長く期間を設けた方が良いと思う。	女性	30 歳代
アンケート調査結果を知らせてほしい。このアンケート調査の意義があるのなら、今後、どう活かせたのか、活かせるのかを広報等で知らせてほしい。	男性	20 歳代

### ■行政に対して

回答	性別	年齢
”いきいき暮らせる社会”には経済力が必要でそれをサポートする体制、分かりやすい書面、周知徹底が必要だと思います。行政が何か対策をしても市民が知らないのでは意味がなく、それを分かりやすく伝える事が大事だと感じます。	女性	30 歳代
生活の基になる収入の確保。安定な暮らしができる様な市政をお願いいたします。	女性	60 歳代
広報等で情報を多く市民に提供してもらいたい。	男性	70 歳以上
高齢者に対しての質問が少なく、何を目標にしているのかが良く解らない。市の行政がもっと自主的に責任を持ってリードすべきで、福生市の独自の方針を出すべき。	男性	70 歳以上

■その他

回答	性別	年齢
都合の悪い意見に目を背けず向き合う事が大事だと思います。	女性	20 歳代
収入が増えないといきいき暮らせないと。ダブルインカムでなくても暮らせるような社会でも良い。	女性	40 歳代
現在は、いきいきと暮らせています。家族との会話、話し合いは、大切だと思います。実行しています。相談できる家族、友人、公共の窓口は必要だと思います。	女性	50 歳代
私は、現代社会はとても偏った社会だと感じます。誰だっていきいきと暮らしたい。子供は家に帰っても疲れ切った親に育てられ国策とも思える女性も働ける社会。一部の人を忘れ、ストレスをぶつけられる弱者が増えることは、とても危険な気がします。大らかな母親が消え、安心できる父親が消え、ストレスと孤独の中で育った子供はどうなるのだろうかと思います。それならば、引きこもっている人たちが働いてくれたら、どんなにみんな助かることかと思います。	女性	50 歳代
男女の性別なく人間としてお互いが理解し合う努力をすること。	女性	50 歳代
誰もが安心して過ごせる居場所を持てる事。多様性、個人を認め合えること。この様なことに関心を持つ余裕が持てる事が大切ではないかと思います。	女性	50 歳代
女性活躍という言葉が無くて同じ人間として生活できるようになればいい。その言葉でかえってがんじがらめになって生きにくくなっている。	女性	50 歳代
若者の事を中心の考えばかりでなく、高齢者も安心して生活を出来るようにして欲しい。特に、一人で生活をしている方は、少ない年金で生活が苦しいと思う。	女性	60 歳代
子供を育てる事は、社会で働くのと同じように大事な事です。	女性	60 歳代
男女平等という言葉は、現実と理想と大きく違う事になっているのは、皆さん承知している事ではなかなか現実には難しいと思います。孫の未来が明るい社会になっているように願うばかりでございます。	女性	60 歳代
第一は健康です。	女性	70 歳以上
定年後も出来る趣味を持っていると良いと思います。	女性	70 歳以上
諸行事に参加したいと思いますが、年々億劫になり家にこもりがちです。高齢者にはとても住みやすい市だと思います。	女性	70 歳以上
女性も男性も共にいきいきと暮らせる社会はとても大事だが、社会全体を動かすのはとても大変で男性の方が上と認識している男性が多い今の日本では難しい問題だと思う。まずは福生市民が男女暮らしやすい様に子育て施策などの手厚い援助等をさらにして欲しいと思う。	男性	30 歳代
生物学的に性差はある。よって男女それぞれの得手不得手があって良く、それを存分に発揮できる社会が良いと思う。	男性	40 歳代
健康・愛情溢れる配偶者（自分もそれに近づきたい）。個性的で優しい隣人たち。	男性	60 歳代

回答	性別	年齢
いきいきと暮らせない問題点を掘り出し、一つ一つ男女で解決する。	男性	60歳代
出来るだけ法律や制度、規制に頼らずに実現するのが望ましいと思います。これに頼ると人間関係が無味乾燥なものになっていく気がします。	男性	70歳以上
男女平等は当然ですが、その人に合った仕事、作業が明確化されているマニュアルが出来れば素晴らしい事です。何事においても楽しく出来る様な仕組み作りは必要ですが、誰にでも平等は難しいと考えます。人それぞれ性格（人格も含め）があり、その人を知った上で協調してもらう事が出来るかどうかと思います。今は、何を考えているか分からない行動をする人が多くなり、社会問題となっています。表面的な対策でなく、今をよく知り、対応策を常に行う事が必要と考えます。	男性	70歳以上
自分の意見をはっきり述べる（日本人は遠慮深いから）。また、国(市)は国民に希望を持たせる。	男性	70歳以上
障害者、老人に差別なく声掛けして欲しい。	無回答	無回答
福生市は、暮らしやすいと思います。保育園の全入、市役所の開館時間や、市側の人水曜の夜8時まで来てくれるところもいい。福祉センターのいきいきデイサービスなども良い。	無回答	無回答
平等にしなければいけないという風潮がかえって息苦しく感じます。二元論は良くないと思う。	無回答	無回答

### Ⅲ 調査のまとめ

本調査の結果を、「福生市男女共同参画行動計画（第5期）」における主要課題ごとにまとめると、以下のとおりです。

#### 1. 男女共同参画社会形成への意識づくり

- ・家庭における男女の役割分担の現状については、「男性が仕事、女性は家事・育児をする」が最も高くなっていますが、前回調査と比較するとやや減少しています。  
家庭における男女の役割分担の理想については、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」が最も高く、前回調査とほぼ同様の傾向です。また、「男性が仕事、女性は家事・育児をする」はやや減少しています。（問1）
- ・男女共同参画社会の形成のために行う教育の内容について重要なことについては、「一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える人権教育」が最も高く、次いで「男女の生き方や役割についての固定的な発想や役割分担意識を見直す教育」、「男女の差別についての社会構造・制度や歴史についての認識を深める教育」となっています。（問18）
- ・男女平等感について、『政治の場』と『社会通念・慣習・しきたり等』では、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性の方が優遇されている」が7割前半と高くなっている一方、『学校教育の場』では「男女平等である」が48.9%と、他の項目に比べて高くなっています。  
前回と比較すると、『職場』では「男性の方が優遇されている」が5.1ポイント減少しています。  
国・都と比較すると、『家庭生活』、『職場』、『社会通念・慣習・しきたり等』、『自治会やNPO等の地域活動の場』において、「平等である」が国や都と比較して低くなっています。（問22）
- ・男女共同参画に関する動きへの関心については、「大変関心がある」と「まあ関心がある」を合わせた「関心がある」が40.5%、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた「関心がない」が24.1%となっており、前回調査とほぼ同様の傾向です。（問23）
- ・男女共同参画にかかわる事柄や言葉の認知については、「知っている」が“セクシュアル・ハラスメント”、“パワー・ハラスメント”“マタニティ・ハラスメント”、“ドメスティック・バイオレンス”、“男女雇用機会均等法”、“育児・介護休業法”で5割以上と高くなっているものの、市の取り組み等それ以外の項目は相対的に低くなっています。前回調査と比較すると、“女性悩みごと相談”が14.0ポイント減少、“マタニティ・ハラスメント”が10.3ポイント増加しています。（問24）



家庭における男女の役割分担については、理想は「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」である一方、現状は「男性が仕事、女性は家事・育児をする」が最も高くなっています。前回調査と比較すると、現状・理想共に「男性が仕事、女性は家事・育児をする」はやや減少していることから、少しずつ状況は改善傾向にあるといえます。

様々な場における男女平等感について、市においては改善がみられる項目がある一方、国・都と比較すると男女平等を感じる割合が低い項目があったため、男女平等の実現のための意識・環境づくりに引き続き取り組む必要があります。

男女共同参画に関する動きへの関心については、前回調査から大きく変化はありませんでした。また、市の取り組みについては認知度が低くなっていたため、啓発活動の充実が求められています。

## 2. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進

- ・生活の中での優先度の現状は「『仕事』を優先」が最も高く、前回調査と比較すると、同様の傾向となっています。性別にみると、女性は「『家庭生活』を優先」、男性は「『仕事』を優先」が最も高く男女に差があります。一方で生活の中での優先度の理想は「『仕事』と『家庭生活』と『個人の生活』を共に優先」が最も高く、男女共に同様の傾向です。  
都と比較すると福生市では現状について、「『仕事』を優先」がやや低くなっています。  
理想については福生市が「『仕事』と『家庭生活』と『個人の生活』を共に優先」が13.7ポイント高くなっていた一方、都では他の選択肢の割合も高くなっており、理想とするワーク・ライフ・バランスについて多様な考え方があることが分かります。（問4）
- ・女性と職業の望ましい関わり方については、「結婚して子どもが生まれても職業をもち続ける」の『職業継続型』が39.2%で最も高く、次いで「職業はずっともつが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る」の『中断再就職型』が35.3%となっています。前回調査と比較すると、『職業継続型』が増加し、『中断再就職型』が減少しています。（問11）
- ・男女が共に仕事と生活の調和を図るために必要なことについては、「長時間労働を是正し、家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること」が最も高く、次いで「男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事等に参加することへの抵抗感をなくすこと」、「男女の職場での雇用・昇進・待遇の格差をなくすこと」となっています。（問14）
- ・職場での問題の有無については、「特にない」が49.3%で最も高いものの、「長時間労働が常態化している」が21.2%、「男性が育休を取得しづらい」が20.6%となっています。前回調査と比較すると、「特にない」が16.6ポイント減少しています。（問10-1）
- ・同居している家族に介護が必要になった場合、仕事をやめるかどうかについては、「やめるつもりはない」が35.7%で最も高く、次いで「わからない」が33.2%、「やめる」が18.4%となっています。前回調査と比較すると、男女共に「やめるつもりはない」が大きく増加しています。（問15）
- ・男女共同参画社会を実現するために重要だと思うことについては、男女共に「男女が共に家庭と仕事が両立できるような環境の整備を推進する」が最も高くなっています。前回調査と比較すると、「職場における男女の平等な取り扱いを推進する」が減少しています。（問26）



ワーク・ライフ・バランスの現状については男女に差があるだけでなく、男女共に『仕事』と『家庭生活』と『個人の生活』を共に優先するという理想がかなえられていない状況となっています。

女性と職業の望ましい関わり方については、『職業継続型』が『中断再就職型』を上回っており、また『職業継続型』は前回よりも高くなっていることから、ライフイベントに関わらず職業を持ち続けることを求める傾向がより高まっています。

ワーク・ライフ・バランスの実現のためには長時間労働を是正し、男女共に家庭と仕事を両立できる職場環境を整えることが求められています。



### 3. あらゆる暴力の根絶

- ・配偶者や交際相手等からどのような暴力を受けた経験があるかについては、「暴力を受けた経験はない」が66.0%で最も高く、次いで「大声を出す、罵声を浴びせる、または恐怖を感じるような脅迫等（精神的暴力）」が11.7%、「殴る、蹴るなどの身体に対する暴力（身体的暴力）」が7.3%となっています。（問20）
- ・だれ（どこ）かに相談したかについては、男女共に「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっています。相談先については「友人・知人に相談した」が28.2%、「親に相談した」が18.8%、「警察・相談所に相談した」が5.9%となっています。（問20-1）
- ・だれ（どこ）にも相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思った」が39.5%で最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」が34.2%、「相談するほどのことではないと思った」が28.9%となっています。  
前回調査と比較すると、「相談しても無駄だと思った」「相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思った」「子どもに危害が及ぶと思った」がやや減少し、「自分にも悪いところがあると思った」が8.1ポイント増加しています。（問20-2）
- ・人権侵害をあらゆる分野からなくすために、行政の取り組みとして必要なことについては、「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実」が48.8%で最も高く、次いで「DVやセクシュアル・ハラスメント等に対する罰則を強めた法律や規則等の整備」が48.0%、「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」が28.2%となっています。  
前回調査と比較すると、「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実」が9.7ポイント減少しています。（問21）



ドメスティック・バイオレンスの被害経験がある人は一定数みられており、経験した暴力については精神的暴力が身体的暴力を上回っています。

ドメスティック・バイオレンスの被害を受けた際に相談したかについては、男女共に「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっています。相談した方の相談先については、「警察・相談所に相談した」割合はほかの相談先と比較して低く、友人・親といった身近な相談者相談している割合が高くなっています。専門の相談機関を利用しやすくすることや、身近な相談者となった場合に適切に対応できるようにドメスティック・バイオレンスの正しい知識を啓発することが重要です。

#### 4. あらゆる分野における男女共同参画の推進

- ・福生市の女性委員の参画状況についてどう思うかについては、「特に男女の比率にはこだわらない」が最も高く、次いで「もう少し女性が増えたほうがよい」、「男女半々くらいまで女性が増えたほうがよい」となっており、前回調査とほぼ同様の傾向です。(問6)
- ・政策や方針決定の場において女性の参画をすすめるために必要なことについては、「市、企業、各関係機関・団体等が女性の参画を推進すること」が最も高く、次いで「女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること」、「男女の比率が偏らないように積極的に女性に参加してもらうこと」となっています。前回調査と比較すると、「女性議員が増えること」、「男女の比率が偏らないように積極的に女性に参加してもらうこと」がやや増加しています。(問7)
- ・政治・経済・地域等の各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものについては、「保育・介護・家事等における夫等の家族の支援が十分ではないこと」が最も高く、次いで「保育・介護の支援等の公的サービスが十分ではないこと」、「長時間労働の改善が十分ではないこと」となっています。全国調査と比較すると、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」が高くなっています。(問8)
- ・防災・災害復興対策において性別に配慮して取り組む必要があることについては、「避難所の設置・運営体制」が最も高く、次いで「食料、飲料水、医薬品等の備蓄品や供給体制」、「災害時の正確・迅速な情報連絡体制」となっています。前回調査と比較すると、「避難所の設置・運営体制」がやや増加しています。(問9)
- ・多様性を生かした社会づくりに向けて行政がどのようなことに力を入れるべきかについては、「多様性の理解促進のための人権教育の充実」が最も高く、次いで「外国人、障害のある人、性的少数者の正しい理解に向けた啓発活動の推進」、「国際理解を深めるための講座や交流活動の充実」となっています。(問25)



政策・方針決定の場における女性の参画をすすめるためには、女性に対する周囲からの働きかけ、女性自身の積極的な参加が必要だという意見が多くなっています。また、女性のリーダーを増やすためには、保育・介護・家事等が女性だけの負担にならないような環境整備に加え、長時間労働の改善等男女双方にとって望ましい環境となるような支援が必要とされています。

防災・災害復興対策においては、性別に配慮した避難所の設置・運営体制の検討を求める割合が高くなっており、前回よりも増加しています。災害の危険性が高まる中で、性差への配慮を伴った防災・災害復興対策を推進することが重要です。

## 福生市

### 男女共同参画に関するアンケート調査

#### — ご協力をお願い —

市民の皆様には、日頃より市政に対してご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

本市では、「福生市男女共同参画行動計画（第5期）」に基づき、「あらゆる男女の人権が尊重される社会づくり」を基本理念として様々な男女共同参画施策を進めてきました。

このたび、第6期行動計画の策定にあたり、第5期行動計画を見直し、今後の男女共同参画施策に市民意識を反映させることを目的として、「男女共同参画に関するアンケート調査」を実施することにいたしました。

実施にあたっては、住民基本台帳から無作為に20歳以上の男女2,000人を選ばせていただきました。なお、回答は無記名とし、結果はすべて統計的に処理いたしますので、個人のお名前が明らかになることはありません。また、ご回答いただいたデータは、本調査の目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご回答くださいますようお願い申し上げます。

令和元年10月

福 生 市

### ご記入にあたってのお願い

- 1 宛名のご本人がお答えください。
- 2 お答えは、あてはまる回答の番号を「O」で囲んでください。  
また、「その他」をお選びになった場合は、その後ろにある（ ）の中に具体的な内容をご記入ください。
- 3 ご記入いただいたアンケートは、**令和元年11月5日(火)**までに、同封の返信用封筒に入れ、お近くの郵便ポストにご投函ください。切手は必要ありません。
- 4 この調査につきまして、ご不明な点などございましたら下記へお問い合わせください。

調査に関するご質問、ご意見は…

福生市役所 生活環境部 協働推進課

東京都福生市本町5番地

電話：042-551-1590（直通） FAX：042-553-7500

まで、お問い合わせください。



### 外国人の方へ

You can confirm the contents of the questionnaire from Fussa-shi homepage "Information form the city Office". (<https://www.city.fussa.tokyo.jp/>)

问卷调查的内容能确认福生市主页是来自“便民公告”。(<https://www.city.fussa.tokyo.jp/>)

양케이트의 내용은, 홋사시 홈 페이지 「시청 새소식」으로 확인할 수 있습니다.  
(<https://www.city.fussa.tokyo.jp/>)

El homepage de Fussa-shi "Información de la oficina de la ciudad" y puede confirmar los volúmenes de la encuesta. (<https://www.city.fussa.tokyo.jp/>)

Homepage de Fussa-shi "informação da Prefeitura" e pode confirmar os conteúdos do questionário. (<https://www.city.fussa.tokyo.jp/>)

## 1 結婚・家庭についてうかがいます

問1 家庭における男女の役割分担について、①あなたの現状 と ②本来どうあるべきか(理想) をお選びください。  
(①と②それぞれ○は1つ)

	①現状	②理想
1 男性が仕事、女性は家事・育児をする	1	1
2 男性が仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	2	2
3 男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性がする	3	3
4 男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する	4	4
5 男女とも仕事をし、家事・育児は主に男性がする	5	5
6 女性が仕事、男性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	6	6
7 女性が仕事、男性は家事・育児をする	7	7
8 分担できる男性(女性)がいない	8	
9 その他( )	9	9

問2 あなたは次にあげる家事を普段どの程度行っていますか。それぞれの家事内容別に行っている程度をお選びください。(a から i それぞれ○は1つ)

	すべて 自分がやる	ほとんど 自分がやる	半分くらい 自分がやる	あまり やらない	まったく やらない	該当しない・ 必要ない
(a) 食事の支度	1	2	3	4	5	
(b) 食事の後片づけ	1	2	3	4	5	
(c) 掃除	1	2	3	4	5	
(d) 洗濯	1	2	3	4	5	
(e) 食料品や日用品の買い物	1	2	3	4	5	
(f) ごみ出し	1	2	3	4	5	
(g) 子どもや孫の世話	1	2	3	4	5	6
(h) 父母・祖父母の介護	1	2	3	4	5	6
(i) 障害のある人の介助	1	2	3	4	5	6

問3 男性が家事・育児に参加するためにどのようなことが必要だと思いますか。次の中から必要だと思うものを選びください。(〇は3つまで)

- |    |   |
|----|---|
| 1  | 家事や育児に関する知識や技術の習得                         |
| 2  | 男性の仕事優先の考え方を見直し、家事・育児を担うという自覚             |
| 3  | 男性が家事や育児に参加することへの抵抗感をなくすこと                |
| 4  | 男性の家事や育児の講座                               |
| 5  | 家族（親子）で参加できる育児等の講座                        |
| 6  | 家族の話し合い                                   |
| 7  | 男女の役割分担についての社会通念、慣習等を見直し                  |
| 8  | 男女が家事を分担するような子どもからの育て方や教育                 |
| 9  | 労働時間の短縮                                   |
| 10 | 育児休暇制度の定着と休暇をとりやすい就労環境                    |
| 11 | 上記9や10のような就労環境の整備についての企業への啓発              |
| 12 | 男性の育児サークルの育成                              |
| 13 | その他（ <span style="float: right;">）</span> |

問4 生活の中での、仕事、家庭生活、個人の生活（地域活動、趣味・学習等）の優先度について、あてはまる①あなたの現状と②あなたの理想をお選びください。(①と②それぞれ〇は1つ)

	①現状	②理想
1 「仕事」を優先	1	1
2 「家庭生活」を優先	2	2
3 「個人の生活」を優先	3	3
4 「仕事」と「家庭生活」を共に優先	4	4
5 「仕事」と「個人の生活」を共に優先	5	5
6 「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先	6	6
7 「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先	7	7
8 わからない	8	8

## 2 地域・社会参加についてうかがいます

問5 次にあげる地域活動の中であなたが現在参加しているものをお選びください。(○はいくつでも)

- 1 町会や自治会等の地域活動
- 2 保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTA活動
- 3 子ども会や青少年スポーツチーム等の指導や世話
- 4 趣味やスポーツの活動
- 5 地域の仲間同士集まって行う研究会や勉強会
- 6 ボランティア活動(介護・介助等)
- 7 NPO活動(環境問題、消費者問題、リサイクル等)
- 8 参加している活動はない
- 9 その他( )

### 【問5で「1」～「7」のいずれかを選択した方】

問5-1 あなたが参加している地域活動の現状について、あてはまる考えをお選びください。(a から f それぞれ○は1つ)

	そう 思う	そう 思わ ない	ど ち ら も な い	わ か ら な い
(a) 催し物の企画等は主に男性が決定する	1	2	3	4
(b) 地域活動は男性が取り仕切る	1	2	3	4
(c) 集会等の時には、女性がお茶くみや片づけをしている	1	2	3	4
(d) 女性は役職につかたがらない	1	2	3	4
(e) 女性が発言することは少ない	1	2	3	4
(f) 実質的な活動はほとんど女性が参加する	1	2	3	4

問6 平成31年4月1日現在、福生市で設置している審議会(地方自治法202条の3)、委員会(180条の5)等の委員のうち、29.6%が女性です。これについてあなたはどのように思いますか。(○は1つ)

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 1 今のままでよい              | 4 特に男女の比率にはこだわらない |
| 2 もう少し女性が増えたほうがよい      | 5 わからない           |
| 3 男女半々くらいまで女性が増えたほうがよい | 6 その他( )          |

問7 政策や方針決定の場において女性の参画を進めるにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- 1 女性議員が増えること
- 2 男女の比率が偏らないように積極的に女性に参加してもらうこと
- 3 市、企業、各関係機関・団体等が女性の参画を推進すること
- 4 女性の人材等に関する情報の収集・整備・提供に努めること
- 5 女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること
- 6 女性が参画しなくても特に問題はないので、参画する必要はない
- 7 その他 ( )

問8 政治・経済・地域等の各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 現時点では、必要な知識や経験等を持つ女性が少ないこと
- 2 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
- 3 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
- 4 長時間労働の改善が十分ではないこと
- 5 企業等においては、管理職になると広域異動が増えること
- 6 保育・介護・家事等における夫等の家族の支援が十分ではないこと
- 7 保育・介護の支援等の公的サービスが十分ではないこと
- 8 特にない
- 9 わからない
- 10 その他 ( )

問9 東日本大震災や熊本地震等の発生により、男女共同参画の視点からの災害対応の重要性が高まっています。防災・災害復興対策において性別に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。(〇は3つまで)

- |                        |                    |
|------------------------|--------------------|
| 1 消防団員の配置・構成           | 7 災害時の正確・迅速な情報連絡体制 |
| 2 災害時要援護者の把握           | 8 防災対策を検討するメンバーの構成 |
| 3 避難所の設置・運営体制          | 9 特にない             |
| 4 被災者に対する相談受付体制        | 10 わからない           |
| 5 食料、飲料水、医薬品等の備蓄品や供給体制 | 11 その他 ( )         |
| 6 救援医療体制               |                    |



### 3 職業についてうかがいます

問 10 あなたは、1週間でおよそ何時間くらい働いていますか。(残業時間も含まず。)(○は1つ)

- |           |           |           |          |
|-----------|-----------|-----------|----------|
| 1 20時間未満  | 3 30～39時間 | 5 50～59時間 | 7 働いていない |
| 2 20～29時間 | 4 40～49時間 | 6 60時間以上  |          |

#### 【問 10 で「1」～「6」のいずれかを選択した方】

問 10-1 あなたの職場では現在、次にあげるような問題がありますか。(○はいくつでも)

- |                       |                         |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 特になし                | 8 女性には諸手当等で対象とならない不利がある |
| 2 女性の昇進・昇格が遅い、または望めない | 9 一定年齢の女性に対する退職圧力がある    |
| 3 同期の男女での賃金・昇給に格差がある  | 10 セクハラ(性的いやがらせ)がある     |
| 4 女性にはつけない職種・ポストがある   | 11 男性が育休を取得しづらい         |
| 5 人事異動等で女性には不利がある     | 12 長時間労働が常態化している        |
| 6 定年に男女差がある           | 13 その他( )               |
| 7 女性に結婚退職・出産退職等の慣例がある |                         |

問 11 あなたは、女性と職業の望ましい関わり方についてどのように思いますか。次の中から望ましいと思うものを1つだけお選びください。(○は1つ)

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1 結婚して子どもが生まれても職業をもち続ける         |
| 2 結婚するまでは職業をもつが、その後はもたない        |
| 3 結婚しても子どもができるまでは職業をもち、その後はもたない |
| 4 職業はすつともつが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る   |
| 5 職業はもたない                       |
| 6 わからない                         |
| 7 その他( )                        |

問 12 あなたは、育児休業・介護休業を取得しましたか。また、今後取得する予定がありますか。(①と②それぞれ○は1つ)

	①育児休業	②介護休業
1 取得した・取得する予定	1	1
2 制度はあるが、取得したことはない	2	2
3 制度がないため、取得できない	3	3
4 制度について知らなかったため、取得していない	4	4
5 休業取得に該当しない(子ども、介護が必要な親族はいない)	5	5
6 その他( )	6	6

**【問 12の①または②で「2」を選択した方】**

問 12-1 育児や介護の休業制度を利用しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- |                     |                         |
|---------------------|-------------------------|
| 1 経済的に生活が成り立たなくなるから | 6 一度休むと元の仕事に戻れないから      |
| 2 職場に休める雰囲気がないから    | 7 現在取り組んでいる仕事を続けたいから    |
| 3 休みを取ると勤務評価に影響するから | 8 家族の理解が得られないから         |
| 4 解雇される不安があるから      | 9 家族の協力で、利用しなくても対応できるから |
| 5 自分の仕事は代替りの人がいないから | 10 その他 ( )              |

問 13 女性が結婚・出産後も働き続けるため、また再就職するためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたのお考えに近いものをお選びください。(〇は3つまで)

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1 就職情報や紹介等の相談機関の充実      | 6 高齢者や障害者等の介護サービスの充実 |
| 2 技能修得のための研修の機会や施設の充実   | 7 家族の理解や協力           |
| 3 労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入 | 8 女性自身の働くことに対する自覚    |
| 4 保育施設や保育サービスの充実        | 9 必要なことはない           |
| 5 育児休業・介護休業制度の徹底        | 10 その他 ( )           |

問 14 今後、男女が共に仕事と生活の調和を図るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- |  |
|--|
| 1 長時間労働を是正し、家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること          |
| 2 男女の職場での雇用・昇進・待遇の格差をなくすこと                 |
| 3 男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事等に参加することへの抵抗感をなくすこと |
| 4 女性が男性の家事への参加に対する抵抗感をなくすこと                |
| 5 学校で男女平等意識を育てる教育をすること                     |
| 6 男女の役割分担をなくすための啓発を進めること                   |
| 7 わからない                                    |
| 8 その他 ( )                                  |

**4 介護・定年後についてうかがいます**

問 15 あなたは同居している家族に介護が必要になった場合、仕事をやめますか。実際に同居している家族がいらっしゃらない場合はいと仮定して、また、仕事をしていない場合はしていると仮定してお答えください。(〇は1つ)

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1 やめる       | 4 わからない   |
| 2 過去にやめた    | 5 その他 ( ) |
| 3 やめるつもりはない |           |

問 16 定年後の人生を男女が共に豊かに生きていく社会をつくるには、次のどのようなものが有効だと思いますか。  
(○はいくつでも)

- 1 健康・趣味・学習する場
- 2 健康・趣味・学習する場の情報を提供すること
- 3 これまでの技術や経験を生かせる場やそうした情報を収集する場（人材バンク等）
- 4 家事教室のような男女個々に自立し生活できるようにするための高齢者対象事業やプログラム
- 5 高齢者を対象としたイベント
- 6 子ども向けでない大人を対象としたコミュニティ施設（場）やレクリエーション施設（場）
- 7 市政等に市民が参加・参画できること
- 8 町会・自治会活動
- 9 ボランティア活動等地域に貢献する活動
- 10 その他（ ）

## 5 健康（性の権利・考え方）についてうかがいます

問 17 性の自己決定権（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）に基づいて、女性が妊娠、避妊、中絶に関して自分で決めたり、自分の健康を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

（※）性の自己決定権（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）とは、生涯自分らしく健康に生きるために、自分のからだや性に関することを自分で決める権利のことをいいます。

- 1 子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実
- 2 妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実
- 3 喫煙や薬物等の健康への害についての情報提供、相談体制の充実
- 4 性感染症等についての情報提供や相談体制の充実
- 5 更年期についての情報提供、相談体制の充実
- 6 わからない
- 7 その他（ ）

## 6 教育についてうかがいます

問 18 男女共同参画社会の形成のために行う教育の内容についてはどのようなことが重要だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 一人の人間として男女を互いに認め合うことを教える人権教育
- 2 男女の生き方や役割についての固定的な発想や役割分担意識を見直す教育
- 3 男女の差別についての社会構造・制度や歴史についての認識を深める教育
- 4 男女の生理的なメカニズムに関する教育
- 5 性に関する正しい知識と自己管理についての教育
- 6 重要だと思うものはない
- 7 その他 ( )

問 19 適切な性教育の重要性が言われていますが、あなたは子どもの性教育はどのように行うのが望ましいと思いますか。(○は2つまで)

- 1 学校で教師が男女一緒に行う
- 2 学校で教師が男女別々に行う
- 3 社会教育(講座・研修)等の場で専門家が行う
- 4 家庭で親が行う
- 5 性教育を行う必要はない
- 6 わからない
- 7 その他 ( )

## 7 男女の人権についてうかがいます

問 20 あなたは、配偶者や交際相手等から以下のような暴力を受けた経験はありますか。(○はいくつでも)

- 1 殴る、蹴るなどの身体に対する暴力(身体的暴力)
- 2 大声を出す、罵声を浴びせる、または恐怖を感じるような脅迫等(精神的暴力)
- 3 交友関係、電話・メール等を細かく監視し、行動を束縛する、外出等をさせてもらえない
- 4 無理やりに性的な行為を強要
- 5 生活費を渡さないなどの経済的暴力
- 6 暴力を受けた経験はない
- 7 その他 ( )

### 【問 20 で「1」～「6」のいずれかを選択した方】

問 20-1 そのとき、だれ(どこ)かに相談しましたか。(○はいくつでも)

- 1 警察・相談所に相談した
- 2 友人・知人に相談した
- 3 親に相談した
- 4 だれ(どこ)にも相談しなかった
- 5 その他 ( )

**【問 20-1で「4」を選択した方】**

問 20-2 だれ(どこ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

- 1 だれ(どこ)に相談してよいかわからなかった
- 2 公共の相談機関を知らなかった
- 3 恥ずかしくてだれにも言えなかった
- 4 相談しても無駄だと思った
- 5 相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思った
- 6 子どもに危害が及ぶと思った
- 7 他人を巻き込みたくなかった
- 8 自分にも悪いところがあると思った
- 9 相談するほどのことではないと思った
- 10 その他 ( )

問 21 ドメスティック・バイオレンス(DV)やセクシュアル・ハラスメント等の人権侵害をあらゆる分野からなくすためには、行政の取り組みとしてどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

- 1 相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発
- 2 不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり
- 3 DVやセクシュアル・ハラスメント等に対する罰則を強めた法律や規則等の整備
- 4 苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実
- 5 それぞれの気持ちの持ち方なのだから、特に必要なものはない
- 6 その他 ( )

## 8 男女共同参画社会の形成についてうかがいます

問 22 あなたは、次のような場で男女が平等になっていると思いますか。(a から h それぞれ○は1つ)

	男性の方が 優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	男女平等である	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が 優遇されている	わからない
(a) 家庭生活	1	2	3	4	5	6
(b) 職場	1	2	3	4	5	6
(c) 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
(d) 政治の場	1	2	3	4	5	6
(e) 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
(f) 社会通念・慣習・しきたり等	1	2	3	4	5	6
(g) 自治会やNPO等の地域活動の場	1	2	3	4	5	6
(h) 社会全体として	1	2	3	4	5	6

問 23 男女共同参画社会基本法に加え、女性活躍推進法が制定され、男女共同参画社会の形成に関する動きが高まっています。あなたはこのような男女共同参画に関する動きについてどの程度関心をお持ちですか。(○は1つ)

- |           |             |             |
|-----------|-------------|-------------|
| 1 大変関心がある | 3 どちらともいえない | 5 まったく関心がない |
| 2 まあ関心がある | 4 あまり関心がない  |             |

問 24 あなたは、次の「事柄」や「言葉」を知っていますか。(a からnそれぞれ○は1つ)

	知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない
<b>福生市のこれまでの施策・取り組み</b>			
(a) 男女共同参画情報誌「あなたとわたし」	1	2	3
(b) 女性悩みごと相談	1	2	3
(c) 男女共同参画講座(公民館)	1	2	3
(d) 福生市男女共同参画行動計画(平成 28 年度策定)	1	2	3
<b>男女共同参画に関わる言葉</b>			
(e) 男女共同参画社会基本法	1	2	3
(f) 男女雇用機会均等法	1	2	3
(g) 育児・介護休業法	1	2	3
(h) 女性活躍推進法	1	2	3
(i) ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3
(j) セクシュアル・ハラスメント	1	2	3
(k) パワー・ハラスメント	1	2	3
(l) マタニティ・ハラスメント	1	2	3
(m) ドメスティック・バイオレンス(DV)	1	2	3
(n) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性の自己決定権)	1	2	3

問 25 多様性を生かした社会づくりに向けて、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○は3つまで)

1 国際理解を深めるための講座や交流活動の充実
2 外国人に関する相談窓口の充実
3 性的少数者に配慮した職員の窓口対応の充実
4 性的少数者に関する相談窓口の充実
5 外国人、障害のある人、性的少数者の正しい理解に向けた啓発活動の推進
6 多様性の理解促進のための人権教育の充実
7 特にない
8 わからない
9 その他 ( )

問 26 男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことが重要だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 男女が共に家庭と仕事が両立できるような環境の整備を推進する
- 2 保育施設や保育サービスの充実を図る
- 3 職場における男女の平等な取り扱いを推進する
- 4 高齢者や障害者の施設、介護サービスの充実を図る
- 5 法律や制度の見直しをする
- 6 女性の就労機会の確保、女性の職業教育・職業訓練の充実に力を入れる
- 7 政策決定・方針決定の場への女性の積極的な登用を行う
- 8 学校・生涯学習の場での男女平等や相互理解についての学習機会を増やす
- 9 各種団体の女性リーダー養成の機会を設ける
- 10 広報誌やパンフレット等による啓発を図る
- 11 男女共同参画条例を制定する
- 12 男女共同参画センターのような拠点を設置する
- 13 防災・災害復興分野における女性の参画を推進する
- 14 わからない
- 15 その他 ( )



## 9 ご自身やご家族についてうかがいます

F1 あなたの性別を、お聞かせください。(○は1つ)

- |      |      |       |
|------|------|-------|
| 1 女性 | 2 男性 | 3 その他 |
|------|------|-------|

F2 あなたの年齢を次の中からお選びください。(○は1つ)

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 20～29 歳 | 3 40～49 歳 | 5 60～69 歳 |
| 2 30～39 歳 | 4 50～59 歳 | 6 70 歳以上  |

F3 あなたは現在ご結婚されていますか。(○は1つ)

- |      |            |      |
|------|------------|------|
| 1 既婚 | 2 既婚(離・死別) | 3 未婚 |
|------|------------|------|

### 【F3で「1」を選択した方】

F3-1 あなたの世帯は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- |               |               |       |
|---------------|---------------|-------|
| 1 共働き         | 3 妻だけ仕事を持っている | 5 その他 |
| 2 夫だけ仕事を持っている | 4 夫婦とも無職      | ( )   |

### 【F3-1で「1」～「3」のいずれかを選択した方】

F3-2 配偶者の職業は何ですか。(○は1つ)

- |                    |            |
|--------------------|------------|
| 1 企業・官公庁等の勤め人(正社員) | 6 内職・在宅ワーク |
| 2 パート・アルバイト        | 7 専業主婦(主夫) |
| 3 自営業(家族従業員含む)     | 8 学生       |
| 4 自由業              | 9 無職       |
| 5 派遣社員、契約社員        | 10 その他( )  |

### 【F3で「1」または「2」を選択した方】

F4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。現在お子さんと同居されていない方も含めて次の中からお選びください。(○は1つ)

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1 子どもがいる | 2 子どもはいない |
|----------|-----------|

### 【F4で「1」を選択した方】

F4-1 一番下のお子さんは次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- |           |                      |
|-----------|----------------------|
| 1 未就学児    | 4 短大生・大学生(専修学校生等も含む) |
| 2 小学生     | 5 社会人                |
| 3 中学生・高校生 | 6 その他( )             |

F5 あなたのご職業を次の中から選びください。(○は1つ)

1 企業・官公庁等の勤め人(正社員)	6 内職・在宅ワーク
2 パート・アルバイト	7 専業主婦(主夫)
3 自営業(家族従業員含む)	8 学生
4 自由業	9 無職
5 派遣社員、契約社員	10 その他( )

**【F5で「1」～「5」のいずれかを選択した方】**

F5-1 あなたの主な仕事場は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

1 福生市内	2 多摩地区	3 23区内	4 それ以外
--------	--------	--------	--------

F6 現在のあなたのお宅の家族構成を次の中から選びください。(○は1つ)

1 夫婦のみ(一世代家族)	4 親と子どもと孫(三世代家族)
2 親と未婚の子ども(核家族)	5 ひとり暮らし
3 親と子ども夫婦(二世世代家族)	6 その他( )

◎女性も男性も共にいきいきと暮らせる社会づくりに向けて、何かご意見がありましたらご自由にお書きください。


**質問は以上です。ご協力ありがとうございました。**

記入もれがないか、もう1度ご確認の上、同封の返信用封筒に入れ、封をして、  
切手を貼らずに**令和元年11月5日(火)**までに郵便ポストに投函してください。